

# 第9章 社会教育

## 第1節 概要

### 1 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、本県における家庭と地域社会の現状より、社会全体として子育て家庭を支援する必要等について審議することにより、提言「地域全体で子どもたちを育てる協働体制の実現に向けて～地域総ぐるみによる家庭教育・学校教育の充実を通じて～」をまとめ、進捗状況を検証してきた。（第2章 第7節に記載）

### 2 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、双方向性の協働体制のもと、地域が学校を支援していく活動だけでなく、学校も地域に貢献する活動を展開する「地域学校協働活動事業」をはじめ、子どもたちの健全育成と安心安全な活動拠点づくりを推進するための「放課後子ども教室事業」や、地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援活動事業」を実施するとともに、「学校・家庭・地域連携サポート事業」において、コーディネーターやボランティアを対象とした研修等を実施した。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

### 3 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業と連携する等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

### 4 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等

の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのために、「地域学校協働本部事業」を実施するとともに、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう、子どもと大人が、共通の体験をとおして、感動したことや共感したことを話し合い、また、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への思いを、日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七音で奏でよう絆ふれあい支援事業」を実施した。

### 5 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

### 6 子どもの読書活動推進

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとして、中高校生によるビブリオバトルを開催した。

### 7 ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

### 8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

#### (1) 事業1「ふくしまの心」を育む自然体験応援事業

子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために「『ふくしまの心』を育む自然体験応援事業」を実施し、東日本大震災後の自然体験の不足や体力の低下等を補うため、充実した自然体験活動等への取組を支援し、心身ともに健康な子どもの育成を図る団体に対し、補助金を交付した。

#### (2) 事業2「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

子どもたちが福島の今を伝える活動を行う中で主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことなど、その想いを具現化できる機会を提供するため、「『ふくしまの未来』へつなぐ体験応援事業」を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

## 第2節 社会教育一般

### 1 社会教育推進体制の充実

#### (1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日時 令和2年4月10日(金)

場所 自治会館

第2回 日時 令和3年2月5日(金)

場所 中町ビル ※一部リモート

#### (2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、自然の家へ社会教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

#### (3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

#### (4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

### 2 社会教育施設の整備充実

#### (1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

#### (2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ 市町村立図書館の整備促進

県立図書館が市町村立図書館を23自治体巡回し、図書館の運営相談や相互貸借資料等の搬送等を行った。

また、4支援教育機関も巡回しその連携体制の強化に努めた。

#### (3) 災害復旧国庫補助事業

激甚災害に指定された令和元年台風19号、20号及び21号で被災した公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、県及び6市町村(計12施設)について災害査定等の

事務を行った。

また、東日本大震災で被災した公立社会教育施設への補助金交付等の事務(1市1施設)及び未だ申請できない双葉地区等の市町村について情報収集を行った。

さらに、令和3年2月に発生した福島県沖を震源とする地震で被災した公立社会教育施設についても、情報収集を行い、復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

### 3 社会教育関係職員の研修

#### (1) 公民館職員研修会

ア 期日 令和2年5月18日(月)～29日(金)

※事前課題における自己研修(レポート)

令和2年9月18日(金)

イ 会場 各勤務地

福島県男女共生センター

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 57名

オ 講師

郡山市立中央公民館 主任 稲田 浩充

福島大学地域創造支援センター

副センター長・教授 木暮 照正

#### (2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 令和2年8月27日(木)～28日(金)

イ 会場 郡山市立中央公民館

ウ 参加対象 社会教育関係行政職員(公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当2年目以上の職員)、社会教育指導員等

エ 参加者数 1日目27名、2日目24名

オ 講師

郡山市立日和田公民館 館長 井上まゆみ

尚綱学院大学 教授 松田 道雄

白石市斎川公民館 館長 畑中多賀男

斎川まちづくり協議会 事務長 佐藤 幸枝

アオウゼ事業統括コーディネーター 馬場 雄基

福島県教育庁社会教育課

主任社会教育主事 関 忠昭

### 4 社会教育研究集会

(1) 主催 福島県市町村社会教育委員連絡協議会

一般社団法人全国社会教育委員連合

(2) 主管 南会津地区社会教育委員連絡協議会

(3) 後援 福島県教育委員会、南会津町・下郷町・檜枝岐村、只見町の各教育委員会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和3年度へ延期

## 5 社会教育指導員の設置

### (1) 設置数 (単位：人)

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
社会教育指導員数	34	16	12	51	8	11	6	138

### (2) 福島県市町村社会教育指導員研修会 (年2回)

#### ア 第1回

(ア) 期日 令和2年5月8日(水)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### イ 第2回

(イ) 期日 令和2年10月2日(金)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 6 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

## 7 社会教育研修会

### (1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

### (2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

### (3) 期日・会場

域内	期日	実施市町村等	参加者
県北	10月1日	大玉村	32名
県中	10月15日	田村市	32名
	12月4日	玉川村	17名
県南	9月18日	鮫川村	12名
	10月6日	塙町	13名
	11月25日	棚倉町	11名
会津	7月9日	金山町	6名
	7月29日	猪苗代町	10名
南会津	6月29日	下郷町	11名
	11月18日	檜枝岐村	3名
相双	7月20日	広野町	6名
	9月4日	大熊町	14名
	10月22日	新地町	14名
	11月11日	飯舘村	8名
いわき	10月2日	いわき市	45名

合計 15か所 参加者 234名

## 8 福島県公民館研究集会

(1) 期日 令和2年10月 ※紙面開催

(2) 参加対象 公民館職員等

## 9 社会教育職員研修派遣

### (1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主催 東北大学教育学部

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### (2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 令和2年7月27日(月)～8月24日(月)

b B講習 令和3年1月21日(木)～2月18日(木)

(ウ) 受講者数

a A講習 0名

b B講習 0名

イ 専門講座等

講座名	期間	受講者数
公民館職員専門講座	10月20日(火)～23日(金)	1

## 10 出版資料

資料名	部門	規格	頁数	広報手段
社会教育 No.341	社会教育	A4	12	Web掲載

## 第3節 地域コミュニティの再生

### 1 地域学校協働活動事業

#### (1) 目的

地域の総合窓口として「地域コーディネーター」を配置し、学校の窓口として「地域連携担当教職員」を置き、地域と学校が連携・協働のもと幅広い地域住民等が参画し、郷土学習や地域行事への参加等をとおして、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域づくりを推進する事業を展開する。

#### (2) 県事業

ア 評価・検証委員会の設置

第1回

期日：令和2年7月28日(火)

会場：杉妻会館

第2回

期日：令和2年11月26日(木)

会場：三春町中妻公民館

第3回

期日：令和3年2月15日(月)

会場：書面開催

イ 地域連携担当教職員等連絡協議会の実施

期日：令和2年10月21日(水)

会場9名、WEB 62名参加

講義：国立教育政策研究所 生涯学習政策研究総括  
研究官 志々田 まなみ

#### ウ 地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

期日：令和3年1月28日(木)

会場 14名、オンライン 193名参加

会場：郡山市立中央公民館・勤労青少年ホーム

実践発表：「～連携協働による地域づくり 東公民館  
の取組～」

会津若松市東公民館長 山内 久良

「～地域学校協働活動とコミュニティ・  
スクールの取組～」

大玉村学校支援コーディネーター

笹山 仁子

大玉村立玉井小学校地域連携担当教職員

尾形 陽介

「～放課後子ども教室の取組を通して～」

石川町教育委員会 角田 学

石川町放課後子ども教室コーディネーター

熊井 トシエ

基調講演：「地域学校協働活動によるコミュニティ  
再生」

檜葉町立檜葉南小学校教諭 猿渡 智衛

### (3) 市町村事業

ア 評価・検証委員会の実施

イ 地域学校協働活動事業の実施 21市町村

## 2 放課後子ども教室事業

### (1) 目的

すべての児童を対象とし、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室」を設置し、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所をつくる。

### (2) 県事業

ア 放課後子ども教室の実施

県立特別支援学校（2教室）

・福島県立聴覚支援学校平校

・福島県立平支援学校

### (3) 市町村事業

ア 運営委員会の実施

イ 子ども教室の実施

35市町村 121教室実施

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため1町で中止

## 3 学校支援活動事業

### (1) 目的

様々な体験・交流・学習活動等を通じて、子どもたちの社会性・創造性の豊かな人間性を涵養するとともに、地域の子もたちと大人の積極的な参加と交流による地域コミュニティの活性化と地域社会全体の教育力向上を図る。

### (2) 市町村委託

21の市町村（桑折町、国見町、大玉村、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、田村市、白河市、西郷村、棚倉町、会津若松市、柳津町、三島町、西会津町、浪江町、双葉町、富岡町、川内村、檜葉町）に33の地域学校協働本部が設置され実施した。

### (3) 市町村補助

なし

## 4 学校・家庭・地域連携サポート事業

### (1) 目的

地域学校協働本部事業にかかる研修会を実施し、地域連携担当教職員やコーディネーター等の養成と資質向上、それに携わるボランティア等の拡大及び学校の理解促進を図る。

### (2) 県事業

ア 地域学校協働活動研修会 8回

（地区別研修7回 全県研修1回）

#### 【全県研修】

期日 令和2年8月24日(月)

会場 コラッセ福島

参加者 59名（会場22名、WEB37名）

内容

講義

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の  
一体的推進」

福島県教育庁社会教育課 太田 徹  
行政説明

「令和3年度補助事業の構築に向けて」

福島県教育庁社会教育課 戸井田 修

#### 【県北地区】

第1回

期日 令和2年10月14日(水)

会場 松川学習センター

参加者 41名（会場25名、WEB16名）

内容 講話・情報交換

第2回

期日 令和2年10月28日(水)

会場 杉妻会館

参加者 56名（会場51名、WEB5名）

内容 講話・グループ協議

#### 【県中地区】

期日 令和2年8月5日(水)

会場 たまかわ文化体育館

参加者 36名

内容 講義・情報交換・講話・演習

#### 【県南地区】

期日 令和3年1月25日(月)

会場 オンライン研修

参加者 20名

内容 実践発表・協議・講義

**【会津地区】**

期 日 令和2年10月7日(水)  
 会 場 会津若松市東公民館  
 会津若松市立東山小学校  
 参加者 47名  
 内 容 講演・実践発表

**【南会津地区】**

期 日 令和2年8月21日(金)  
 会 場 南会津町御蔵入交流館  
 参加者 63名  
 内 容 実践発表・講話・演習

**【相双地区】**

期 日 令和2年12月2日(水)  
 会 場 南相馬市鹿島区万葉ふれあいセンター  
 参加者 40名  
 内 容 実践発表・情報交換

イ 地域連携担当教職員等研修会 地区別研修会7回

**【県北地区】**

期 日 令和3年2月  
 場 所 書面研修  
 参加者 域内小・中・高校 163校配付  
 内 容 書面配付

**【県中地区】**

期 日 令和2年7月1日(水)  
 場 所 郡山市労働福祉会館  
 参加者 85名  
 内 容 講話・講演・事例紹介

**【県南地区】**

第1回  
 期 日 令和2年8月4日(火)～25日(火)  
 会 場 動画配信による研修  
 参加者 67名  
 内 容 動画配信、アンケート回収  
 第2回  
 期 日 令和2年11月2日(月)  
 会 場 平田村立小平小学校(オンライン研修)  
 参加者 53名  
 内 容 動画視聴・鼎談

**【会津地区】**

期 日 令和2年11月26日(木)  
 場 所 やないづふれあい館  
 参加者 61名  
 内 容 講話・講演・実践発表

**【南会津地区】**

期 日 令和2年7月10日(金)  
 場 所 南会津町御蔵入交流館  
 参加者 34名  
 内 容 講話・講演・実践発表

**【相双地区】**

期 日 令和2年7月29日(水)

場 所 南相馬市鹿島区万葉ふれあいセンター  
 参加者 60名  
 内 容 講話・講演・実践事例発表

**【いわき地区】**

期 日 令和2年10月2日(金)  
 場 所 いわき労働福祉会館  
 参加者 45名  
 内 容 講話1・2

**5 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業****(1) 目的**

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館(あづま号)の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

**(2) 内容**

ア 震災及び原発事故関連資料収集  
 資料収集件数 13,672件(累計)  
 イ 避難自治体支援  
 移動図書館(あづま号)による資料貸出  
 稼働12回 貸出2,103冊  
 (開催場所 飯館村、楢葉町ほか 計18か所)

**第4節 家庭教育****1 地域でつながる家庭教育応援事業****(1) 目的**

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進する。

**(2) 家庭教育応援プロジェクト**

ア 福島県地域家庭教育推進協議会  
 第1回 令和2年6月1日(月) 杉妻会館  
 第2回 令和3年2月26日(金) ※書面開催  
 イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議  
 各教育事務所域内(7か所)  
 各地区2回実施(6月～2月)  
 ウ 家庭教育応援企業推進活動  
 連携企業数  
 県北地区 5社(189社)  
 県中地区 5社(246社)  
 県南地区 2社(73社)  
 会津地区 1社(147社)  
 南会津地区 1社(66社)  
 相双地区 0社(10社)

いわき地区 73社 (132社)

計 87社 (863社) ※ ( ) 累計

エ 親子の学び応援講座

【県北地区】

- ・川俣町PTA連絡協議会 69名  
令和2年11月9日(月)  
「子どもをのばすコーチング 子どものやる気や意欲を高めるための家庭の関わり方～『自己肯定感を育むために』～」  
スタイルプロデュースコミュニケーションズ 門馬 俊光

【県中地区】

- ・須賀川市立長沼幼稚園PTAほか 70名  
令和2年9月10日(木)  
「おやこでいっしょにリトミック」  
NPO法人福島県音楽療法士協会理事長 齋藤 由香  
国際ビジネス公務員大学校こども保育科 堀越 啓子、國分 千恵

【県南地区】

- ・熊倉小学校PTA・西郷第一中学校区PTA 43名  
令和2年11月19日(木)  
「親業・・・数値化できない力を育む」  
～大切なのは、家庭内でのコミュニケーション～  
親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子

【会津地区】

- ・金山町立金山中学校父母と教師の会ほか 90名  
令和2年7月27日(月)  
「インターネット・スマホと上手につきあうために～ネット依存やSNSトラブルから自分を守ろう～」  
会津大学短期学部産業情報学科 教授 中澤 真

【南会津地区】

- ・荒海小・中学校PTA 34名  
令和2年10月1日(木)  
「家庭教育は、子どもの『自己肯定感』と『生きる力』を育む原点～親も教師も手を携えて、心通わすコミュニケーションを～」  
親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子

- ・明和小学校・只見中学校PTA 53名  
令和2年12月3日(木)  
「AI・IoT時代の望ましい意思決定・行動選択とは」  
福島県生徒指導アドバイザー 目黒 朋子

【いわき地区】

- ・いわき市立錦小学校PTA 68名  
令和2年10月8日(木)  
「コーディネーション運動を楽しもう！」  
いわきFCパークアカデミーISSA担当 阿部 隼人
- ・いわき市立高野小学校PTA 53名  
令和2年11月27日(金)  
「コロナ禍における家庭教育推進のあり方」  
医療創生大学心理学部 教授 中尾 剛

(3) 家庭教育応援リーダー育成事業

ア 家庭教育支援者全県研修

令和2年7月5日(日)ビッグパレットふくしま ※中止

イ 家庭教育支援者地区別研修 7地区 367名

【県北地区】

令和2年11月19日(水) 県青少年会館 25名  
講演

「face to face 自己肯定感を育む支援の在り方」  
明日飛子ども自立の里 理事長 清水 国明  
演習  
「自己肯定感の形成に向けて家庭や地域でできること」  
明日飛子ども自立の里 理事長 清水 国明

【県中地区】

令和2年11月28日(土) 郡山市労働福祉会館 37名  
活動紹介1

「子どもも大人も安心して暮らせる街づくり」  
特定非営利活動法人ぴいかあぶう理事長 吉田 一也

活動紹介2

「はじめの一步から11年目を迎えて」  
喜多方市家庭教育支援チーム“もも”代表 幸田 久美子

講演

「家族の変化と地域の家庭教育支援」  
郡山女子短期大学部地域創成学科教授 知野 愛

【県南地区】

令和3年1月29日(金) 新白信ビル 28名  
講演

「ゲーム・ネットの心身への影響や依存症、望ましい付き合い方」  
けやき心の発達診療所 所長 角田 智哉

活動紹介

「特定非営利活動法人 子育て環境を考える虹の会」  
特定非営利活動法人 子育て環境を考える虹の会  
理事長 永野 美代子

【会津地区】

令和2年11月19日(水) 会津若松市北会津公民館 44名  
講義・演習

「子どもが学校に行けなくなった時の支援～家族療法を支援に活かす～」

公認心理師 新潟県新潟市スクールカウンセラー 佐藤 真奈美

【南会津地区】

令和2年11月21日(土) 下郷ふれあいセンター 110名  
主張発表 「テーマ：家族」南会津域内の小中学生  
「兄弟へのおもい」 只見小学校6年 五十嵐 創生  
「会いたいけど コロナで会えない」  
旭田小学校6年 伊関 錦  
「あたりまえのこと」 桧枝岐中学校3年 橘 優太  
「祖母の枝豆」 田島中学校3年 馬場 日菜香

親子で体験（コース選択制）

コース①

「世界に一つだけのピノキオを作ってみよう」

株式会社マストロ・ジェッペット 渡部 安衣

コース②「スライムとバスボムを作ってみよう」

南会津町社会教育指導員 五十嵐 園美

コース③

「オリジナルの凧を作って大空に飛ばしてみよう」

ムシテックワールド講師 星 周一

講演会

「子育ては日々65点～がんばりすぎなくていいんだよ～」

コミュニケーションクリエイター ちやい文々

【相双地区】

令和2年11月14日（土）南相馬市原町区福祉会館 33名

講義・演習

「子育てに生かすアンガーマネジメント」

日本アンガーマネジメント協会

アンガーマネジメントファシリテーター

特定非営利活動法人きぼう副理事長 新妻 直恵

講義・演習

「コロナ禍の今こそ、読み聞かせの大切さ」

絵本専門士 J P I C 読書アドバイザー

南相馬市立中央図書館主任司書 佐藤 真紀

【いわき地区】

令和2年10月30日（金）いわき市文化センター 90名

講義

「子育てが楽しくなる～子どもの心に届くことば～」

N P O 法人親子コミュニケーションラボ

代表理事 天野 ひかり

講義

「新型コロナウイルス状況下における子どもの心のケアについて」

いわき市子どものこころアドバイザー

医療創生大学特任准教授 久保 尊洋

・事務局長（社会教育課長）

・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）

(イ) 内容

・「学習支援等ボランティア人材バンク」の管理と学習支援等ボランティア等（以下「ボランティア」という。）の登録促進に関する事

・ボランティアの活動を推進する研修に関する事

・実践事例などの情報収集や情報提供、実施状況調査に関する事

・地域本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事

イ 地域本部の設置

(ア) 構成

・本部長（教育事務所長）

・副本部長（次長兼総務社会教育課長）

・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(イ) 内容

・公民館及び学校の訪問指導に関する事

・ボランティア人材の発掘と「学習支援等ボランティア人材バンク」の活用に関する事

・ボランティアの活動を推進する研修に関する事

・市町村本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事

・各学校（地域学校協働推進委員会等）との連絡調整に関する事

・地方振興局（復興支援・地域連携室を含む）との連絡調整に関する事

ウ 市町村本部の設置

(ア) 構成

・各市町村内においては、自主的に地域学校協働本部・市町村本部を設置する。

・各市町村本部の人数は各本部の計画による。

(イ) 内容

・ボランティア活動を推進するための、情報提供・相談及びコーディネートに関する事

・各種ボランティアの登録や活用の推進及び活用状況の把握に関する事

・域内各学校との連携に関する事

エ 「地域学校協働推進委員会」の設置

(ア) 構成

・各学校内に地域学校協働推進委員会を設置する。

・地域学校協働推進委員会の組織は各学校の計画による。

(イ) 内容

・学校と地域が連携した取組の調整に関する事

・学校と地域が連携した取組の連絡や情報収集に関する事

・学校と地域が連携した取組の充実に関する事

・福島県地域学校協働本部事業における地域学校協働推進委員会に関する事

## 第5節 青少年教育

### 1 地域学校協働本部事業

#### (1) 目的

青少年及びその保護者の教育活動等を支援するボランティア制度を整備し、学校・家庭・地域における体験活動やボランティア活動の充実を図るとともに、学校と地域が連携したすべての教育活動を一層効果的・効率的に展開することにより、青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むことを目的とする。

#### (2) 内容

ア 県本部の設置

(ア) 構成

・本部長（政策監）

・副本部長（教育総務課長）

オ 「学習支援ボランティア人材バンク」の管理  
学校や地域における青少年の学習活動や体験活動、  
児童生徒が行うボランティア活動を支援する団体及び  
人材の登録を行う。

## 2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

### (1) 目的

家庭や地域における人と人とのかかわりの中で感じた思いや願いを十七音で表現することを通して、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

また、全国に避難している方からも作品を募集し「ふくしま」のことを考えるきっかけとする。

### (2) 内容

ア 応募期間 令和2年6月15日(月)～8月31日(月)

イ 応募総数 39,104組

ウ 作品集編集委員会 令和2年10月26日(月)

エ 作品集編集委員 退職校長会

オ 表彰式 令和2年12月12日(土)  
ホテル福島グリーンパレス

カ 入賞数 絆部門・復興部門・ふくしま応援部門  
最優秀賞各5組、優秀賞各5組、  
佳作各10組

キ ワークショップ

福島市開催 令和2年8月1日(土)  
講師 福島県企画調整課長  
高橋 洋平

参加者 71名

富岡町開催 令和2年8月12日(水)  
講師 福島大学 特任教授  
天野 和彦

参加者 23名

福島市開催 令和2年12月12日(土)  
講師 新地町教育委員会教育長  
佐々木 孝司  
県立本宮高等学校教諭・詩人  
和合 亮一

参加者 63名

### (3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各保育所、認定こども園、幼稚園、小・中学校、高等学校、義務教育学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページ、県公式 Twitter に掲載した。

イ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、作品集の作成、配布により紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

## 第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

## 第7節 子どもの読書活動推進

### 1 ふくしまの未来をひらく読書のカ プロジェクト

#### (1) 福島県子ども読書活動推進会議

【第1回】令和2年7月17日(金)  
杉妻会館3階「百合A」

【第2回】令和3年1月27日(水)  
(書面開催)

ア 目的

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

イ 子ども読書推進会議委員

氏名	職業等	区分
高野 保夫	国立大学法人福島大学名誉教授	学識経験者
加藤 潤一	福島県高等学校PTA連合会副会長	社会教育関係者
古川 次男	福島県学校図書館協議会会長	学校図書館関係者
籠田 まき子	小野町ふるさと文化の館副主幹	公立図書館等関係者
武田 繁子	家庭教育インストラクター	家庭教育関係者
藍原 恵美子	NPO 法人夢ネットワーク理事長	読書活動に係るボランティア団体関係者
桑原 真希	平田村立ひらたこども園保育教諭	保育所・幼稚園等の関係者

#### (2) 読書活動支援者育成事業

【県北地区】	令和2年12月6日(日) 自治会館	受講者 58名
【県中地区】	令和2年12月8日(火) 郡山市立中央公民館	受講者 38名
【県南地区】	令和2年11月18日(水) 白河合同庁舎	受講者 36名
【会津地区】	令和2年11月6日(金) じげんプラザ	受講者 63名
【南会津地区】	令和2年8月4日(火) 只見町朝日振興センター	受講者 48名
【相双地区】	令和3年1月20日(水) 環境放射線センター	受講者 32名
【いわき地区】	令和2年11月6日(金) いわき市文化センター	受講者 70名
【中通り地区】	令和2年9月5日(土) 福島県立図書館	受講者 32名

【浜通り地区】 令和2年10月3日(土)  
 いわき市文化センター 受講者 76名  
 【会津地区】 令和2年9月26日(土)  
 会津若松市文化センター 受講者 55名

**(3) 発達段階に応じた読書活動推進事業**  
**「読みたい 知りたい 薦めたい**  
**～新しい生活様式と読書～**

期日：令和2年8月6日(木)  
 場所：白河文化交流館コミネス 受講者 130名  
 内容  
 乳幼児期における読書活動推進のために  
 講演：「乳幼児と楽しむ絵本」  
 浦安市教育委員会こども図書館準備室長 島本 まり子  
 小学校期における読書活動推進のために  
 講義・演習：「本との出会いを楽しもうーブックトークでー」  
 埼玉県三芳町立中央図書館長 代田 知子  
 中高校期における読書活動推進のために  
 講義・演習：「読む楽しみ 話す喜び」  
 活字文化推進会議事務局 和田 浩二  
 早稲田大学大学院 中村 朱里

図書館紹介

「泉崎図書館の取組」 泉崎図書館司書 野崎 珠美

**(4) 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」**

期日：令和2年11月28日(土)

場所：福島県文化センター  
 参加者：発表者 16名 (中学生 11名、高校生 5名)  
 観戦者 145名

【中学生の部】

優勝 南会津町立田島中学校 細井 淳一郎  
 「夜市」恒川光太郎  
 準優勝 ふたば未来学園中学校 加藤 明日香  
 「人生はニャンとかなる！」水野敬也・長沼直樹  
 優秀賞 喜多方市立第三中学校 佐藤 帆乃佳  
 「おかえりの神様」鈴森丹子  
 玉川村立玉川中学校 有賀 きらり  
 「きらきら眼鏡」森沢明夫

【高校生の部】

優勝 福島県立磐城高等学校 関根 海人  
 「余命10年」小坂流加  
 準優勝 福島県立白河旭高等学校 東風谷 朋美  
 「アリエナクナイ科学ノ教科書」くられ  
 優秀賞 福島県立須賀川桐陽高等学校 七海 千夏  
 「ショコラ」ジョアン・ハリス  
 福島県立喜多方高等学校 原 愛美  
 「119」長岡弘樹  
 福島県立会津農林高等学校 栗城 題  
 「ボブという名のストリート・キャット」  
 ジェームズ・ボーエン

## 第8節 ユネスコ活動

### 1 ユネスコ協会事務局一覧

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	八木沼 智恵子	須賀川市教委生涯学習スポーツ課内 須賀川市八幡町135	河村 朝子	S46. 9. 13
いわきユネスコ協会	西山 允雄	いわき市教委生涯学習課内 いわき市堂根町4-8	佐久間静子	S51. 10. 23
郡山ユネスコ協会	倉又 晴男	学校法人尚志学園高等学校内 郡山市大槻町字坦ノ腰2	宗像 金三	S53. 1. 24
白河ユネスコ協会	小野 利廣	白河市教委生涯学習スポーツ課内 白河市八幡小路7-1	小松 寛	S53. 11. 19
福島ユネスコ協会	黒澤 宜昭	福島市中央学習センター内 福島市松木町1-7	宗川 孝	S55. 7. 19
会津ユネスコ協会	吉田 幸代	会津若松市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町3-50	石田 明夫	S55. 11. 16
郡山次世代ユネスコ協会	大本 研二	学校法人こおりやま東都学園本部気付 郡山市図景2-9-3	鈴木秀太郎	H28. 1. 16
福島県ユネスコ連絡協議会	吉田 幸代	福島市笹木野字中西表60-6 近野元洋宅	近野 元洋	S56. 12. 5

### 2 福島県ユネスコ活動研修会

令和2年11月18日(水) 須賀川市・テッテ (須賀川市市民交流センター)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 第9節 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

### 1 「ふくしまの心」を育む自然体験応援事業

#### (1) 内容

対象者：福島県内の小中学校及び特別支援学校小学部・中学部、福島県内の幼稚園、保育所（認可外保育施設を含む。）、特別支援学校幼稚園及び認定こども園、福島県内の小中学生が所属する社会教育団体

対象期間：令和2年4月10日(金)～令和3年2月28日(日)

実施内容：ア 小中学生を対象とした宿泊を伴う自然体験活動への補助

イ 保育所・幼稚園の幼児を対象とした体力向上等を目的とした自然体験活動への補助

ウ 社会教育団体が行う小中学生を対象とした長期宿泊型（4泊5日以上）の自然体験活動への補助

補助について：①活動費、②交通費、③宿泊費について、補助対象経費の80%以内か100万円の低い方

#### (2) 実績

ア 小・中学校自然体験活動支援事業

件数：109件 参加者：5,232名（うち子ども4,694名）

イ 幼稚園・保育園自然体験活動支援事業

件数：9件 参加者：321名（うち子ども255名）

ウ 社会教育団体自然体験活動支援事業

件数：0件 参加者：0名（うち子ども0名）

### 2 心のケアが必要な子どもを対象とした事業

#### (1) 内容

対象者：県内の不登校等で不安を抱えている子ども及び引率者等

対象期間：令和2年6月10日(水)～令和3年2月28日(日)

実施内容：県内3自然の家（郡山・会津・いわき）を会場に、不登校等で不安を抱えている子どもたちを対象に、自然体験活動や交流体験活動等を実施する。

#### (2) 実績

○郡山自然の家

実施日	主な内容	参加者数
7月15日(水)	新しい生活スタイルと自分 「自然の中で、いっぱい体を動かそう。」	児童生徒、保護者、スタッフ 6名
9月26日(土)	発見、今の自分、そして未来の自分 「さあ、顔をあげて自分の可能性を信じよう。」	児童生徒、保護者、スタッフ 7名
10月7日(水)	おいしい自然、満喫しよう 「自然の中で楽しく活動しよう！」	児童生徒、保護者、スタッフ 44名
12月12日(土)	番外編 「自然の家で様々な体験をしよう。」	児童生徒、保護者、スタッフ 16名
12月13日(日)	作って感じる、今の自分 「自分にご褒美、家族にご褒美！」	児童生徒、保護者、スタッフ 15名

○会津自然の家

実施日	主な内容	参加者数
11月7日(土)～8日(日) ※1泊2日	自然体験、カヌー、フィールドアスレチック等の自然体験	児童、講師 3名
2月4日(木)、5日(金) 12日(金)、16日(火) 18日(木)	そり遊び、雪像作り等を中心とした雪上体験	児童、保護者 22名
3月4日(木)～5日(金) ※1泊2日	そり遊び、雪像作り等を中心とした雪上体験、 室内でのニュースポーツ体験、室内テント泊体験	児童、保護者 9名
3月13日(土)	室内でのニュースポーツ体験とクラブ活動 ※雪不足のため、雪上体験は中止	児童、保護者 12名

※8月に予定していた事業は新型コロナウイルス感染症対策のため中止

○いわき海浜自然の家

実施日	主な内容	参加者数
7月6日(月)	魚釣り、磯遊び、室内ゲーム等	児童生徒、スタッフ 12名
10月9日(金)	野外炊飯、オリエンテーリング等	児童生徒、スタッフ 18名
2月5日(金)	スポーツ交流、創作活動等	児童生徒、スタッフ 13名

### 3 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

(1) 内容

- 事業1 ふくしまの元気を届ける体験事業
- 事業2 ふくしまの今を発信体験事業
- 事業3 ふくしまを創る起業体験事業

(2) 実績

- 応募団体 60団体
- 採択団体 29団体
- 補助金額 20,221千円

## 第10節 公民館等社会教育施設

### 1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

ア 県立

名称	所在地	電話番号	設置者
福島県立図書館	福島市森合字西養山1	024-535-3220	福島県

イ 市町村立

名称	所在地	電話番号	設置者
福島市立図書館	福島市松木町1-1	024-531-6551	福島市
福島市西口ライブラリー	福島市三河南町1-20	024-525-4023	福島市
福島市子どもライブラリー	福島市早稲町1-1 (こむこむ内)	024-526-4200	福島市
伊達市立図書館	伊達市箱崎字川端7	024-551-2132	伊達市
国見町図書館	国見町大字藤田字観月台15	024-585-2676	国見町
二本松市立二本松図書館	二本松市本町1丁目102番地	0243-23-5082	二本松市
二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町242番地	0243-55-3255	二本松市
しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎500	0243-44-2112	本宮市
郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目5-25	024-923-6601	郡山市
郡山市中央図書館田村分館	郡山市田村町岩作字穂多礼40-3	024-955-3842	郡山市
郡山市中央図書館喜久田分館	郡山市喜久田堀之内字下河原1	024-959-2205	郡山市
郡山市中央図書館緑ヶ丘分館	郡山市緑ヶ丘東三丁目1-21	024-944-0001	郡山市
郡山市中央図書館日和田分館	郡山市日和田町字小堰23-4	024-958-2352	郡山市
郡山市中央図書館三穂田分館	郡山市三穂田町字東屋敷6	024-953-2820	郡山市
郡山市中央図書館中田分館	郡山市中田町下枝字大平358	024-973-2951	郡山市
郡山市中央図書館西田分館	郡山市西田町三丁目桜内259	024-972-2807	郡山市
郡山市中央図書館大槻分館	郡山市大槻町字中前田56	024-951-1512	郡山市
郡山市中央図書館熱海分館	郡山市熱海町熱海二丁目15-1	024-984-2679	郡山市
郡山市中央図書館湖南分館(仮開館)	郡山市湖南町福良字家老9390-4	024-983-2543	郡山市
郡山市中央図書館富田分館	郡山市東三丁目84番地	024-951-0260	郡山市
郡山市中央図書館逢瀬分館	郡山市逢瀬町多田野字南原3番地	024-957-2417	郡山市
郡山市中央図書館片平分館	郡山市片平町字南7-2	024-957-5730	郡山市
郡山市希望ヶ丘図書館	郡山市希望ヶ丘1-5	024-961-1600	郡山市
郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目38	024-946-8850	郡山市
郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎181-1	024-921-0030	郡山市
須賀川市中央図書館	須賀川市中町4-1	0248-75-3309	須賀川市
須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町85	0248-67-2138	須賀川市
須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前22	0248-65-3549	須賀川市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
鏡石町図書館	鏡石町旭町 440-6	0248-62-1288	鏡石町
石川町立図書館	石川町字関根 165	0247-26-9136	石川町
浅川町立あさかわ図書館	浅川町大字箕輪字山敷田 75	0247-36-2900	浅川町
古殿町図書館	古殿町大字松川字横川 235	0247-53-2305	古殿町
三春町民図書館	三春町字大町 12-1	0247-62-3375	三春町
小野町ふるさと文化の館・図書館	小野町大字小野新町字中通 2	0247-72-2120	小野町
田村市図書館	田村市船引町船引字扇田 19	0247-82-1001	田村市
田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町 48-1	0247-78-2001	田村市
田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字元池 87 番地 5	0247-79-2161	田村市
田村市図書館常葉分館	田村市常葉町常葉字町裏 1	0247-77-2013	田村市
田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字本町 33-4	0247-75-2063	田村市
白河市立図書館	白河市道場小路 96-5	0248-23-3250	白河市
白河市立表郷図書館	白河市表郷金山字長者久保 2	0248-32-4784	白河市
白河市立東図書館	白河市東釜子字狐内 47	0248-34-1130	白河市
白河市立大信図書館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
矢吹町図書館	矢吹町本町 165	0248-44-3595	矢吹町
泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字館 24-9	0248-53-4779	泉崎村
棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字棚倉字森町 21-1	0247-33-4342	棚倉町
塙町立図書館	塙町大字塙字栄町 68-6	0247-43-0808	塙町
矢祭もったいない図書館	矢祭町大字東館字石田 25	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字新宿 64-2	0247-29-1150	鮫川村
会津若松市立会津図書館	会津若松市栄町 3-50	0242-22-4711	会津若松市
猪苗代町図書館歴史情報館	猪苗代町字古城町 132-2	0242-23-7855	猪苗代町
喜多方市立図書館	喜多方市字柳原 7503-1	0241-22-1855	喜多方市
会津美里町図書館	会津美里町字新布才地 1	0242-54-2911	会津美里町
南会津町図書館	南会津町田島字宮本東 22	0241-62-5522	南会津町
相馬市図書館	相馬市中村字塚ノ町 65-16	0244-37-2630	相馬市
新地町図書館	新地町谷地小屋字樋掛田 40-1	0244-62-5031	新地町
南相馬市立中央図書館	南相馬市原町区朝日町二丁目 7-1	0244-23-7789	南相馬市
南相馬市立鹿島図書館	南相馬市鹿島区寺内字迎田 22-1	0244-46-5116	南相馬市
南相馬市立小高図書館	南相馬市小高区本町二丁目 89-1	0244-44-3049	南相馬市
浪江町図書館（休館中）	浪江町権現堂字矢沢町 6-1	0240-34-3941	浪江町
双葉町図書館（休館中）	双葉町大字長塚字鬼木 1	0240-33-4214	双葉町
大熊町図書館（休館中）	大熊町大字下野上字大野 669-3	0240-32-3011	大熊町
富岡町図書館	富岡町大字本岡字玉塚 622-1	0240-21-3665	富岡町
いわき市立いわき総合図書館	いわき市平字田町 120	0246-22-5552	いわき市
いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下 40-1	0246-45-1030	いわき市
いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜愛宕上 7-2	0246-54-9257	いわき市
いわき市立常磐図書館	いわき市常磐関船町作田 1-1	0246-44-6218	いわき市
いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町一丁目 2-2	0246-62-7431	いわき市
いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東一丁目 50	0246-32-5980	いわき市

#### ウ 法人

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
クローバー子供図書館	郡山市開成 6 丁目 346-1	024-932-2118	公益財団法人

## (2) 博物館の設置状況

### ア 登録博物館

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	登録年月日
福島県立美術館	福島市森合字西養山 1	024-531-5511	福島県	美術博物館	59.7.16
福島県立博物館	会津若松市城東町 1-25 号	0242-28-6000	福島県	総合博物館	61.11.28
須賀川市立博物館	須賀川市池上町 6	0248-75-3239	須賀川市	歴史博物館	46.7.10
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町 4-4	0246-25-1111	いわき市	美術博物館	59.9.3
郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地 130-2	024-956-2200	郡山市	美術博物館	平 5.1.20
南相馬市博物館	南相馬市原町区牛来字出口 194	0244-23-6421	南相馬市	総合博物館	平 8.5.9
野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田 81	0242-85-7867	(公財)野口英世記念会	歴史博物館	29.10.21
会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田 33-1	0242-65-2600	会津民俗館	歴史博物館	55.10.3
白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八幡字弁天下 33	0242-24-9170	(一財)白虎隊記念館	歴史博物館	63.6.30
奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山 3692-20	0241-66-3077	南会津町	歴史博物館	平 21.6.16
諸橋近代美術館	北塩原村大字松原字剣ヶ峰 1093-23	0241-37-1088	(公財)諸橋近代美術館	美術博物館	平 11.8.17
藤田記念博物館	白河市二番町 46-1	0248-24-1780	(公財)藤田教育振興会	美術博物館	54.9.1
CCGA 現代グラフィックアートセンター	須賀川市塩田宮田 1	0248-79-4811	(公財)DNP 文化振興財団	美術博物館	平 25.12.25

### イ 博物館相当施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	指定年月日
やないづ町立齋藤清美術館	柳津町柳津字下平乙 187	0241-42-3630	柳津町	美術博物館	平 11.9.28
龍が城美術館 (休館中)	いわき市平字旧城跡 27-1	0246-22-1601	(一財)白龍会	美術博物館	30.2.10
会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石山学院内 1	0242-28-2525	(株)会津武家屋敷	歴史博物館	56.11.25
安積歴史博物館	郡山市開成 5-25-63	024-938-0778	(公財)安積歴史博物館	歴史博物館	59.9.8
磐梯山噴火記念館	北塩原村松原字剣ヶ峰 1093-36	0241-32-2888	(株)ゴールドハウス目黒	科学博物館	平 5.7.1
會津藩校日新館	会津若松市河東町南高野字高塚山 10 番地	0242-75-2525	(株)会津武家屋敷	歴史博物館	平 12.11.28
はじまりの美術館	猪苗代町新町 4873	0242-62-3454	(福)安積愛育園	美術博物館	平 28.12.6

### ウ 類似施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町 50	0246-73-2525	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段 86	0248-21-0700	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町 5-54	024-534-9195	福島県
ふれあい歴史館 (福島市資料展示室)	福島市松山町 39-1	024-563-7858	福島市
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内	024-593-5249	福島市
福島市古閑裕而記念館	福島市入江町 1-1	024-531-3012	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町 11-36	024-523-1201	福島市
宮畑遺跡史跡公園体験学習施設	福島市岡島字宮田 78	024-573-0015	福島市
羽山の森美術館	川俣町大字西福沢字山柄内 20	024-566-3367	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町 10	024-527-2656	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇 265	024-575-1615	伊達市
霊山こどもの村 遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢 9-1	024-589-2211	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町 1-102	0243-23-3910	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町 36	0243-22-6151	二本松市
二本松市大山忠作美術館	二本松市本町 2-3-1	0243-24-1217	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵 183	0243-48-2569	大玉村
本宮市立歴史民俗資料館	本宮市字南町裡 130	0243-33-2546	本宮市
本宮市白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎 494-44	0243-44-3185	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成 3-3-7	024-923-2157	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山 1-8-3	024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町 3-5	024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前 2-11-1 ビッグアイ 20F~24F	024-936-0201	郡山市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
須賀川市歴史民俗資料館	須賀川市長沼字門口 186	0248-67-2030	須賀川市
鏡石町歴史民俗資料館	鏡石町成田 343	0248-62-4323	鏡石町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石 1-2	0248-81-1030	天栄村
石川町立歴史民俗資料館	石川町字高田 200-2	0247-26-3768	石川町
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地 144-6	0247-36-2134	浅川町
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下 287	0247-36-4129	財団法人
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷 5	0247-62-5263	三春町
三春郷土人形館	三春町字大町 30	0247-62-7053	三春町
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通 2	0247-72-2120	小野町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前 196 番地	0247-81-1215	田村市
白河市歴史民俗資料館	白河市中田 7-1	0248-27-2310	白河市
小峰城歴史館（旧 白河集古苑）	白河市郭内 1-73	0248-24-5050	白河市
中山義秀記念文学館（義秀展示館）	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
西郷村歴史民俗資料館	西郷村大字小田倉字上野原 463	0248-25-0959	西郷村
矢吹町ふるさとの森芸術村	矢吹町大池 243-2	0248-42-4506	矢吹町
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字館 24-9	0248-53-4777	泉崎村
塙町立あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元 86-2	0247-42-2510	塙町
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東館字石田 25	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村歴史民俗資料館	鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作 128-4	0247-49-3106	鮫川村
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町 8-1	0242-27-2472	会津若松市
若松城天守閣郷土博物館	会津若松市追手町 1-1	0242-27-4005	会津若松市
茶室麟閣	会津若松市追手町 1-1	0242-27-4005	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町 2-8-8	0242-22-8686	会津若松市
会津若松市歴史資料センター	会津若松市城東町 2-3	0242-27-2705	会津若松市
アクアマリンいなわしろカワセミ水族館	猪苗代町大字長田字東中丸 3447-4	0242-72-1135	猪苗代町
喜多方市美術館	喜多方市字押切 2-2	0241-23-0404	喜多方市
喜多方市カイギュウランドたかさど	喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂 3163	0241-44-2024	喜多方市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下 842	0242-84-1233	会津坂下町
ほっと i n やないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙 151-1	0241-41-1077	柳津町
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原 1	0241-58-1677	昭和村
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲 4681	0241-62-3848	南会津町
奥会津博物館南郷館	南会津町界字川久保 552	0241-73-2829	南会津町
奥会津博物館館岩館	南会津町松戸原 55	0241-78-2110	南会津町
奥会津博物館伊南館	南会津町青柳字久川 24	0241-76-2071	南会津町
檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原 887-1	0241-75-2342	檜枝岐村
相馬市歴史資料収蔵館	相馬市中村字北町 51-1	0244-37-2191	相馬市
埴谷・島尾記念文学資料館	南相馬市小高区本町 2丁目 89-1	0244-66-1011	南相馬市
葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合 16	0240-29-2008	葛尾村
双葉町歴史民俗資料館（休館中）	双葉町大字新山字本町 27-1	0240-33-4763	双葉町
大熊町民俗伝承館（休館中）	大熊町大字下野上字大野 669-3	0240-32-3011	大熊町
富岡町歴史民俗資料館	富岡町大字本岡字王塚 622-1	0240-22-2626	富岡町
檜葉町歴史資料館	檜葉町大字北田字鐘突堂 5-4	0240-25-2492	檜葉町
いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田 3-1	0246-42-3155	いわき市
いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来関町長沢 6-1	0246-65-6166	いわき市
いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房 147-2	0246-82-4561	いわき市
いわき市考古資料館	いわき市常磐藤原町手道 50-1	0246-43-0391	いわき市
いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道 1-39	0246-83-0005	いわき市
いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内 6-1	0246-83-2901	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野 14-16	0246-29-2230	いわき市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚 3-183	024-593-0639	公益財団法人
桑折町種徳美術館	桑折町字陣屋 12	024-582-5507	桑折町
デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内 41	024-971-3900	私人
東北サファリパーク	二本松市沢松倉 1	0243-24-2336	株式会社
ふくしまの森科学体験センター	須賀川市虹の台 100	0248-89-1120	公益財団法人
南湖神社宝物館	白河市字菅生館 2	0248-23-3015	私人
(社)福島県伝統産業会館	会津若松市大町 1-7-3	0242-24-5757	社団法人
大和川酒造北方風土館	喜多方市字寺町 4761	0241-22-2233	私人
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹 7294-4	0241-24-3576	私人

### (3) 青少年教育関係施設の設置状況

#### ア 県設置

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46	024-957-2111	福島県
福島県会津自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1	0242-83-2480	福島県
福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山 53	0246-32-7700	福島県

#### イ 教育施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火 6-1	0248-36-2331	独立行政法人
国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原 7136-1	0242-62-2530	独立行政法人
市町村(条例)設置	※16施設(別掲)		
他県設置等	※4施設(別掲)		

#### 《市町村(条例)設置 16 施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県青少年会館	福島市黒岩字田部屋 53-5	024-546-8311	公益財団法人
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作 1	024-597-2951	福島市
福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館	福島市早稲町 1-1	024-524-3131	福島市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒 82	024-961-8282	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西 112	024-982-2115	郡山市
郡山市勤労青少年ホーム(中央公民館内)	郡山市麓山 1 丁目 8-4	024-932-3027	郡山市
須賀川市市民の森	須賀川市塩田音森 20	0248-79-2187	須賀川市
石川町勤労青少年ホーム	石川町字当町 418-1	0247-26-2566	石川町
矢祭山友情の森	矢祭町大字山下字下河原 1-1	0247-46-2162	矢祭町
会津若松市勤労青少年ホーム	会津若松市城東町 14-52	0242-26-6662	会津若松市
会津若松市少年の家	会津若松市城東町 15-62	0242-39-1304	会津若松市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田 3119-1	0241-22-1403	喜多方市
喜多方市勤労青少年体育センター	喜多方市舞台田 3119-1	0241-22-1403	喜多方市
ひわ沢原森林公園(休館中)	猪苗代町字琵琶沢原 7095	0242-62-3291	猪苗代町
LVMH 子どもアート・メゾン(休館中)	相馬市中村二丁目 2-15	0244-26-7415	相馬市
新地町勤労青少年ホーム	新地町大字福田字中里 15-1	0244-62-3106	新地町

#### 《他県設置等 4 施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
一般財団法人小野田自然塾	東白川郡高岡町大字片貝字長久木先 384	022-281-8228	一般財団法人
越谷市立あだたら高原少年自然の家(休館)	二本松市永田字長坂国有林 14 林班	0243-24-2561	越谷市
さいたま市立館岩少年自然の家	南会津町宮里字向山 2847-1	0241-78-2311	さいたま市
ばんだいふれあいぴあ	北塩原村松原字南黄連沢山 1157-336	0241-33-2567	公益財団法人

## 2 文化施設の整備充実

### (1) 県立美術館の整備充実

常設展・企画展等の充実を図り、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

### (2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

### (3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

## 第11節 福島県立図書館

### 1 概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成30年3月に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第3次）』（平成30年度～令和2年度）の基本理念と4つの目標に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

併せて、令和2年2月に策定された「第四次福島県子ども読書活動推進計画」（令和2年度から概ね5年間）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んだ。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年4月19日（日）～5月15日（金）の間に臨時休館となったほか、館内エレベーター工事による令和3年1月5日（火）～7日（木）の臨時休館、同年2月13日に発生した福島県沖地震による被害により同年2月14日（日）～3月10日（水）を臨時休館とした。

### (1) 図書館協議会

開催日 令和2年12月11日（金） 於：県立図書館  
議題等

- ・令和2年度図書館利用実績について
- ・図書館システムの更新について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」の取組について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」の策定について

図書館協議会委員名（令和3年3月31日現在）

[任期：令和元年10月21日～令和3年10月20日]

区分	氏名	所属団体等（主な役職名等）
学識経験者	佐藤 佐敏	福島大学（人間発達文化学類教授）
	三瓶 千香子	桜の聖母短期大学（キャリア教養学科教授 生涯学習センター長・地域連携センター長）
	佐藤 克也	株式会社福島民報社 （編集局次長兼文化部長）
	小野 広司	福島民友新聞株式会社 （執行役員編集局長）
	三瓶 真二	公募
	森岡 こう	公募
家庭教育	高橋 明子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会（喜多方市教育委員会教育委員）
社会教育	須藤 薫	福島県公共図書館協会 （喜多方市図書館長）
学校教育関係	佐藤 秀美	福島県高等学校長協会 （福島県立いわき光洋高等学校長）
	志村 充代	福島県中学校長会 （郡山市立明健中学校長）

### 「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」

平成30年度～令和2年度

#### 1 基本理念

「『知の拠点』として、全ての県民の教育と文化の振興を図り、ふくしまの未来をひらきます。」

福島県立図書館は、情報（資料）の提供（貸出・閲覧）やレファレンス等、県民への直接的サービスに努める他、社会（地域）や行政の課題解決に応えるため、「知の拠点」としての責務を果たします。

また、市町村立図書館（未設置自治体にあっては公民館図書室等）の円滑な活動を支援するため、情報（資料）を体系的に収集・保存・提供するとともに、市町村間のネットワーク体制の強化に努めます。そして、子どもの読書活動を推進し、未来を担う子供たちが、人生をより深く生きる力を身に付けられるよう支援するなど、ふくしまの復興の一翼を文化面から担います。

#### 2 福島県立図書館が目指す4つの目標

「基本理念」の実現に向けて定めた、「福島県立図書館が目指す4つの目標」

##### (1) 県民のための図書館

福島県立図書館は、資料（情報）を収集し、保存し、提供することで、県民の皆さんに役立つ図書館を目指すとともに、全ての人が等しく利用できるサービス体制を目指します。

##### (2) 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う、今とこれからの子どもたちのために、資料（情報）を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

##### (3) 市町村（図書館・公民館等）を支えるための図書館

県内市町村図書館等に対する協力・支援を充実させることにより、市町村の図書館活動を支えるとともに、ネットワーク体制を推進し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

#### (4) ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の情報を収集し、保存し、発信することで、全ての人々が、いつでも、どこからでも、「ふくしま」を知ることができる「拠点」となることを目指します。

## 2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

### (1) 図書館資料の収集

#### ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものや年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、感染症やその対策関連の資料、在宅時間を充実させるための資料を収集した。

#### イ 地域資料の収集

福島県に関する資料については新刊書及び古書を購入した。県人著作については新刊書及び旧刊図書の遡及購入により、充実を図った。非売品の資料については出版した個人・団体・機関等への寄贈依頼や、寄贈を呼びかけるチラシを常時館内掲示し、令和3年1月8日(金)にリニューアルした県立図書館ホームページにも「図書寄贈のお願い」をトップに表示するなど広報に努めた。

行政資料は各部局へ寄贈依頼を通知したほか、庁内webで周知を行った。県内公共図書館、公民館にも行政資料の寄贈について協力を呼びかけた。また、「福島県立図書館『福島県行政資料コーナー』のご紹介」のチラシを改訂し、館内及び県内公共施設へ配布を依頼した。

震災関連資料及び東京電力福島第一発電所事故に関する資料についても、10年の節目を契機とした記念誌等の収集のため、新聞等での出版情報収集に努めた。

#### ウ 地域視聴覚資料の収集

県内で撮影されたものや震災関連の映像資料のほか、令和2年度前期放送・NHK朝の連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルとなった古閑裕而関連の映像、音声資料等を収集した。また、保存価値の高い地元新聞のCD-ROM等の資料を継続して収集した。

#### エ 児童資料・研究資料の収集

##### (7) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、ユニバーサルデザインや多文化に対応した資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料についても収集した。

##### (4) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、子どもの読書や読書環境に関する資料の収集に努めた。

#### オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や相互貸借に対応できる資料を幅広く継続収集した。要望していた『福島民友新聞』過去紙面マイクロフィルム(平成12年-平成17年)144本を購入し提供している。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

#### カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

#### 逐次刊行物受入状況 (単位：種)

区分	購入	寄贈・他	計
新聞	25	56	81
雑誌	235	721	956
官報等	3	0	3
合計	263	777	1,040

#### 資料受入状況 (単位：冊)

区分	購入	寄贈・他	計
一般資料	6,402	1,918	8,320
地域・行政資料	1,407	3,833	5,240
児童資料	2,852	306	3,158
児童図書研究資料	373	172	545
市町村支援資料	1,607	1,053	2,660
合計	12,641	7,282	19,923

#### 資料受入状況・推移 (単位：冊)

平成30年度	令和元年度	令和2年度
18,649	18,669	19,923

キ 県民のくらし応援文庫  
 県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備すること

を目的に、平成 28 年度に創設した寄贈制度。令和 2 年度  
 は、4 団体（企業）から合計 797 冊の寄贈を受けた。

蔵書統計（資料別・分類別）

（単位：冊）

分類	区分	元年度累計	2 年度増加	2 年度除籍	利用替え	2 年度累計
一般資料	0 総記	31,582	289	8	1	31,864
	1 哲学	26,573	394	25	1	26,943
	2 歴史	66,291	789	16	1	67,065
	3 社会科学	109,550	2,070	56	6	111,570
	4 自然科学	38,051	1,005	46	2	39,012
	5 工学・工業	36,976	839	98	9	37,726
	6 産業	29,601	570	45	3	30,129
	7 芸術	42,387	980	52	12	43,327
	8 語学	9,756	129	13	2	9,874
	9 文学	94,437	1,255	152	2	95,542
		計	485,204	8,320	511	39
地域資料	0 総記	18,760	509	0	0	19,269
	1 哲学	2,855	76	0	1	2,932
	2 歴史	39,638	810	3	0	40,445
	3 社会科学	68,372	1,478	1	1	69,850
	4 自然科学	10,369	323	0	1	10,693
	5 工学・工業	15,488	432	5	1	15,916
	6 産業	23,034	462	1	0	23,495
	7 芸術	17,776	599	1	7	18,381
	8 語学	936	15	0	0	951
	9 文学	29,225	536	6	0	29,755
	計	226,453	5,240	17	11	231,687
児童資料	研究資料	37,462	545	190	-178	37,639
	児童図書	119,970	3,158	993	924	123,059
	計	157,432	3,703	1,183	746	160,698
逐次刊行物	雑誌	174,886	4,805	20	0	179,671
	新聞合本	15,708	154	0	0	15,862
	新聞記事ファイル	3,834	2	0	0	3,836
	計	194,428	4,961	20	0	199,369
特殊文庫	70,272	8	0	0	70,280	
館内用計	1,133,789	22,232	1,731	796	1,155,086	
市町村支援計	65,681	2,660	2,036	-796	65,509	
合計	1,199,470	24,892	3,767	0	1,220,595	

3 館内奉仕

開館日は 251 日、入館者は 113,657 人、1 日平均 453 人の利用があった。新型コロナウイルス感染拡大防止のための館内利用の制限や臨時休館、また 2 月に発生した福島県沖地震による被害により臨時休館とした影響もあり、開館日数は前年度比で 35 日少なく、入館者数も前年度比において 5 万 8 千人の減であった。

入館者数

開館日数	251 日
入館者数	113,657 人
（1 日平均）	453 人

入館者数・推移

（単位：人）

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
174,034	172,464	113,657

## (1) 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常の生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答した。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けた。新型コロナウイルス感染拡大防止のための館内利用の制限や臨時休館も影響し、総件数は前年度より3,000件ほど減少したが、電話で前年度比約400件の増、文書でも約400件の増（前年度比10倍）、メールで約120件の増となり、非来館型サービスの可能性を見出す結果となった。

調査相談件数 (単位：件)

	一般・地域・逐刊	児童資料	小 計
口 頭	5,222	1,720	6,942
電 話	1,982	41	2,023
文 書	455	0	455
F A X	31	1	32
電子メール	302	1	303
合 計	7,992	1,763	9,755

調査相談件数・推移 (単位：件)

平成30年度	令和元年度	令和2年度
11,949	12,938	9,755

県立図書館のホームページは、全体的にアクセス件数が減少した中で、「蔵書検索」は前年度より4.6万件増え、「こどものへや」へのアクセスは倍増した。コロナ禍での受取館指定サービスなどWeb環境を活用したサービス提供が影響したとみられる。

ホームページアクセス件数 (単位：件)

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ト ッ プ ペ ー ジ	317,481	334,534	253,502
蔵 書 検 索	655,110	786,099	832,584
横 断 検 索	501,635	530,959	404,357
デジタルライブラリー	5,036	5,315	5,070
こどものへや	2,651	2,728	5,462
利 用 案 内	20,362	19,132	14,202

注) 新システム移行のため、令和2年12月28日(月)～令和3年1月17日(日)のアクセス反映なし。なお、蔵書検索のみ令和2年12月28日(月)～令和3年1月3日(日)のアクセス反映なしとなっている。

## (2) 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」の活動指針に則り、図書館資料の提供や各種事業の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

さらに、広域な県土を有する本県の実情を踏まえ、予約資料の受取館指定サービス等、Web環境を活用した利用の充実を図った。

加えて新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、年度当初から閲覧席の削減や定期的な換気などの対策と咳エ

チケット等の呼びかけに努めたほか、臨時休館後の5月中旬以降は返却された資料や、利用者が使用する端末、カウンター周り等のアルコール消毒を実施した。その他の対策として11月に図書除菌機を、3月にサーモグラフィカメラを設置した。

また、館内では令和3年1月の情報ネットワークシステム更新に合わせ、蔵書検索機（OPAC）を分野ごとに4台設置しサービスの向上を図った。

## (3) 館外個人貸出

貸出冊数は143,296冊、貸出者数は延べ35,146人で令和元年度から減少した。登録者数は12,942人であった。

直接自宅へ資料搬送する資料宅配サービス（有料）の利用は、30件、122冊と前年度より件数で約3倍、冊数で約2倍増加した。

### 館外個人貸出状況

分 類	冊数(冊)	構成比(%)
総 記	2,413	1.7
哲 学 ・ 宗 教	4,739	3.3
歴 史 ・ 地 理	7,364	5.1
社 会 科 学	12,819	9.0
自 然 科 学	7,996	5.6
工 学 ・ 工 業	6,563	4.6
産 業	3,663	2.6
芸 術	7,906	5.5
語 学	1,204	0.8
文 学	20,391	14.2
地 域 資 料	6,885	4.8
新 聞 雑 誌	6,773	4.7
小 計	88,716	61.9
児 童	54,580	38.1
合 計	143,296	100.0

### 館外個人貸出状況・推移

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度
冊 数 (冊)	155,550	158,364	143,296
のべ人数(人)	41,513	41,712	35,146

### 館外個人貸出登録者数（登録有効期間3年）（単位：人）

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合 計
新 規	3,128	3,104	2,572	8,804
更 新 者	1,530	1,474	1,134	4,138
合 計	4,658	4,578	3,706	12,942

### 館外個人貸出登録者数・推移 (単位：人)

平成30年度	令和元年度	令和2年度
13,824	13,813	12,942

## (4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

## 特別貸出状況

貸出先	件数(件)	冊数(冊)
官公庁関係	2	74
図書館その他	2	3
会社・事業所	24	225
報道関係	1	2
学校	26	26
計	55	330

## 特別貸出状況・推移

(単位：冊)

平成30年度	令和元年度	令和2年度
433	870	330

## (5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。「本のひろば」のコーナーでは「旅立ち、出会いの季節に言葉をおくる」、「起業・創業にむけて」及び「空模様を読む」など7回実施した。また、時事展示として、「ストレスに負けない気持ちづくり!」、「人類と感染症」、「ビジネス支援」など5回実施。ミニ展示としては「感染症対策」など3回実施した。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」では、新規1本「本で知る世界遺産」、改訂2本「今こそ伝えたい命の大切さ 闘病記」、「健康と労働を考える」を作成し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

令和2年11月29日(日)には図書館見学会を実施し、県立図書館の役割や機能について紹介した(参加者5名)。また、貴重資料を紹介する機会として、平成29年2月に開設した「長田弘文庫見学会」を令和2年11月8日(日)に実施した(参加者2名)。

## (6) 地域資料

平成30年に没後70年を迎えた国際的歴史学者・朝河貫一博士(1873-1948)の功績を称え、令和2年度も「朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会」を開催した。講演会に合わせて関連のある所蔵資料を展示した。

企画展示は「よいものたくさん福島県」、「空中写真で振り返る 東日本大震災展」を開催した。また、ミニ展示として福島県歴史資料館の移動展示に合わせた関連資料の展示や、朝の連続テレビ小説「エール」の主人公のモデル・古閑裕而関係の資料の展示を実施した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「地域の出版文化を支える 福島民報出版文化賞」を改訂し、受賞作発表にあわせて直近10年の受賞作を展示した。

『茂庭村文書』、『陸奥国白川二本松三春領絵図』、『福島県管内道路分類縮図』の貴重資料をデジタル化し、閲覧・貸出の利用を容易に行えるようにした。

地域資料については、県内外の個人・団体の様々な調査相談に応えるため、レファレンスサービスを実施したほか、ホームページから目的の資料を検索しやすいよう、図書や雑

誌の目次入力を継続的に実施した。

## (7) 逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館、現行受入新聞一覧』(令和2年度版)については、大熊町、双葉町、浪江町の3町以外から回答を得て発行した。

令和2年11月3日(火・祝)・4日(水)・6日(金)に、「歴史的音源(れきおん)で楽しむミニコンサート」を開催し、国立国会図書館歴史的音源を利用してNHKの朝ドラのモデルになった古閑裕而にちなんだ曲や、クラシック曲を公開図書室データベースコーナーで鑑賞した。また、同日に「データベース講座～あなたに合ったものを見つけよう～」を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のためマンツーマンの講座形式で実施し、9講座の募集に対して4名の申込があった。参加者の要望に合わせて、各自に合ったデータベースを使用し好評を得た。

軽読書コーナー及び雑誌展示コーナーにて「明日の活力をつくる睡眠」、「Go To Travel～新しい旅行様式で旅しよう!～」、「誌上参拝」及び「ご褒美をあげよう!」など、社会情勢に配慮したテーマの展示を行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、新規1本「ビジネス関連雑誌記事紹介」を作成した。

## (8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

### ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行ったほか、ロビー展示コーナーを活用して10代の子どもたちに向けた展示を行った。また、児童図書の調査・研究用の資料や学校図書館支援用の図書を収集し、子どもの読書活動に関わる方に対して資料提供を行った。

### イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」(毎月第2木曜日)や児童を対象に以下の「おはなしかい」・「子ども向け講座」を開催した。

- ・「ちいさなおはなしかい」(7月・9月・10月・11月・12月)

参加者合計 18名

- ・県立美術館との連携おはなしかい

「アートなおはなしかい」(令和2年8月8日(土))を実施した。

参加者 12名

- ・「おはなし会『安達太良山はいきている』」(令和2年9月13日(日))を実施した。

参加者 15名

- ・福島県国際交流協会との連携おはなしかい

「クリスマスのおはなしかい みんないっしょに世界のことばでおはなしかい」(令和2年12月12日(土))を実施した。

参加者合計 18名

- ・「子ども向け講座『クリスマスミステリーツアー』」  
(令和2年12月19日(土))を実施した。

参加者 16名

#### ウ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

参加者合計 296名

#### エ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌「LITTLE BIG」や児童サービス関連情報誌「児童図書研究ニュース」を発行し読書普及のための情報提供に努めた。また、教科書改訂にあわせて「福島県立図書館 小学校国語教科書紹介図書 所蔵一覧」を発行した。

#### オ 「子育て支援コーナー」の運営

図書館の子育て世代のための施設案内「ママ・パパこどもマップ」を更新した。また、子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。親子で楽しむ絵本の展示を行った。

### (9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度から「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し利用に供している。所蔵数は令和3年3月11日現在で13,672タイトルとなっており、令和2年度増加資料一覧を作成し、ホームページで公開した。令和2年5月には「震災ライブラリー写真集」展、令和3年3月には「東日本大震災福島県復興ライブラリーブックガイド記念号」の発行に合わせ「東日本大震災福島県復興ライブラリーブックガイド」展として展示を行った。

また福島民報と福島民友に掲載された震災・原発・復興関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を令和3年1月31日(日)現在で更新、3月ホームページに掲載した。

さらに「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し、活用を図っている。令和2年度は、五所川原市立図書館(令和3年3月9日(火)～28日(日))とふたば未来学園中学校・高等学校(令和3年2月19日(金)～3月19日(金))で出張展示が開催された。

### (10) 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

#### 複写利用状況

区 分	件数 (件)	枚数 (枚)
自・他館処理	2,460	33,667

### 複写利用状況・推移

(単位：枚)

平成30年度	令和元年度	令和2年度
48,507	43,284	33,667

### (11) 障がい者サービス

令和2年2月にサビエ図書館の運用を開始したことを受け、令和3年1月にホームページ上に障がい者サービスのページを公開し、貸出登録カウンターに音声か聴こえにくい方のための対話支援器を1台設置した。令和3年3月には障がい者サービス専用カウンターを設置した。

### (12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を、一般用に6台とこどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図った。また、11月に当館職員によるインターネット入門講座を実施した。情報ネットワークシステム更新に合わせてインターネットの座席予約システムを導入した。

#### インターネット利用状況 (単位：人)

区 分	一 般	児 童	合 計
人 数	2,237	0	2,237

#### インターネット利用状況・推移 (単位：人)

平成30年度	令和元年度	令和2年度
6,210	5,303	2,237

### (13) 展示

#### ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

(ア) 「読み継がれる絵本展～出版から50年を経た絵本～」  
(令和2年4月3日(金)～6月3日(水))

昭和・平成・令和と時代を超え、多くの子どもたちに読み継がれている人気の絵本を紹介した。

(イ) 「福島県文化財センター白河館(まほろん)移動展示 ふくしま鉄ものがたり」

(令和2年6月5日(金)～7月1日(水))

福島県文化財センター白河館(まほろん)による展示。福島県域はかつて日本を代表する鉄生産地であり、これまでの製鉄遺跡研究の一端を紹介した。

(ウ) 「旅行案内書で巡るむかしの旅と名勝地」

(令和2年7月3日(金)～9月2日(水))

当館で所蔵する旅行案内書の中から、江戸～昭和初期頃に出版された資料の一部を紹介した。

(エ) 「よいものたくさん福島県」

(令和2年9月4日(金)～11月4日(水))

「よいものたくさん福島県」は当館が近年収集した資料から明治～昭和初期にかけての県内の名産品として養蚕、煙草、馬、漆器や福島県の伝統的な郷土玩具などを取り上げ、関連資料を展示した。

(オ) 「福島県歴史資料館移動展示 描かれた江戸時代の伊達郡」

(令和2年11月6日(金)～12月2日(水))  
 福島県歴史資料館による展示。旧伊達郡を描いた絵  
 図を紹介した。

- (カ) 「スポットライトを当てたい懐かしの雑誌展」  
 (令和2年12月4日(金)～令和3年2月14日(日))  
 雑誌黎明期の「明六雑誌」や教科書に載っている「青  
 鞆」、「白樺」、個性的な雑誌の「朝日ソノラマ」な  
 ど時代を彩った雑誌を展示した。
- (キ) 「空中写真で振り返る東日本大震災」  
 (令和3年3月11日(木)～3月31日(水))  
 東日本大震災の発生から10年を迎え、当館で所蔵  
 する福島県沿岸を撮影した空中写真の中から、津波被  
 災地域の震災前後の写真等を展示した。

イ ロビー展示  
 情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県立  
 図書館の資料展示と県民の作品等の展示を行った。

- (ア) 「本はともだち」(県立図書館)  
 (令和2年4月3日(金)～6月3日(水))
- (イ) 「色鉛筆と水性ペンのイラスト」  
 (令和2年6月5日(金)～7月1日(水))
- (ウ) 「YA(ヤングアダルト)の本」(県立図書館)  
 (令和2年7月3日(金)～9月2日(水))
- (エ) 「わたしたちの夢」  
 (令和2年9月4日(金)～9月30日(水))
- (オ) 「猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト」  
 (令和2年10月2日(金)～11月4日(水))
- (カ) 「YA(ヤングアダルト文学)」(県立図書館)  
 (令和2年11月6日(金)～12月27日(日))
- (キ) 「福島県内の公共土庫施設の復旧・復興の取組み」  
 (令和3年1月8日(金)～2月14日(日))
- (ク) 「被災地図書館震災アーカイブ企画展巡回展」  
 (令和3年3月11日(木)～3月31日(水))

#### (14) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職  
 員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施すること  
 で、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても  
 開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進  
 展に寄与した。

ア 講演会

朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会  
 「朝河貫一の歴史学の現代的意義 —『日欧比較封建制』  
 から『日本人の国民性』の分析へ—」  
 講師 早稲田大学文学学術院 甚野 尚志 教授  
 開催日 令和2年8月10日(月)  
 参加人数 88名

イ ふくしまを知る連続講座

第1回 シンポジウム「安達太良噴火120年」  
 開催日 令和2年9月12日(土)  
 主催 磐梯山噴火記念館  
 参加者 60名

第2回 「江戸時代の絵図でつなぐ今と昔」

開催日 令和2年11月28日(土)  
 講師 福島県歴史資料館  
 小野 孝太郎 副主任学芸員

参加者 61名

ウ イベント

「歴史的音源(れきおん)で楽しむミニコンサート」  
 「データベース講座～あなたに合ったものを見つけよう～」  
 開催日 令和2年11月3日(火)・4日(水)・6日(金)  
 参加者 26名

## 4 館外奉仕

### (1) 移動図書館「あづま号」

移動図書館「あづま号」では、以下の目的のため新型コ  
 ロナウイルス対応や日程調整をしながら巡回事業を実施  
 し、連携協力を図るとともに、合計23自治体及び4校に  
 対して合計24,635冊の資料を貸出した。

ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図る  
 ことを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相  
 談を行った。また、図書館を新規開館した自治体にも立  
 ち上げの支援を行った。18自治体に巡回し、延べ21,020  
 冊の資料を貸出した。

イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図  
 書館等の運営が困難な5自治体に対し、読書環境を改善  
 することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

公民館、認定こども園、小学校、中学校、デイサービ  
 スセンターに対して2,103冊を貸出した。

ウ 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子  
 どもたちの読書環境の向上を目的に、聴覚支援学校平校・  
 西郷支援学校・石川支援学校・猪苗代支援学校の4校を巡  
 回し、延べ1,512冊の資料を貸出した。

### 移動図書館「あづま号」貸出状況・推移 (単位:冊数)

平成30年度	令和元年度	令和2年度
26,786	28,380	24,635

### (2) 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわた  
 り一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室  
 の読書・学習環境を支援した。

令和2年度の利用状況は次のとおりである。

喜多方市教育委員会	297冊
川俣町教育委員会	508冊
湯川村教育委員会	73冊
浅川町教育委員会	541冊
会津美里町教育委員会	1,221冊
合計	2,640冊

### (3) 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。令和2年度の利用状況は次のとおりである。

会津美里町教育委員会	633冊
浅川町教育委員会	16冊
合計	649冊

### (4) 只見線駅文庫

除籍資料を活用して、待ち時間や車内で自由に利用できる「只見線駅文庫」を令和元年10月からJR只見線の会津川口駅と会津柳津駅に設置している。

### (5) 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境の支援を行う。令和2年度は実績なし。

### (6) 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校及び特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、114テーマ(延べ269セット)を編成し貸出を行った。

令和2年度の利用状況は、8団体に対し23セット(1,142冊)を貸出した。

### (7) 広報資料の発行

ア 館報「あづま」

第70巻(通巻274号)を令和3年3月18日(木)に発行した。主たる掲載事項としては、「新型コロナウイルス感染拡大防止に関する図書館の取組み」、「震災から10年 福島県立図書館支援の軌跡」、「福島県立図書館 地震被害報告」等

イ 令和2年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書(データ版)

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から県内公共図書館等の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4月1日現在、県内図書館の合計蔵書冊数は6,412,881冊で、当該人口1人当たり3.75冊(前年度3.69冊)、年間増加冊数は74,794冊である。また、令和元年度中の総貸出図書冊数は、6,483,173冊(当該人口1人当たり3.79冊)である。

ウ 福島県郷土資料情報

第61号を発行。8月に開催した朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会「朝河貫一の歴史学の現代的意義—『日欧比較封建制』から『日本人の国民性』の分析へ—」と、年度内に2回実施した「ふくしまを知る連続講座」の概要について報告した。特集として「福島県立図書館所蔵大正期以前地図・絵地図目録」を掲載した。連載記事としては「福島県立図書館所蔵 貴重郷土資料探照 21 茂庭村文書」、「福島県関係書誌 2020」を掲載した。100部発行し、当館ホームページへも掲載する等、

郷土の情報を発信した。

## 5 図書館協力

### (1) 相互協力和遠隔地返却、受取館指定サービス

相互貸借(他館との資料の貸借)サービス、遠隔地返却(当館からの借受け資料を他館に返却する)サービスを行っている。近年、予約した資料を県内の図書館で受け取ることができる受取館指定サービスの利用は増加傾向にあり、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため県内各市町村図書館で館内利用の制限や臨時休館の措置がなされた館も多く、その影響により遠隔地返却の件数は、前年比で87%と減少した。同様に、市町村図書館を窓口で資料の提供を行う相互貸借(貸出)も85%と減少した。ただし、相互貸借(借用)については、135%と大きな伸びを示した。コロナ禍にあって、遠隔地の図書館資料について県立図書館を窓口で借り受けた利用者が多かったことを示している。

#### 相互貸借状況

(単位:件/冊)

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	855	4,042	358	587	1,213	4,629
借用	206	445	89	112	295	557
小計	1,061	4,487	447	699	1,508	5,186

#### 相互貸借状況・推移

(単位:冊)

平成30年度	令和元年度	令和2年度
6,142	5,431	5,186

#### 遠隔地返却冊数・推移(利用者が来館し借受けした資料を県内の公立図書館に返却した冊数)

(単位:冊)

平成30年度	令和元年度	令和2年度
7,578	7,212	6,272

### (2) 図書館協力車事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出(資料の貸借)などの資料の搬送支援を行った。令和2年度は、20コースを編成し、34自治体と2高等教育機関、福島県議会図書室に対し巡回した。

### (3) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

- (ア) テーマ 「図書館で働くということ・図書館における児童サービス」  
「図書館の役割～図書館の現場から学ぶ～」  
「公民館図書室の基本と実践～意見交換を踏まえて～」  
「学校図書館が目指すもの～学校図書館担当職員にもとめられる役割・職務等～」

- (イ) 期 日 令和2年10月9日(金)
- (ウ) 会 場 福島県立図書館
- (エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 57名
- (オ) 講 師 義務教育課指導主事 前林 伸也  
県立図書館職員

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

- (ア) テーマ 「地域資料サービスの実践」
- (イ) 期 日 令和2年9月18日(金)
- (ウ) 会 場 福島県立図書館
- (エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 41名
- (オ) 講 師 実践女子大学非常勤講師 蛭田 廣一

ウ 福島県内図書館初任者職員実務研修

- (ア) 期 日 令和2年10月29日(木)～30日(金)
- (イ) 会 場 福島県立図書館
- (ウ) 参加者 4名
- (エ) 講 師 福島県立図書館職員

エ 福島県内児童書担当職員研修会

- (ア) テーマ 「児童書の紹介文の書き方—絵本を中心に—」
- (イ) 期 日 令和2年9月11日(金)
- (ウ) 会 場 福島県立図書館
- (エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 26名
- (オ) 講 師 元枚方市立津田図書館長 川上 博幸

**(4) 第18回福島県図書館研究集会**

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。

ア テーマ 「危機管理～図書館サービスを継続的に提供していくために～」

- イ 期 日 令和2年11月6日(金)
- ウ 会 場 福島県立図書館
- エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 44名

オ 内 容

第一部

- テーマ 「自然災害に備える」
- 講 師 名取市図書館 司書 加藤 孔敬
- 事例報告 「ある日、災害は突然に…。あの日から今までのこと～令和元年東日本台風による本宮市中央公民館図書室の被災及び復旧報告」  
本宮市しらさわ夢図書館  
副館長兼専門司書 柳沼 志津子

第二部

- テーマ 「新型コロナウイルス感染症拡大に備える」
- 講 師 白河市立図書館 主幹兼副館長 中沢 孝之
- 事例報告 「図書館の対応事例から」  
県立図書館 専門司書 鈴木 史穂

「電子書籍の導入について」  
郡山市中央図書館 主任 小賀坂 裕子

**(5) 県内大学図書館間との連携**

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、“福島県内大学図書館連絡協議会”の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館のほか、県内20の市町村立図書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらさわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館及び福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

**第12節 福島県立美術館**

**1 概要**

昭和59年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

令和2年度の美術館活動の概要は次のとおりである。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年4月19日(日)から5月15日(金)まで臨時休館となったほか、令和2年9月1日(火)から令和3年3月31日(水)まで、改修工事により長期休館となった。

**(1) 美術館運営協議会**

ア 委員

- 山口 功 福島県中学校教育研究会美術部所属  
(平成25年1月1日～)
- 番匠あつみ 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属  
(平成27年1月1日～)
- 大沼 博文 公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼  
福島県文化センター館長  
(令和3年1月1日～) ※会長
- 坂本 節子 福島県家庭教育インストラクター  
(平成25年1月1日～) ※副会長
- 齋藤 勝正 福島県美術家連盟顧問  
(平成29年1月1日～)

半沢 治久 日本放送協会福島放送局長  
(令和2年9月15日～)

岡部 兼芳 はじまりの美術館館長  
(令和3年1月1日～)

笠原美智子 アーティゾン美術館副館長  
(令和3年1月1日～)

齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部副学長・教授  
(平成27年1月1日～)

舟木 藤弘 福島県立美術館友の会理事  
(平成29年1月1日～)

#### イ 協議会の開催

(ア) 期日 令和3年2月25日(木)

(イ) 内容 ・令和2年度事業の概要  
・令和3年度事業計画案の概要  
・福島県立美術館の運営等

## (2) 他館等との連携

県内外の博物館施設及び全国組織等との連携を図り、運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体 ・全国美術館会議 (会員)  
・日本博物館協会 (会員)  
・日本博物館協会東北支部 (会員)  
・東北地区博物館協会 (会員)  
・福島県博物館連絡協議会 (理事)

## 2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収集作品)の収集活動を継続的にしている(ただし平成22年度以降、作品購入実績はない)。

令和2年度は17点の作品及び4件の資料を寄贈により収集した。

### (1) 収蔵作品点数(令和3年3月31日現在)

海外作品	450点
日本画	371点
洋画	920点
版画	1,148点
立体	145点
工芸	158点
書	39点
素描・下絵	217点
写真	410点
作品合計	3,858点
美術資料	69件

### (2) 収集評価委員会

#### ア 委員

中山 恵理 郡山市立美術館主任主査  
(令和元年12月1日～)

松下 由里 群馬県立近代美術館次長兼学芸係長  
(令和元年12月1日～) ※副委員長

三上 満良 元宮城県美術館副館長  
(平成23年12月1日～)

水沢 勉 神奈川県立近代美術館長  
(令和元年12月1日～)

村田 眞宏 豊田市美術館長  
(平成23年12月1日～) ※委員長

#### イ 委員会の開催

(ア) 期日 令和3年3月3日(水)

(イ) 内容 ・令和元年度収集作品の報告  
・令和2年度収集候補作品について

### (3) 令和2年度収集作品等

#### ア 美術作品及び美術資料の収集

国内：日本画	荻生天泉	1点
	酒井三良	4点
	松林雪貞	2点
	山内神斧	1点
国内：洋画	大石源太郎関係	5点
	野見山暁治	2点
	斑目秀雄	1点
国内：素描・下絵	野見山暁治	1点
国内：資料	松林家関係資料	1件
	大石源太郎資料	1件
	勝田蕉琴資料	1件
	関根正二資料	1件
	計17点、美術資料4件	

#### イ 図書資料の収集

収蔵図書数 62,166冊

### (4) 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

#### ア 保存環境調査の実施(虫菌害モニタリングと環境測定)

時期：令和2年6月8日(月)～22日(月)、  
8月7日(金)～21日(金)

内容：展示室、収蔵庫、搬入口及びその他の館内外の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

#### イ 美術品の修復

日本画については、酒井三良《左義長》、勝田蕉琴《安らかなる鳥の巣》を、洋画については、森田恒友《漁村風景》を修復した。また、フェルナン・レジェ《サーカス》の額を交換した。

#### ウ 敷地内の放射線測定

(ア) 時期 毎月1回、計7回測定(休館中は2回測定)

(イ) 場所 美術館内及び敷地内 計45か所(休館中は22か所)

## 3 展示事業

### (1) 常設展

収蔵及び寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回(版画は年8回)展示替えを行っている。令和2年度は、改修工事による長期休館のため、展示替えは2回行った。

## コレクション展Ⅰ 令和2年3月20日(金・祝)

～6月28日(日)

春の日本画：湯田玉水《春日遅々》、酒井 三良《江南春色》

没後50年・角田磐谷：角田磐谷《漢織呉織之図》《屋後展望》

佐藤潤四郎のガラス：佐藤潤四郎《車》《金紅被硝子大皿》《玻璃花器》《馬》

福島戦後の洋画：鎌田正蔵《作品 黒》、橋本章《地平》、吉井忠《寓話》

フランス美術の名品：カミーユ・コロー《ヴィル・ダヴレー》、エルンスト《博物誌》

アメリカの美術：ベン・シャーン《恐怖の夜の町》、ワイエス《松ぼっくり男爵》

斎藤清の版画：《かすみ 慈愛》《地の幸》《風》

銅版画の魅力：長谷川潔《メキシコの鳩 静物画》、浜田知明《副校長D氏像》

## コレクション展Ⅱ 令和2年7月1日(水)

～8月30日(日)

日本画の名品：中島清之《胡瓜》、橋本関雪《倪雲林》、速水御舟《女二題》、下絵

関根正二と近代の洋画：岸田劉生《静物(白き花瓶と台皿と林檎四個)》、関根正二《姉弟》

現代の彫刻：工藤哲己《危機の中の芸術家の肖像》、橋本章《看守さん》、入江比呂《胡座》

フランス美術の名品：カミーユ・コロー《ヴィル・ダヴレー》、ルノワール《帽子を被る女》

アメリカの美術：スローン《ジェファーソンマーケット ナイト》、レジナルド・マーシュ《回転ブランコ》

福島の版画家たち：斎藤清《会津の冬(坂下)》、安部直人《まなざし》、山中現《浜辺の夢》

## (2) 企画展

令和2年度は3回の企画展を開催し、国内外の様々な文化を紹介した。

### ア ブダペスト国立工芸美術館名品展

#### ジャポニズムからアール・ヌーヴォーへ

(ア) 会期 令和2年3月24日(火)～5月10日(日)

開催日数 43日(令和2年度 36日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月18日(土)をもって展覧会中止(開催日数 23日、令和2年度 16日)

(イ) 分野 近代西洋工芸

(ウ) 展示数 193点

(エ) 主催 ジャポニズム福島展実行委員会 [構成：福島県立美術館、福島中央テレビ、福島民友新聞社]  
協賛 福島トヨタ自動車、佐藤燃料、福島県商工信用組合、JAグループ福島

(オ) 観覧料 一般 1,300(1,100)円、  
大学生・専門学校生 1,100(900)円、  
小・中・高校生 650(500)円

※( )内は前売料金または20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 3,394名(令和2年度 1,985名)

(キ) 概要

日本の美術がどのようにして西洋に影響を与えたか、そして日本美術を西洋がどのように解釈したか、その歴史を辿る内容。ジャポニズムとアール・ヌーヴォーをテーマに、ブダペスト国立工芸美術館の所蔵品から、ティファニー、ガレ、ドーム兄弟やラリックを含めた作品とともに、ジョルナイ陶磁器工房などハンガリーを代表する作品群を含めて約200点を紹介した。

(ク) 関連事業

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- ・講演会「開幕記念講演会」
- ・講演会「海を渡った日本工芸とジャポニズム」
- ・ゲストトーク「アール・ヌーヴォーとガラスーガラスアーティストの視点からー」
- ・ワークショップ「ガラスフュージングを楽しもう」
- ・庭園イベント「Folk, Thing, Made ～つくられたものと人と人」

## イ もうひとつの江戸絵画 大津絵展

(ア) 会期 令和2年5月19日(火)～6月28日(日)

開催日数 36日

(イ) 分野 江戸絵画

(ウ) 展示数 148点

(エ) 主催 福島県立美術館

共催 福島民報社、テレビユー福島  
企画協力 公益財団法人日動美術財団  
特別協力 公益財団法人日本民藝館

(オ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円、  
高校生 500(400)円、小・中学生 300(200)円

※( )内は前売料金または20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 1,967名

(キ) 概要

江戸時代、東海道を行きかう旅人相手に「おみやげ品」として売り出されたものが「大津絵」である。大津の逢坂峠から追分宿あたりで売られ、はじめは現世利益の仏画などだったが、次第に「藤娘」や「鬼念仏」といった世俗的な画題に人気が集まり、明治維新とともに街道みやげの役割を終えたといわれている。ところが、チープで単純素朴な絵に心奪われた人々が、明治以降ひそかにコレクションに加え、大津絵は美術品として注目されるようになる。コレクターは明治末の浅井忠、富岡鉄斎にはじまり、大正期の山内神斧、柳宗悦、そして戦後の小糸源太郎など。この展覧会は、そんな大津絵に魅せられたコレクター群像をひもときながら、日本民藝館をはじめとする名品約140点を味わう、美術館初の試みであった。

また、当館独自の試みとして、大津絵コレクターとして知られた山内神斧の特集展示「山内神斧と吾八の時代」を併催し、こちらも識者の注目を集めた。

(ク) 関連事業

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- ・特別対談「大津絵を愛した人たち—富岡鉄斎から柳宗悦へ—」
- ・ゲストトーク「画家が収集した大津絵の魅力」
- ・ワークショップ「大津絵、描いちゃう？」

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、YouTubeでの動画配信として実施

- ・ギャラリー対談「山内神斧と吾八の時代」  
講師：軸原 ヨウスケ（アウトオブ民藝研究家）×堀 宜雄（専門学芸員）
- ・ギャラリートーク  
講師：堀 宜雄（専門学芸員）

※予定どおり実施

- ・関連イベント  
「勝手に！大津絵ふきだしグランプリ！」

場所：エントランスホール

参加者数：約 200 名

大津絵展の会場の一角で、セレクトされた作品イメージにふきだしをつけて楽しむ企画。優秀なふきだしには「ナイス！」シールも。たくさんの「ナイス！」を獲得したグランプリのほか、館長賞、担当学芸員賞、監視員賞を選出し、当館ブログで結果を公表した。

(ケ) 関連展示「山内神斧と吾八の時代」

(※観覧料は大津絵展に含まれる)

- ・会期 令和 2 年 5 月 19 日(火)～6 月 28 日(日)  
開催日数 36 日

- ・分野 近代日本画、資料
- ・展示数 58 点 (作品・資料をあわせて)
- ・概要

山内神斧(1886-1966)は大阪生まれの日本画家、玩具愛好家。大正時代に福島県会津地方に滞在して制作を行い、画会を催している。このため、喜多方をはじめ会津地方には彼の日本画作品がのこされている。大津絵展を機会に、山内神斧の画業とその後の小美術店「吾八」での活動や、主婦之友時代の仕事など、多方面にわたる活動を紹介した。

ウ もうひとつの日本美術史—近現代版画の名作 2020

- (ア) 会期 令和 2 年 7 月 11 日(土)～8 月 30 日(日)

開催日数 44 日

- (イ) 分野 版画、資料
- (ウ) 展示数 作品 368 点、資料 31 点
- (エ) 主催 福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ
- (オ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円、高校生 500(400)円、小・中学生 300(200)円  
※( )内は 20 名以上の団体料金

- (カ) 観覧者数 3,205 名

- (キ) 概要

版画は、日本の美術の歴史を語る上で欠かせないものであり、海外から見た日本の美術を特色づける重要な表現でもある。しかし、近代以降、日本国内においては、美術表現としての立場を獲得するまでには長い時間がかかった。

1970 年代から 80 年代にかけて日本各地に公立の美術館が次々に設置され、各館は地域の風土とそこで生み出される表現に向き合いながら、現在まで研究・収集活動を続けてきた。本展覧会は、戦後 75 年、また 21 世紀に入って 20 年を経た 2020 年という節目の年に、地方都市にあるふたつの県立美術館である福島県立美術館と和歌山県立近代美術館のコレクションを中心に、版画という文脈において、地方から見えるもうひとつの近現代日本美術史を編み直す試みとして開催した。

(ク) 関連事業

- ・講演会「日本『近現代』美術を『版画』表現で再考する」

講師：山野 英嗣（和歌山県立近代美術館館長）

日時：令和 2 年 7 月 23 日(木・祝)14 時～15 時 30 分

場所：講堂

参加者数：42 名

- ・スライドトーク

講師：紺野 朋子（主任学芸員）

日時：①令和 2 年 7 月 18 日(土)14 時～15 時 30 分

②令和 2 年 8 月 8 日(土)14 時～15 時 30 分

場所：講堂

参加者数：①15 名、②19 名

エ 移動展「福島県立美術館の名画たち」

- (ア) 会期 令和 2 年 9 月 12 日(土)～11 月 8 日(日)

開催日数 49 日

- (イ) 会場 小峰城歴史館（白河市）

- (ウ) 分野 日本画・洋画・版画

- (エ) 展示数 48 点

- (オ) 主催 白河市、福島県立美術館

- (カ) 観覧料 一般 300(250)円、小中高生 100(50)円、障がい者 100(50)円

※( )内は 20 名以上の団体料金

- (キ) 観覧者数 4,244 名

- (ク) 概要

福島県立美術館は、令和 2 年 9 月から年度末まで改修工事により休館となり、その間、館内でコレクションを展示することができなくなった。福島県の貴重な文化資源を有効に活用してその豊かさと価値、多様性を広く県民と共有するという、福島県立美術館としての機能を中断させることなく継続して果たすために、県内 2カ所（小峰城歴史館、喜多方市美術館）においてコレクションの移動展を開催することとした。

白河市の小峰城歴史館では、同地出身の洋画家・関根正二の作品を中心に、彼と同時代を生きた画家たち

による洋画のほか、近世から近代にかけての日本画もあわせて展示した。また、令和元年度に白河市指定文化財に登録された関根の《老夫妻像》（白河市教育委員会蔵）を登録後としては初めて公開した。

#### オ 移動展「福島県立美術館 世界の名作展」

(ア) 会期 令和2年10月18日(日)～11月17日(火)

開催日数 27日

(イ) 会場 喜多方市美術館（喜多方市）

(ウ) 分野 西洋絵画・彫刻

(エ) 展示数 45点

(オ) 主催 喜多方市美術館、福島県立美術館

(カ) 観覧料 一般・大学・短大・専門学校生 300円、

65歳以上75歳未満 150円、

高校生以下・75歳以上無料

(キ) 観覧者数 1,928名

(ク) 概要

喜多方市美術館での移動展では、フランス印象派や、ベン・シャーン、ワイエスらアメリカの画家たち、アメリカに渡って画家として名を遺した日本人作家たちの作品などを中心に展示した。喜多方市で開催する県立美術館所蔵作品展は1999年以来21年ぶりであり、所蔵の海外作品の優品をまとめて一挙に紹介できる好機となった。

(ケ) 関連事業

・ギャラリートーク

講師：橋本 恵里(学芸員)、伊藤 匡(専門員)

日時：令和2年10月18日(日)

①14時～15時 ②15時10分～16時10分

場所：展示室内

参加者数：①18名 ②10名

・出張鑑賞授業

喜多方市立豊川小学校（5年生、6年生）

令和2年10月29日(木) 42名

喜多方市立第一中学校（1年生）

令和2年11月9日(月) 90名

喜多方市立山都中学校（1～3年生）

令和2年11月11日(水) 64名

喜多方市立第一中学校（2年生）

令和2年11月12日(木) 86名

## 4 調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

### (1) 調査活動

令和2年度は、県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家、収蔵作家（渡辺光徳、斎藤清、李禹煥ら所蔵版画家、関根正二、喜多方美術倶楽部関係作家など）の調査を重点的に行った。

### (2) 研究紀要

福島県立美術館研究紀要第6号を発行した。

・B5版81ページ、発行部数600部

・執筆者5名（荒木 康子、増渕 鏡子、坂本 篤史、橋本 恵里、伊藤 匡）

## 5 普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

### (1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞マナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

令和2年度の受入団体総数は4団体102人で、そのうち解説を行ったのは1団体15人である。

### (2) 鑑賞講座

館長講座「古典に帰れー西洋美術の巨匠たちー」

第6回「19世紀写実派 ミレー、コロー、クールベ」

※令和元年度に開催延期となった回の振替開催

講師：早川 博明（前館長）

日時：令和2年8月29日(土)

場所：講義室

参加者数：21名

### (3) 創作プログラム

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じたプログラムを実施している。

ア 「ミニ大津絵をつくろう！」

令和2年6月13日(土)、14日(日)

・講師：大北 孝（主任学芸員）

白木 ゆう美（副主任学芸員）

・場所：エントランスホール

・参加者数：26名

イ 「白黒コピー×モノタイプ」

令和2年7月19日(日)

・講師：大北 孝（主任学芸員）

・場所：実習室

・参加者数：3名

ウ 「建築廃材で小さなまちをつくろう

ー木製ブックスタンド制作ー」

令和2年8月22日(土)

・講師：門馬 美喜（画家）

・場所：実習室

・参加者数：14名

エ 「三原色で描く水彩画（入門）」

令和2年9月13日(日)

・講師：伊藤 将和（画家・上越教育大学准教授）

- ・場所：福島市アクティブシニアセンター  
AOZ(アオウゼ)大活動室 4
- ・参加者数：10 名
- オ 「リトルモンスターを作ろう！」  
令和 2 年 10 月 17 日(土)
- ・講師：宮嶋 結香(画家)
- ・場所：福島市子どもの夢を育む施設こむこむ  
つくろうの部屋
- ・参加者数：21 名
- カ 「ガラスフュージングを楽しもう」  
令和 2 年 10 月 25 日(日)
- ・講師：近岡 令(ガラス作家)
- ・場所：福島市アクティブシニアセンター  
AOZ(アオウゼ)大活動室 4
- ・参加者数：22 名
- キ 「魔法陣！ソーシャルディスタンス！！」  
令和 2 年 12 月 12 日(土)
- ・講師：イシザワエリ(アートワークショップデザイナー、東北芸術工科大学講師)
- ・場所：福島市子どもの夢を育む施設こむこむ  
つくろうの部屋
- ・参加者数：22 名
- ク 「グリザイユ技法で花を描く」  
令和 3 年 2 月 13 日(土)
- ・講師：大北 孝(主任学芸員)
- ・場所：福島市アクティブシニアセンター  
AOZ(アオウゼ)大活動室 4
- ・参加者数：6 名
- ケ 「まんまるもじゃもじゃポケットつきバッグをつくろう！」  
令和 3 年 3 月 13 日(土)
- ・講師：鈴木 孝昭・坂内 まゆ子(FRIDAY SCREEN)
- ・場所：福島市子どもの夢を育む施設こむこむ  
つくろうの部屋
- ・参加者数：12 名

#### (4) 美術館・学校教育連携事業

##### ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成 15 年度より実施している連携事業。こどもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通してこどもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元をはかる。

令和 2 年度は、小学校・中学校・高等学校・適応指導教室合わせて 12 校(参加者延べ 226 名)で開催した。ワークショップで制作した作品は、令和 3 年 1 月 15 日(金)～1 月 24 日(日)の期間、福島市子どもの夢を育む施設こむこむの企画展示室にて、活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

##### (ア) 作家：Naomi Horiike(アーティスト)

プログラム：絵の中を泳ぐ

内容：アクションペインティングをテーマに、身体を思う存分使い、自分自身が絵の一部となって作品の主人公となるワークショップ。

開催校・開催日・人数：

県立相馬高校・相馬東高校・原町高校(美術部)

令和 2 年 9 月 19 日(土) 20 名

会津坂下町立坂下中学校(美術部)

令和 2 年 9 月 27 日(日) 22 名

郡山市立御館中学校(2 年生)

令和 2 年 10 月 5 日(月) 23 名

郡山市立緑ヶ丘中学校(美術部)

令和 2 年 11 月 7 日(土) 13 名

会津若松市立第一中学校(美術部)

令和 2 年 11 月 28 日(土) 18 名

会津若松市立第二中学校(美術部)

令和 2 年 11 月 28 日(土) 18 名

##### (イ) 作家：FRIDAY SCREEN(アートユニット)

プログラム：音・色・かたち

内容：音と色とかたちを組み合わせる美術のワークショップ。

開催校・開催日・人数：

福島市総合教育センター(ふれあい教室)

令和 2 年 10 月 1 日(木) 10 名

福島市総合教育センター(ふれあい教室)

令和 2 年 10 月 27 日(火) 9 名

福島市総合教育センター(ふれあい教室)

令和 2 年 11 月 10 日(火) 11 名

郡山市立日和田中学校(美術部)

令和 2 年 10 月 18 日(日) 11 名

田村市立大越小学校(6 年生)

令和 2 年 10 月 22 日(木) 27 名

二本松市立渋川小学校(5 年生)

令和 2 年 11 月 5 日(木) 12 名

会津美里町公民館

令和 2 年 11 月 14 日(土) 21 名

福島県立小野高等学校(美術部)

令和 2 年 11 月 21 日(土) 11 名

##### イ 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について、講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。

令和 2 年度も前年度に引き続き、前期(県立美術館)、後期(福島県教育センター)の 2 回に分けて開催した。

##### (ア) 前期

日時：令和 2 年 7 月 31 日(金)10 時～15 時 45 分

講義・演習「学校と美術館の連携活動について I」

演習「鑑賞用教材を活用した鑑賞活動」

講師：梅野 文代(教育センター指導主事)

大北 孝(主任学芸員)

白木 ゆう美(副主任学芸員)

参加者：小学校教諭6名、中学校教諭3名、  
高等学校教諭1名 合計10名

(イ) 後期

日時：令和2年10月30日(金)13時～14時

講義・演習「学校と美術館の連携活動についてⅡ」

講師：梅野 文代(教育センター指導主事)

大北 孝(主任学芸員)

参加者：小学校教諭5名、中学校教諭3名  
合計8名

**(5) 博物館実習**

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時：令和2年8月18日(火)～23日(日)

受講者数：7名

**(6) 友の会、協力会との連携事業**

例年、友の会が実施している企画展開催時のボランティアやアートチャリティーバザー、実技講座等については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施を見合わせ、令和2年度は次の事業のみ実施した。

ア ワークショップマート

～おうちを美術館にしよう～

<NPO法人福島県立美術館協力会との共催>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年のようなワークショップ出店ではなく、持ち帰って家で楽しめるワークショップキットの販売とワークショップを行った。

日時：令和2年8月2日(日)9時30分～14時

場所：庭園

企画・ディレクション：FRIDAY SCREEN

参加者数：約300名

イ ミュージアム・コンサート

「ラテンジャズでホットな春を！(夏ヴァージョン)」

<NPO法人福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共催>

日時：令和2年8月8日(土)19時～20時30分

場所：エントランスホール

演奏：ラテン・トリオ・プロジェクト

参加者数：約100名

ウ 触って、話して、見て楽しむ

美術鑑賞ワークショップ

<NPO法人福島県立美術館協力会との共催>

移動展「福島県立美術館 世界の名作展」関連事業として、喜多方市美術館にて開催した。見える人、見えない人一緒に、彫刻作品を触ったり、作品について話したりしながら鑑賞をするという企画。当館の観賞用補助教材アートキューブを用いて、彫刻制作に用いる素材を触って確認した後、出品作品のオーギュスト・ロダンの2点とヘンリー・ムーアの1点を対象に、お互いに話をし

ながら触察によって鑑賞を行った。

日時：令和2年11月3日(火・祝)

①10時30分～12時、②14時～15時30分

場所：喜多方蔵の里、喜多方市美術館展示室

講師：橋本 恵里(学芸員)、伊藤 匡(専門員)

参加者数：①12名、②3名

(いずれも視覚障がい者と介助者含む)

エ 「美術館イラストマップ」制作

<NPO法人福島県立美術館協力会>

伊達市出身のイラストレーター佐藤ジュンコ氏を起用し、敷地内や館内の見どころなどを紹介する「美術館イラストマップ」を制作した。令和3年度の再開館以降、館内で配布し、普及事業等で活用していく。

オ アートカード「ぼけっとアート」貸出

平成29年4月から、当館所蔵作品80点をカード形式にした鑑賞補助教材「ぼけっとアート」の貸出を継続して行っている。令和2年度の貸出総数は、小学校、中学校、高校、その他教育関係機関を含め、137か所、700セットである。

**(7) その他の事業**

ア 福島県立図書館との連携事業「アートなおはなし会」  
幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の「よみきかせ」と美術館展示室及び実習室の「鑑賞と工作のワークショップ」を実施した。

テーマ：「夏をさがそう」

日時：令和2年8月8日(土)14時～15時30分

場所：福島県立図書館、福島県立美術館

参加者数：8名

イ 委員等

- ・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事(長根 由里子館長、荒木 康子副館長兼学芸課長)
- ・いわき市美術品選定評価委員会委員  
(荒木 康子副館長兼学芸課長)
- ・郡山市立美術館協議会委員  
(荒木 康子副館長兼学芸課長)
- ・福島県総合美術展覧会運営委員会委員  
(荒木 康子副館長兼学芸課長)
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会委員  
(増渕 鏡子専門学芸員)
- ・相馬市史調査編さん委員(増渕 鏡子専門学芸員)
- ・福島市写真美術館運営委員会委員  
(紺野 朋子主任学芸員)
- ・西会津国際芸術村公募展審査員  
(坂本 篤史主任学芸員)
- ・猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト審査委員  
(坂本 篤史主任学芸員)
- ・「新しいAIZUの美術展」選考委員  
(白木 ゆう美副主任学芸員)
- ・須賀川市文化財保護審議会委員(伊藤 匡専門員)

- ウ 講師、寄稿、発表、受賞等
  - ・2020年美連協大賞（美術館連絡協議会）  
「もうひとつの日本美術史 近現代版画の名作2020」  
優秀カタログ賞-美連協展部門-受賞
  - 「もうひとつの江戸絵画 大津絵」  
優秀カタログ賞-自主展部門-受賞
  - ・福島大学人間発達文化学類  
「現代アートマネジメント」講師  
令和2年6月12日(金)（増渕 鏡子専門学芸員）
  - ・福島大学行政政策学類「博物館教育論」講師  
令和2年10月1日(木)～令和3年3月15日(月)  
全15回（伊藤 匡専門員）
  - ・筑波大学人文・文化学群「博物館学Ⅲ」講師  
令和2年7月1日(水)～9月30日(水) 全7.5時間  
（増渕 鏡子専門学芸員）
  - ・福島県立医科大学医学部  
「博物館・美術館にみる芸術と文化」講師
    - ①令和2年11月25日(水)（坂本 篤史主任学芸員）  
「亜欧堂田善と蘭方医学」
    - ②令和2年12月2日(水)（伊藤 匡専門員）  
「関根正二と大正期の美術」
    - ③令和2年12月9日(水)（紺野 朋子主任学芸員）  
「斎藤清と福島の版画」
    - ④令和2年12月16日(水)（白木 ゆう美副主任学芸員）  
「河野保雄コレクション」
  - ・本宮市白沢公民館文化財講座講師（伊藤 匡専門員）  
第1回「石井柏亭と高村光太郎」  
令和2年9月24日(木)  
第2回「関根正二」  
令和2年10月29日(木)  
第3回「吉井忠」  
令和2年11月26日(木)
  - ・日本フランス語フランス文学会東北支部大会シンポジウム「フランスにおける文学と美術の交差と共振：想像の源泉としての影響関係をめぐって」講師  
令和2年11月28日(土)（橋本 恵里学芸員）  
「アンリ・ルソーの画業における  
ジャリとアポリネールの存在」
  - ・山形大学地域教育文化学部「キャリア教育」講師  
令和2年12月10日(木)（白木 ゆう美副主任学芸員）  
「美術館教育普及の仕事について」
  - ・放送大学栃木学習センター公開講演会講師  
令和3年2月14日(日)（橋本 恵里学芸員）  
「『内』から『外』へ—美術館の発信活動—」

エ 動画配信等による情報発信  
新型コロナウイルス感染症拡大により、ギャラリートーク等の企画が一部実施できなくなったことを受け、令和2年4月30日に動画共有サービス YouTube に公式チャンネルを開設し、新たな取り組みとして展覧会の見どころ等を紹介する動画配信を行った。

- ・「ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ」  
担当学芸員の一押し！
- ・佐藤玄々《天女（まごころ）像》のデジタル測量について～視点の軌跡が生み出す3Dデータ～
- ・「もう一つの江戸絵画 大津絵展」見どころ紹介
- ・大津絵展ギャラリー対談「山内神谷と吾八の時代」
- ・福島県立美術館常設展示のご案内（2020年度第Ⅱ期）
- ・「もうひとつの日本美術史 近現代版画の名作2020」
- ・「福島県立美術館の名画たち  
—関根正二と洋画・日本画の名品—」
- ・「福島県立美術館 世界の名作展」
- ・「2020 学校連携共同ワークショップ参加校作品展」  
（前期・後期）

## 6 施設・設備の整備

耐震性や展示環境の向上のため、施設・設備の改修工事を実施した。

### (1) 美術館エレベーター減災化工事

令和2年7月15日(水)～令和3年3月31日(水)  
ダイコー株式会社

### (2) 県立美術館展示室照明改修工事

令和2年9月23日(水)～令和3年3月31日(水)  
株式会社大山電気工事

### (3) 美術館天井減災化工事

令和2年10月14日(水)～令和3年3月31日(水)  
株式会社古俣工務店

### (4) 美術館展示室（壁・床）改修工事

令和2年10月16日(金)～令和3年3月31日(水)  
国分木材工業株式会社

## 第13節 福島県立博物館

### 1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。

令和2年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年4月21日(火)から5月15日(金)まで臨時休館となった。

#### (1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

##### ア 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

##### 学校教育

鈴木 廣美 いわき市立小名浜東小学校長  
伊藤 俊幸 福島県立会津支援学校長

## 社会教育

長野 隆人（会長） いわき芸術文化交流館経営総務  
課広報グループチーフ

岡部 兼芳 社会福祉法人安積愛育園はじまりの美  
術館館長

## 家庭教育

滝澤 玲子 福島県家庭教育インストラクター連絡  
協議会 会津さざなみの会会員

## 学識経験者

佐藤 公（副会長） 磐梯山噴火記念館館長

川口 立喜 公立大学法人会津大学グローバル推進  
本部国際戦略室長・准教授

四家 久央 合名会社四家酒造店代表社員

大越 章子 日々の新聞社記者

岩崎 和美 書道家（公募）

## イ 会議

第1回 令和2年7月7日（火）

### 議題

- ①令和元年度博物館入館者数について
- ②令和2年度当初予算について
- ③令和2年度事業計画について
- ④企画展について
- ⑤中期目標の進捗状況について
- ⑥震災遺産プロジェクトの今後のあり方について
- ⑦ライフミュージアムネットワーク2020について
- ⑧新型コロナウイルス対策について

第2回 令和3年2月18日（木）

### 議題

- ①令和2年度博物館入館者数（令和3年1月末現在）  
について
- ②新型コロナウイルス感染症対策（令和2年度の取り  
組み）について
- ③福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画  
について
- ④福島県立博物館第3期中期目標（令和2年12月末現  
在）について
- ⑤令和3年度事業計画（案）について

## 2 資料収集事業

### (1) 収集展示委員会

ア 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、  
12人を委嘱している。

## 福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
有賀 祥隆	東北大学名誉教授、東京藝術大学 客員教授	委員長
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史 資料館課長	副委員長
岡田 清一	東北福祉大学大学院嘱託教授	
原田 一敏	ふくやま美術館館長	
柳田 俊雄	東北大学名誉教授、東北大学総合 学術博物館協力研究員	
玉川 一郎	福島県考古学会長	
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北 大学総合学術博物館協力研究員	
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館教授	
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺 産学科教授	
加藤 幸治	武蔵野美術大学教養文化・学芸員 課程教授	
角屋 由美子	米沢市上杉博物館 上杉文化研究 室室長	
奥村 弘	神戸大学大学院人文学研究科教授	

## イ 会議

コロナ禍のため、例年の形での会議の対面開催を行わ  
ず、書面開催とした。

### 議題

- ①今後3年間の展示計画について
- ②令和3年度・令和4年度開催予定企画展について
- ③購入予定資料について
- ④震災遺産保全プロジェクトの今後のあり方について

## (2) 受贈・受託

ア 歴史資料

- (ア) 受贈  
教育勅語（謄本）ほか 計71件
- (イ) 受託  
口上之覚ほか 計14件

イ 美術資料

- (ア) 受贈  
刀 銘鈴木加賀守貞則ほか 計94件
- (イ) 受託  
佐竹永海筆「秋月野花図」ほか 計23件

ウ 民俗資料

- (ア) 受贈  
窓鋸ほか 計104件
- (イ) 受託  
上行合人形（頭）ほか 計2件

エ 考古資料

- (ア) 受贈  
土師器 1件

オ 自然資料

- (7) 受 贈  
メタセコイア(広野町産双葉層群足沢層)ほか 計2件
- (i) 受 託  
宮古層群産アンモナイト 1件

### (3) 購 入

- ア 自然資料  
現生貝類標本(コンペイトウガイほか)ほか 計45件
- イ 図書資料
  - (7) 一般図書 70冊
  - (i) 定期刊行物 32種

### (4) 制 作

- ア 民俗資料  
会津ダルマほか 計2件

## 3 保存管理事業

### (1) 資料の収蔵

- ア 博物館資料  
資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料は1件と数える。  
収蔵資料数(令和3年3月31日現在)

分野	件数	備 考
考古	20,235	土器・石器・金属器ほか
民族	14,013	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,474	書籍・文書資料ほか
美術	6,980	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	44,487	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	375	被災遺物、文書資料、写真ほか
合計	108,564	

### 登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和3年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (令和2年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (令和2年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	0	12,130	0	3,532
民俗資料類	348	15,208	348	5,580
歴史資料類	130	45,851	2,029	14,717
美術工芸品類	1	6,231	0	36
自然標本類	889	26,533	868	13,131
合計	1,368	105,953	3,245	36,996

### ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次のとおり資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開始が遅れ、活動自体を縮小せざるを得なかった。

- (7) 自然資料整理  
化石・岩石標本の整理作業  
登録人数 3名 活動日数 4日
- (i) 古文書整理

令和2年度収蔵指定文化財 国指定:8件  
福島県指定:45件

### イ 図書及び映像

- (7) 収蔵図書数(令和3年3月31日現在)  
考古分野:28,187冊 民俗分野:5,063冊  
歴史分野:10,943冊 美術分野:4,813冊  
自然分野:17,705冊 保存分野:1,904冊  
震災遺産:135冊 その他:60,759冊  
合計:129,509冊
- (i) 収蔵映像資料数(令和3年3月31日現在)  
収蔵映像資料総数:1,374点

### (2) 登録・整理

#### ア 資料管理システムの運用

平成25年度から、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入している。一部の登録項目の再構成については、令和元年度に改修を実施した。

#### イ 資料の登録・資料情報の外部公開

古文書整理ボランティア登録者のうち7名が参加し、月1回の開催で文書の整理作業(表題・年代・法量などのデータ採取)を行った。活動日数は6日。

- (7) 民俗資料整理  
月例の収蔵庫資料整理日の作業に参加  
登録人数 1名
- (i) 考古資料整理  
灰塚山古墳出土品の整理など  
登録人数 1名

### (3) 貸出

ア 博物館資料  
貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
竪矧広板革綴衝角付冑 地板ほか 15点 鉄製胸当 1点 小札(鍔・頬当) 8点 金銅製双魚佩 1点	群馬県立歴史博物館	令和2年6月20日～10月10日	企画展「綿貫観音山古墳のすべて」
単斜輝石斜方輝石安山岩 1点	磐梯山噴火記念館	令和2年7月7日～11月30日	企画展「安達太良火山」
図書 一・三・四・六・九 5点 長沼弥七郎盛秀判物 1点	奥会津博物館	令和2年9月1日～11月30日	特別企画展「中世の奥会津～南山地方をめぐる武士社会の変遷～」
泉崎村原山1号墳出土力士埴輪複製 1点	福島県文化財センター白河館	令和2年9月10日～12月26日	企画展「ようこそ！古墳時代へー阿武隈川上流域に暮らした人々ー」
刺繍阿弥陀名号掛幅(当館受託資料) 1幅 刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅(当館受託資料) 1幅 阿弥陀三尊来迎板木(当館受託資料) 1点 五輪供養塔板木(当館受託資料) 1点 百万遍念仏の数珠箱・数珠・鉦(当館受託資料) 1組	南相馬市博物館	令和2年9月15日～12月15日	企画展「冥界へようこそ」
メタセコイア(福島県双葉郡広野町産) 1点	国立科学博物館	令和3年1月18日～4月9日	企画展「メタセコイアー生きている化石は語るー」
千円札3号券 1点	野口英世記念館	令和3年3月18日～令和4年3月31日	東北DC特別展「千円札の顔 野口英世の宝物」

#### イ 写真資料

総数 : 111件 187点  
 考古 : 17件 21点      民俗 : 3件 8点  
 歴史 : 53件 94点      美術 : 30件 31点  
 自然 : 5件 7点      震災遺産 : 3件 26点

### (4) 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫及び展示室など主要箇所の保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

#### ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫(一時、第1～第6収蔵庫)など主要なスペースの保存環境を2月10日～3月3日にかけて調査した。

#### イ 生物被害防除

6月に1回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施し、1,147件燻蒸処理した。

## 4 展示事業

### (1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々のくらしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

#### ア テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全7回開催した。

- (ア) 「山口弥一郎のみた東北」
- (イ) 「けんぱくの宝 2020 旅によせて」
- (ウ) 「美しき刃たちー会津編」
- (エ) 「祈りのふくしま4」
- (オ) 「ふくしまの焼きもの1」
- (カ) 「山川浩と健次郎」
- (キ) 「会津の修験ー西会津町旧福寿院の宗教世界」

#### イ ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全21回開催した。

- (ア) 「郷土玩具で旅するニッポン」
- (イ) 「宇都宮・会津仕置 430周年記念①道中絵図にみる秀吉の通った道」
- (ウ) 「描かれた民俗ー暮らしの記録と地域の行事」
- (エ) 「宇都宮・会津仕置 430周年記念②秀吉がやってきた！」
- (オ) 「みんなの震災遺産」
- (カ) 「東京オリンピックとその時代」
- (キ) 「会津藩校日新館の教科書」
- (ク) 「新知見！墓料遺跡」
- (ケ) 「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」

- (コ) 「会津藩家老田中土佐の短刀」
- (サ) 「宇都宮・会津仕置 430 周年記念③なるほど！太閤検地」
- (シ) 「わら細工としめ飾り」
- (ス) 「斎藤一と会津」
- (セ) 「磐梯山ジオパーク展」
- (ソ) 「道具とくらしのうつりかわりー食事を彩る道具たち」
- (タ) 「古代あいつの仏教文化ー湯川村堂後遺跡」
- (チ) 「チャレンジ！今月の古文書 正月編」
- (ツ) 「サンゴ化石の世界」
- (テ) 「チャレンジ！今月の古文書 如月編」
- (ト) 「雛祭り与人形」
- (ナ) 「チャレンジ！今月の古文書 弥生編」

## (2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。令和2年度は、4本の企画展示を開催した。

ア 春の企画展「ふくしまの旅ー懐かしの景色を訪ねてー」

(ア) 会 期 令和2年5月16日(土)～6月28日(日)  
開館日数 38 日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 1,331 人

(エ) 担当学芸員 歴史・民俗分野

栗原 祐斗、阿部 綾子、高橋 充、筑波 匡介、  
江川 トヨ子、内山 大介、山口 拓

(オ) 趣 旨

福島県立博物館は、観光地・会津若松に立地しており、春や秋のシーズンには、多くの観光客が訪れる。観光業は会津若松に限らず福島県全体にとって重要な産業に成長しているが、本県の観光がいかなる歴史を辿ってきたかは知られていないことも多い。そこで本展では、近・現代の旅行と観光をテーマに、鳥瞰図や絵はがき、観光パンフレット、お土産品、鉄道関係の資料などを、時代や地域の特徴に注目して展示し、観光地としての福島県のあゆみを紹介することを目指した。

(カ) 展示構成

序 章 歩いて出発、のんびりと～徒歩の旅～

第1章 速いぞ列車、もうすぐだ～鉄道の旅～

第2章 ふくしま到着、どこ回ろう

～温泉・観光地の歴史を辿る～

終 章 魅力いっぱい、また来よう

～ふくしま旅行の今～

出品点数：東北汽車旅行振分双六、渋沢栄一書状、機関車ナンバープレート、駅名標、電車座席 455 系用、旅館名「なかむらや」表札、摺上橋真景、花水館宿札、東山温泉協会パンフレット、向瀧法被、フラガール衣装、ペナント、赤べこ木型、木刀など 325 件

(キ) 関連事業

- ・記念講演会「鉄道と観光の近現代史」
- ・ワークショップ「フィルムカメラを知る・撮る・楽しむ」
- ・バスツアー「裏磐梯に託した想い～遠藤現夢のゆめ～」

上記3件のイベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

(ク) 成果

近・現代の福島県旅行を主テーマとする展示は、県内博物館の展示を振り返ってみてもあまり例がなく、当館としても初の試みであった。そのため、資料の所在情報が乏しく、手探りの準備となった。地域に偏りは出てしまったが、福島県内の時代ごとの旅行・観光の特徴と関係資料を展示と図録にまとめることができたのは、本展の成果といえる。

なお、本展はもともと4月29日に開幕し、春の行楽に訪れる方々の来場を見込んで、様々なイベントや仕掛けを用意していた。しかし、新型コロナウイルスの影響を受けて、4月21日より当館が臨時休館し、開幕は5月16日まで延期した。企画展の関連イベントは、最終日の展示解説会以外すべて中止となった。また展示室内外には、記念撮影用のスポットも用意していたが、感染防止の観点から内容を変えて実施したことも付記しておきたい。

イ 夏の企画展

「会津のSAMURAI 文化ー蒲生氏郷と藩士たちの文武ー」

(ア) 会 期 令和2年8月1日(土)～9月22日(火・祝)

開館日数 47 日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主催：福島県立博物館、福島民報社

特別協力：ふくやま美術館

後援：会津若松市、会津若松市教育委員会

協力：一般財団法人会津若松観光ビューロー、会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会

(エ) 入館者数 6,780 人

(オ) 担当学芸員 歴史分野：高橋 充、阿部 綾子

美術分野：川延 安直、小林 めぐみ

自然分野：相田 優

考古分野：山本 俊、田中 敏

(カ) 趣 旨

会津の歴史といえば、まず戊辰戦争が想起されるが、戦争の舞台にもなった若松城や城下町の基礎は、江戸時代初期の蒲生氏郷の治世に形づくられ、保科正之を祖とする会津松平家の時代に藩政の整備や経済の発展が進んだ。この企画展では、ふくやま美術館の格別の御理解・御協力のもと、特別展示として、氏郷が所持したと伝える国宝「短刀 銘国光(名物 会津新藤五)」を、ゆかりの地で初公開させていただいた。さらに当館の収蔵品をはじめ、会津に伝えられた藩士や城・武家屋敷に関する資料を展示公開し、会津の武家文化の伝統をたどった。

新型コロナウイルスの感染症拡大の中で、これまでの当たり前の暮らしのありがたさが身に染みて感じられるようになった。今回の展示の中では、戦時ではない日常的な暮らしや文化的な営み、また有名な大名・藩主ばかりでなく多くの無名の武士たちにも目を向けた。このような状況だからこそ、あらためて共感していただけたところもあった。

福島や会津に住む皆さまに、地元ゆかりの資料を、あらためて一点一点じっくりと観覧していただき、会津の歴史や文化の奥深さを感じていただける企画展を目指した。

#### (キ) 展示構成

プロローグ 430年前の会津一道中絵図にみる秀吉の  
通った道一

1. 特別展示「会津新藤五」と蒲生氏郷  
「短刀 銘国光(名物会津新藤五)」(国宝 ふくやま美術館蔵)ほか
2. 収蔵品でたどる会津の文と武  
「保科正之画像」(県重文 土津神社蔵・当館寄託)ほか
3. 若松城と武家屋敷  
若松城郭内武家屋敷出土資料(会津若松市教育委員会蔵)ほか

展示資料 歴史・美術資料 68件(展示替え資料を含む)  
自然・考古資料 86件

#### (ク) 関連事業

##### ・館外の連携

若松城天守閣郷土博物館

特集展示「刀」(7月18日～9月8日)

会津若松市ナイトタイムエコノミー(七日町通り)

8月8日・21日

動画制作・配信「KKC なんばん先生シリーズ」

御薬園編・茶室隣閣編・鶴ヶ城公園弓道場編

#### (ケ) 成果

新型コロナウイルス感染症の拡大により、当初の計画を大幅に変更し、全体的に規模を縮小して実施することになった。当初は7月18日～9月13日としていた会期を変更し、観覧料も変更した。また準備が間に合わなかったため図録は作成せず、ふくやま美術館発行の刀剣図録を販売した。展示室内での混雑を避けるため、およそ25名を目安に入場を制限し、室内の人数の把握の方法や展示物のレイアウトの工夫、夜間開館延長など、コロナ禍における企画展の様々な感染症対策を行った。入場者数は、規模縮小後に想定した人数に近いものとなり、大きな混乱はなく会期を終えることができた。

関連行事や連携展示についても、感染症対策を最優先させた結果、当初の計画に比して、十分に展開できない部分は多かった。その中で、「KKC なんばん先生シリーズ」御薬園編・茶室隣閣編・鶴ヶ城公園弓道場編

などの動画を制作・配信したり、若松城天守閣郷土博物館の特集展示や会津まつり等市内の行事とゆるやかに連携した事業を展開できたことは成果であった。

#### ウ 秋の企画展「発掘された日本列島 2020」

(ア) 会 期 令和2年10月10日(土)～11月15日(日)

開館日数：32日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主 催 文化庁、福島県立博物館、福島民報社、  
福島民友新聞社、全国新聞社事業協議会

(エ) 入館者数 6,156人

(オ) 担当学芸員 考古分野：高橋 満

#### (カ) 趣旨

文化庁では、国民が埋蔵文化財に親しみ、その保護の重要性に関する理解を深める機会として、全国で毎年9,000件近く行われる発掘調査のうち近年特に注目された成果を広く公開する「発掘された日本列島」展を全国数か所の公立博物館等を巡回して例年開催している。当館では17年ぶりの開催となった。

文化庁による中核展示の「新発見考古速報(速報展)」では近年、発掘調査成果が注目された縄文時代から近世の7遺跡の出土品約150点を公開した。このうち古代では群馬県高崎市の史跡多胡郡正倉跡に関連して「多胡碑」レプリカが出品されたが、高崎市のご厚意により「山上碑」・「金井沢碑」(ともにレプリカ)の出品があり「上野三碑」が勢ぞろいすることになり、関連した講演会を実施した。さらに特集1「日本の自然が育んだ多様な地域文化」として、多様な気候や自然環境と共生し、育まれた地域の文化によって形作られた我が国の多様な歴史や文化を、旧石器時代から古墳時代にかけての全国的に著名な46遺跡の調査成果を約250点の出土品で紹介した。特集2「記念物100年—我が町が誇る史跡・名勝・天然記念物—」では地方自治体が記念物をテーマに実施している様々な取り組み16件をパネル等で紹介し、記念物のもつ魅力や可能性を発信した。

また列島展開催各館が独自に開催する地域展示として近年の発掘調査で多様な副葬品や古代の王者の人骨が発見された喜多方市灰塚山古墳(古墳時代中期)の出土品を県内初公開。このほか東北地方で最も古い埴輪列が確認された須賀川市団子山古墳(古墳時代前期)、古墳時代後期では東北地方最大級の大きさとなる可能性が指摘された、いわき市塚前古墳などの調査成果を公開し、県内各地域で明らかになった古墳時代研究の最前線を速報した。

#### (キ) 展示構成

- 1 新発見考古速報(速報展)
- 2 特集1「日本の自然が育んだ多様な地域文化」
- 3 特集2「記念物100年—我が町が誇る史跡・名勝・天然記念物—」
- 4 地域展「ふくしま古墳発掘フロンティア」

## (ク) 成果

全国の発掘調査成果に触れることができる展示であり、当館での開催が17年ぶりであったこともあり、会期は短かったが多くの来場者にめぐまれた。1日の平均観覧者数は192.3人であり、考古学を主題とする企画展ではここ20年で最も多い観覧者数となった。また図録の売り上げも好調で、出版元から仕入れた部数をすべて売り切った。観覧者における購入比率は5.7%となり、図録販売率も高かった。

列島展は地元新聞社とともに主催する形式であるが、今回は福島民報社と福島民友新聞社の両社が主催に入ることとなった。これは、県内で開催される各種催事において異例のことであり、もちろん当館でも初めてのことである。この結果、県内の新聞購読世帯の大部分に対し新聞を通じた広報が可能となり、その効果は大きかったと推察される。

コロナ対応として展示室内の観覧人数25名を目安とすることで密を避けることにした。結果的に30分を1コマとすると会期中の土日祝日を中心に90コマで入場制限(入場待ち)が生じた。秋の企画展からはプレゼンテーションソフトに来場者数を表示させるログを取得し、リアルタイムの観覧者数と単位時間当たりの入場者小計を把握できるようにした。これを基に来場者の動向が把握できるようになり、混雑情報をSNSなどで発信できるようになった。混雑情報は延べで約2万回の閲覧があった。その結果、混雑情報のアナウンス前後で、土曜日の15時30分以降の来場動向に変化が生じている。

## エ 冬の企画展

「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」

(ア) 会 期 令和3年1月16日(土)～3月21日(日)

開館日数 54日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 観覧者数 3,265人

(エ) 担当学芸員 震災遺産保全チーム

筑波 匡介、阿部 綾子、内山 大介、大里 正樹、栗原 祐斗、高橋 満、塚本 麻衣子、弦巻 優太

(オ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から実施してきた。本展示会では、東日本大震災の発生から10年目において、改めてこれまでに収集・保全した「震災遺産」と向き合うことで、次の10年に向けて何を考えていくべきなのか、来館者と共有することを目的とした。

(カ) 展示構成

第1章 東日本大震災を考える「震災遺産が伝える地域の足跡」「大地の動き 自然の営み」「止められた日常 日常化した非日常」

地震・津波・火災と原子力発電所の事故を伝える震災遺産とともに、東日本大震災を振り返った。

第2章 震災遺産から考えたこと「場所を保全する」「文字を保全する」「時間を表現する」「物語を継承する」

学芸員が震災遺産を収集するとき、何を考えていたのか、集められた震災遺産をどう読み解いたのか。震災遺産とどのように向き合ってきたかを紹介した。

第3章 震災遺産が伝える事「復旧 取り戻すために」「残す 経験を伝えるために」「考える これからをどう生きるのか」「復興」

集めた震災遺産がなにを語るのか、伝えられるのか、震災遺産を関係者の言葉を紹介し、来館者とともに震災遺産を考えた。

出品点数 富岡町災害対策本部跡関連資料、浪江町避難所資料ほか、合計174件(館蔵品、個人から借用品を含む)

## (キ) 成果

例年、冬期間の特集展として「震災遺産を考える」を実施してきたが、東日本大震災の発生から10年を迎えることもあり、今までの研究成果を広く社会へ還元するために企画展として開催することとした。

満足度はアンケート結果からは、94%の来館者より観覧の価値ありと評価を頂けたことは励みとなった。今まで蓄積した研究成果を発揮できたものと考えている。また冬季間の開催であり当初より来館者数では苦戦することは予想できたので、記録誌(図録)の編集に力点を置いたことも、多くを頒布することにつながり、通信販売も広く全国から問い合わせを頂いている。

博物館での研究とは異なる分野の研究者も多く来館された。関連イベントとして実施したフォーラムでは、現場で活躍する研究実践者からも、たくさんの質問を頂くことができ話題が補填され、内容がより充実したものとなった。また参加いただいた研究者からも今後移動展や連携した研究などの相談をいただいております。新しい展開を期待している。

## (3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。

ア 特集展「震災遺産を考えるーそれぞれの9年ー」

(ア) 会 期 令和2年2月11日(火・祝)～4月12日(日)

開館日数 54日間(令和2年度 43日間)

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 後 援 公益財団法人福島県イノベーション・コースト構想推進機構

(エ) 観覧者数 237人(会期中の累計観覧者数 2,323人)

(オ) 担当学芸員 震災遺産保全チーム担当学芸員

(カ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災

災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した震災遺産に関わった人たちの証言から、震災遺産を振り返り、それぞれが過ごしてきた時を共有することを目指した。

(キ) 展示構成

- a 命 半杭一成 牛がかじった柱のレプリカ
- b 繰り返した避難生活から感謝の日々へ 伊藤まり 浪江中学校避難所資料等
- c 負けたままではいけない 金谷清子 旧相馬女子高避難所資料等
- d ふるさとへの想い 浪江新聞販売センター資料等
- e 情報の架け橋として 鈴木新聞舗資料等
- f 光の鳥 子どもたちのメッセージ
- g 富岡は負けん！ 横断幕レプリカ、通行許可証等
- h 大熊町の記憶 フロッタージュ作品
- i 福島県生涯学習課所蔵資料 東日本大震災・原子力災害伝承館所蔵予定資料 出品点数 104 件

(ク) 関連事業

予定していた展示解説会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

**(4) 指定文化財の公開**

令和2年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア 国指定

〈国宝〉

- (ア) 短刀〈銘国光（名物会津新藤吾）〉1口 ふくやま美術館  
（企画展「会津のSAMURAI 文化―蒲生氏郷と藩士たちの文武―」にて展示公開）

〈重要文化財〉

- (イ) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点 檜葉町教育委員会（福島県）  
（総合展示室：原始にて展示公開）

イ 県指定（福島県指定）

〈重要文化財〉

- (ア) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器 4点 福島県
- (イ) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1点 いわき市
- (ウ) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点 いわき市
- (エ) 森北1号墳出土品のうち 石製品及び鉄製品 4点 会津坂下町  
（以上4件は、総合展示室：古代にて展示公開）

**(5) 展示解説**

ア 展示解説員

令和2年度の展示解説員の人数は13名で前年度と変わらなかった。

新型コロナウイルスの感染拡大にともない、年間を通して展示室内での解説業務は中止となり、けんぱくハイライトツアー、通し解説、部屋送り解説は実施されなかった。本来の業務が大幅に制限される一方で、接触の多い様々な場所や物への消毒作業、来館者の密を避けるための展示室内の人数管理、さらに設定人数を超過した場合の人数制限措置の実施など、これまでにない多くの業務が加わった。

口頭での解説の代替策として普段多く寄せられる質問をQ&A形式でデジタルサイネージを使って表示する、個々のスキル維持のために体験学習室の着付けや展示解説の研修・練習を進めるなど、できることから仕事を進めており、通常業務に戻る日々に備えている。

イ 学芸員

企画展及び特集展の開催中は、職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。

また、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、臨時休館後の春の企画展期間中（5月16日～24日の開館日、及び5月30日～6月28日の土日）はエントランス入口に「コンシェルジュ」を設置し、学芸員が終日、感染防止対策の周知やマスク着用をお願い等の来館者対応を行った。コンシェルジュを含め、令和2年度の立ち番は年間433回（内、コンシェルジュ80回）を数えた。

また、企画展、テーマ展等の展示については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施してきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、学芸員による展示室内での対面による展示解説は原則休止した。代替措置として「見どころ解説会」などの形で、感染対策をした上で講堂内でスライド上映などによる展示紹介を開催した。

**(6) 体験学習室**

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかかなり本格的で好評を得ていた。

新型コロナウイルス感染拡大にともない時代衣装の着付けや昔のおもちゃ等、体験学習室は物や人の接触を多くともなうため6月末までは閉室した。その後7月から土日のみの限定的な日数で運用を開始したが、企画展の会期中は、展示室の人数管理のため展示解説員の人員確保ができなかったために資料展示を中心とした方法で運用した。

展示については、市内の高校生が当館で公開された屏風絵を鑑賞し、その学びを生かして描いたオリジナルの屏風作品、当館開催の考古学講座「縄文土器をつくろう」で制作した土器を展示した。また、企画展「震災遺産を考える」と連動させて博物館実習生がプログラムの中で実施した「ミニ防災講座」で制作した解説パネルや防災グッズ等の展示を行う等、当館の資料や講座、授業やプログラム等で制作した成果展を行った。

## 5 調査研究事業

### (1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向け、令和2年度は以下の7テーマの調査を実施した。

ア 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古分野

(イ) 調査概要

県内出土古人骨の共同研究を東京大学と継続し、新地町三貫地貝塚出土人骨の年代及び同位体のデータを取得した。県指定重要文化財の泉崎村原山1号墳出土埴輪(館蔵)及び本宮市天王壇古墳出土埴輪(本宮市蔵)の形象埴輪の3D計測を実施し、県内の出現期の形象埴輪群の詳細観察・比較が可能となるデータ整備を推進した。

イ 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 震災遺産保全チーム

(イ) 調査概要

今まで調査研究した成果として、「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」とした企画展を実施した。聞き取り調査を追加し、資料関係者の想いや考えとともに、学芸員の取り組みを記録として残すこととした。災害史は、災害を乗り越えてきた人々の復興の歴史でもある。今回はとくに復興について、それぞれ関係者の考えをまとめた。これらの証言は今後、福島県内各地の災害・復興史と比較する資料であると考えている。また今年度は調査・研究成果を取りまとめた記録誌の作成に力点を置いた。記録誌作成にあたっては資料調査とともに必要に応じて写真の再撮影を行った。記録誌を作成したことにより、多くの異なる分野の研究者と繋がることができた。企画展の協力依頼や移動展の実施など資料活用に関して相談も受けるようになり今後の活動につなげていきたい。

ウ 浜通りにおける古生代大型化石の研究

(ア) 分野 自然分野

(イ) 調査概要

化石産地の現地調査を行い、新たに古生代大型化石を採取した。鑑定作業については、新型コロナウイルス感染拡大のために外部研究者と直接やり取りができず、オンラインによる予察的な検討にとどまった。

エ 福島県成立前後の近代資料の調査研究

(ア) 分野 歴史分野

(イ) 調査概要

年度当初は、国立国会図書館憲政資料室の三島通庸関係文書や国立歴史民俗博物館の大久保利通家資料などの調査を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、すべて中止した。県内の施設も休館や利用制限を実施していたこともあり、調査は見送り、これまでに調査した古文書資料の解読など館内で出来る研究を行った。

オ 収蔵資料活用に向けた本県薫文化の研究

(ア) 分野 民俗分野

(イ) 調査概要

令和2年度は、柳津町冑中地区に伝わる「ニンギョウマンギョウ」行事の薫人形について調査し、展示用資料として製作した。年間を通して、現地との調整(4～5月)、薫の購入(5月)、現地での薫人形製作・記録(11月)、行事調査(2月)、薫人形の展示用支持具製作(2～3月)等を実施した。資料製作にあたっては柳津町役場・県内マスコミにも情報共有し、事業について広報した。

また2～3月には、近年廃絶した下郷町大字白岩字雑根地区に伝わる百万遍の薫細工を調査し、地域住民の協力のもと、製作過程を記録撮影するとともに展示資料として再現製作し、寄贈いただいた。

カ 神社仏閣に伝世する料紙に関する研究

(ア) 分野 保存科学分野

(イ) 調査概要

県内の伝世資料について所在調査を実施した。

キ 会津地方の仏像・仏画の調査研究

(ア) 分野 美術分野

(イ) 調査概要

会津地方の北エリアを中心に調査を実施。喜多方市竹屋観音堂仁王像について、本格的調査を実施するための事前調査を行い、調査計画を立てた。喜多方市板ノ沢虚空蔵堂虚空蔵菩薩像、喜多方市福聚寺観音像について仏像・祭礼の調査及び所蔵地区への聞き取りを行い、テーマ展「祈りのふくしま4」で紹介した。

### (2) その他の調査研究事業

ア 古文書整理事業

令和2年度は、五十島真仁家寄贈資料及び石井健司家寄託資料の整理を行い、このうち五十島真仁家寄贈資料については登録まで終了した。また、登録済みだが、未公開であった松崎達夫家寄贈資料(若松城下薬種問屋資料)の一部を公開した。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」と新たに「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。「築田家追加寄託資料」は平成26年度より撮影を継続してきたが、令和2年度の撮影をもって予定していた資料の撮影は終了した。

### (3) 職員の研究活動

ア 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

(ア) 印刷物（単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌）

阿部 綾子「第一章 藩主と藩士」「第六章 城下町と商業・交通」『相馬市史 第5巻 資料編Ⅱ 近世1』福島県相馬市

猪瀬 弘瑛・矢部 淳「福島県東白川郡塙町に分布する中新統久保田層からオオミツバマツの産出」『福島県立博物館紀要』第35号 p.73-76 福島県立博物館

内山 大介・筑波 匡介・高橋 満・弦巻 優太・大里 正樹・栗原 祐斗・塚本 麻衣子・阿部 綾子『震災遺産を考える—次の10年へつなぐために—』福島県立博物館

内山 大介「書評 坂本要編『東国の祇園祭礼—茨城県霞ヶ浦周辺地域を中心に—』」『民俗芸能研究』第69号 民俗芸能学会 p.103-107

内山 大介「書評 北海道民具事典編集委員会編『北海道民具事典Ⅰ生活用具』」『民具研究』第161号 日本民具学会 p.60-63

内山 大介・小澤 弘道「越後大工の会津への出稼ぎ—近世の阿賀川流域を中心に—」『福島県立博物館紀要』第35号 p.109-135

内山 大介「会津田島祇園祭」・「二本松の提灯祭り」植木行宣監修・福原敏男他編『山・鉾・屋台の祭り研究事典』思文閣出版 p.307-312

内山 大介「会津鋸の生産と流通—鋸鍛冶と金物卸商の近現代—」佐野賢治編『現代民俗学考—郷土研究から世界常民学へ—』春風社 p.581-601

大里 正樹「死と儀礼」『民具学事典』丸善出版 p.102-104 丸善出版

大里 正樹「写真資料から見える会津の風景—小滝清次郎氏寄贈写真から—」『福島県立博物館紀要』第35号 p.59-71 福島県立博物館

杉崎 佐保恵・鈴木 晴彦「装束文化財の保存修理に関する体験型講座の事例報告—保存科学講座「和紙にふれる」実施報告—」『福島県立博物館紀要』第35号 p.39-58 福島県立博物館

高橋 充「相馬攻めから蘆名攻めへ」南奥羽戦国史研究会編『伊達政宗—戦国から近世へ—』p.93-105 岩田書院

高橋 充「全体解説」「史料解説・解題」『相馬市史』第四巻 資料編Ⅰ 中世 福島県相馬市

高橋 充・小林 めぐみ・塚本 麻衣子「企画展『会津のSAMURAI 文化—蒲生氏郷と藩士たちの文武—』実施報告」『福島県立博物館紀要』第35号 p.1-20 福島県立博物館

高橋 充・阿部 綾子・相田 優・田中 敏・山本 俊「企画展『会津のSAMURAI 文化—蒲生氏郷と藩士た

ちの文武—』の成果」『福島県立博物館紀要』第35号 p.21-38 福島県立博物館

高橋 満（監修）『土器土器&アニマルズ』『読売 KODOMO 新聞』第505号 p.10-11 読売新聞東京本社

高橋 満「新たな目で見た文化財—ふくしま震災遺産保全プロジェクト」『ビジュアル版考古学ガイドブック』シリーズ遺跡を学ぶ別冊05 新泉社

高橋 満「受賞に寄せて—震災遺産の備忘録」『博物館研究』令和3年3月号 公益財団法人日本博物館協会

平澤 慎「古墳時代—東北」『考古学ジャーナル』742号 p.55-56 ニューサイエンス社

(イ) 学会発表

内山 大介「教師・山口弥一郎の地域文化研究—フィールドの危機と民俗学的実践—」（グループ発表「民俗文化研究の持続性と多様性の展開—研究と現地を往還する拠点構築に向けて」）日本民俗学会第72回年会 オンデマンド開催

内山 大介「多様化する文化政策と民俗学」現代民俗学会 第50回研究会「民俗学の論点2020」オンライン開催

内山 大介「体験と実践のフィールド学—昭和期東北の農村問題と山口弥一郎—」現代民俗学会第52回研究会「農民文学／農村問題から民俗学史を拡張する」オンライン開催

内山 大介「震災・原子力災害に向き合う博物館—資料保全から地域と記憶の継承へ—」地底の森特別講座「ミュージアムと災害」第2回 仙台市富沢遺跡保存館・地底の森ミュージアム

大里 正樹「民俗調査者として見た柳津町の民俗」ライフミュージアムネットワーク2020連続オープンディスカッション「奥会津の周り方第2回—清の眼・根っこの眼—それぞれの地域学」於やないづ町立斎藤清美術館

イ 他団体による委嘱等

阿部 綾子  
・相馬市史編さん調査執筆員ほか3件

猪瀬 弘瑛  
・ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター

内山 大介  
・共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」共同研究員ほか10件

大里 正樹  
・会津坂下町史編さん専門委員ほか5件

川延 安直  
・喜多方市美術館収集委員会委員ほか7件

栗原 祐斗  
・熊谷市史編集委員（近代・現代専門部会 特別調査員）

小林 めぐみ  
 ・福島芸術計画運営委員会委員ほか10件  
 佐藤 洋一  
 ・共同研究『『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究』  
 共同研究員  
 杉崎 佐保恵  
 ・文化財保存修復学会第43回大会実行委員  
 高橋 充  
 ・二本松城跡整備検討委員会委員ほか12件  
 高橋 満  
 ・「資源利用史 研究クラスター」研究推進員  
 ほか1件  
 田中 敏  
 ・会津坂下町史編さん委員ほか3件

塚本 麻衣子  
 ・喜多方市文化財保護審議委員ほか1件  
 筑波 匡介  
 ・長岡造形大学非常勤講師ほか1件  
 ウ 研究助成金等  
 杉崎 佐保恵：古墳時代の金属製象嵌製品の製作技法  
 の解明と保存修復のための診断技術の確  
 立  
 高橋 満：科研費・基盤研究（C）「霞ヶ浦沿岸にお  
 ける縄文時代土器製塩史復元のための基礎的  
 研究」研究代表者  
 高橋 満：科研費・基盤研究（A）「日本列島にお  
 ける製塩技術史の解明」研究分担者

## 6 教育普及事業

### (1) 講座・講演会

館長と学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演会等を実施している。令和2年度の各講座開催数は77、総参加者数は2,151人であった。

ア 令和2年度講座・講演会等行事一覧

(ア) 館長講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
最終講座「座談会 福島県立博物館 これまでの10年・これからの10年」上映会	赤坂 憲雄(前館長)・川延 安直(副館長)・佐々木 長生(福島県民俗学会会長/元当館学芸員)・竹谷 陽二郎(磐梯山ジオパーク/元当館学芸員)・森 幸彦(大熊町教育委員会/元当館学芸員)	令和3年2月20日(土)	23

(イ) 特別講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特別講座①「詩人のいる博物館 ふくしまを書く」	和合 亮一(詩人) 千葉 青藍(書道家)	令和2年9月12日(土)	33
特別講座②「詩人のいる博物館 会津を語る、詩を語る」	和合 亮一(詩人) 佐藤 巖太郎(小説家)	令和3年1月31日(日)	53
特別講座③「詩人のいる博物館 ふくしまを写す」	和合 亮一(詩人) 岩根 愛(写真家)	令和3年3月28日(日)	56

(ウ) 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
歩いて学ぶ会津大塚山古墳	平澤 慎(学芸員)	令和2年11月7日(土)	20
勾玉をつくろう	平澤 慎(学芸員)・田中 敏(学芸員)	令和3年3月20日(土)	20

(エ) 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ポイント展でまなぶ！ふくしまの民俗②「描かれた民俗」	大里 正樹(学芸員)	令和2年8月23日(日)	18
民俗講座「いまさら聞けないこづゆのアレコレ」	江川 トヨ子(学芸員)	令和2年12月6日(日)	9
記録映像で見るふくしまの暮らし①鶏足神社の浜下り		令和2年12月20日(日)	10
記録映像で見るふくしまの暮らし②中ノ沢こけし製作のわざ		令和3年1月17日(日)	14
記録映像で見るふくしまの暮らし③冬木沢参りの習俗 記録編		令和3年2月21日(日)	32
記録映像で見るふくしまの暮らし④只見川流域のひな流し		令和3年3月21日(日)	19

## (イ) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
企画展先取り講座⑤「旧盆の帰省と小旅行―郡山から若松へ―」	佐藤 洋一 (学芸員)	令和2年6月27日(土)	18
はじめてさんの古文書講座①	阿部 綾子 (学芸員)	令和2年10月17日(土)	20
はじめてさんの古文書講座②	栗原 祐斗 (学芸員)	令和2年11月21日(土)	19
はじめてさんの古文書講座③	高橋 充 (学芸員)	令和2年12月19日(土)	18
テーマ展を味わう講座「山川浩と健次郎」	佐藤 洋一 (学芸員)	令和3年2月6日(土)	54

## (ロ) 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
化石博士の発掘最前線	猪瀬 弘瑛 (学芸員)	令和2年8月8日(土)	30
鶴ヶ城の野鳥	古川 裕司 (野鳥研究家)	令和2年11月8日(日)	13

## (ハ) 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
2回連続講演会「装飾古墳壁画をまなぼう！」 1回目 「国指定史跡・清戸迫横穴の保存管理について」	吉野 高光 (双葉町教育委員会)	令和2年9月21日(月)	24
2回連続講演会「装飾古墳壁画をまなぼう！」 2回目 「朱とベンガラー日本列島の古墳にみる二つの赤ー」	志賀 智史 (九州国立博物館)	令和2年9月27日(日)	22
博物館の舞台裏 講演バージョン	杉崎 佐保恵 (学芸員)	令和3年2月27日(日)	19

## (ニ) 美術講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
刀匠が触っているのを見ている刀剣講座	藤安 将平 (将平鍛刀場刀匠)	令和2年8月16日(日)	37
よくわかる仏教美術1「場所～仏像はどこにいる？」	塚本 麻衣子 (学芸員)	令和2年10月11日(日)	27
よくわかる仏教美術2「儀礼～何を祈る？どう祈る？」	塚本 麻衣子 (学芸員)	令和2年10月25日(日)	35
よくわかる仏教美術3「人～つくらせる人、つくる人」	塚本 麻衣子 (学芸員)	令和2年11月1日(日)	34
やさしい焼きもの講座1ー大堀相馬焼の歴史	原 恵理子 (学芸員)	令和2年11月28日(土)	14
やさしい焼きもの講座2ー大堀相馬焼のいま・これから	小野田 利治 (大堀相馬焼協同組 合理事長)	令和2年12月12日(土)	7

## (ホ) 防災講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ミニ防災講座 楽しいそなえ	筑波 匡介 (学芸員)	令和2年9月1日(火)	28

## (ヘ) 実技講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
からむしにふれる～からむし縄のマスク作り～	加藤 萌絵 (からむし作家・研究家) ・田嶋 紀佳 (からむし織研修生)	令和3年1月23日(土)	11

## (ト) 実演

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
昔語り	会津民話会の皆さん	令和3年3月27日(土)	31

## (チ) 企画展関連行事

テーマ	講師	期日	参加人数
企画展「ふくしまの旅ー懐かしの景色を訪ねてー」 展示解説会	栗原 祐斗 (学芸員)	令和2年6月28日(日)	29
企画展「会津のSAMURAI文化」内覧会		令和2年7月31日(金)	35
企画展「会津のSAMURAI文化」見どころ解説会	高橋 充 (学芸員)	令和2年8月1日(土)	12

テーマ	講師	期日	参加人数
企画展「会津の SAMURAI 文化」見どころ解説会	高橋 充 (学芸員)	令和2年8月8日(土)	5
		令和2年8月13日(木)	7
		令和2年8月14日(金)	10
		令和2年8月15日(土)	4
		令和2年8月22日(土)	16
		令和2年9月5日(土)	5
		令和2年9月12日(土)	10
		令和2年9月19日(土)	5
野外講座「鶴ヶ城の石垣を見る、歩く」	近藤 真佐夫 (会津若松市教育委員会)・相田 優 (学芸員)	令和2年9月5日(土)	19
企画展「発掘された日本列島2020」内覧会		令和2年10月9日(金)	34
講演1「『発掘された日本列島2020』展－特集1の見どころ」	芝 康次郎 (文化庁)	令和2年10月10日(土)	40
企画展「発掘された日本列島2020」見どころ解説会	高橋 満・平澤 慎 (学芸員)	令和2年10月24日(土)	20
		令和2年11月3日(火・祝)	43
講演2「櫛からたどる古墳時代の日本列島と東アジア－会津大塚山古墳・灰塚山古墳の櫛が語ること－」	木沢 直子 (公益財団法人元興寺文化財研究所)	令和2年10月31日(土)	39
講演3「ユネスコ世界の記憶「上野三碑」を読み解く」	角田 真也 (高崎市教育委員会)	令和2年11月15日(土)	40
企画展「震災遺構を考える」内覧会		令和3年1月15日(金)	22
企画展「震災遺構を考える」見どころ解説会	筑波 匡介 (学芸員)	令和3年1月16日(土)	18
		令和3年1月30日(土)	2
		令和3年2月13日(土)	17
		令和3年3月11日(木)	19
上映会「Life 生きてゆく」		令和3年2月11日(木・祝)	77
フォーラム「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」	佐藤 公(磐梯山噴火記念館)、二上文彦(南相馬市博物館)、瀬戸 真之(東日本大震災・原子力災害伝承館)、筑波 匡介 (学芸員)	令和3年3月6日(土)	64
防災講座「楽しいそなえ」	渡邊 浩二 (地域活動サポートセンター 柏崎)	令和3年3月21日(日)	12

(ス) ミュージアムイベント

テーマ	講師	期日	参加人数
ナイトミュージアム	当館学芸員	令和2年8月29日(土)	47
親子で楽しむコンサート	善久(オカリナ奏者)・榊原 聡子(ピアニスト)	令和2年9月20日(日)	40
けんぱくクリスマスコンサート	井上 仁一郎(ギター奏者)・榊原 聡子(キーボード)・渡邊 奈美(朗読)	令和2年12月13日(日)	93
上映会 アニメーション「無念」		令和3年2月28日(日)	49
会津の彼岸獅子－伝統芸能を次世代に伝える	本滝沢獅子舞保存会の皆さん	令和3年3月7日(日)	84

(セ) ポイント展ミニ解説会

テーマ	講師	期日	参加人数
ポイント展「道中絵図にみる秀吉の通った道」ミニ解説会	高橋 充 (学芸員)	令和2年6月26日(金)	19
ポイント展「秀吉がやってきた！」ミニ解説会	高橋 充 (学芸員)	令和2年8月7日(金)	24
ポイント展「なるほど！太閤検地」ミニ解説会	高橋 充 (学芸員)	令和2年9月11日(金)	13
ポイント展「チャレンジ！今月の古文書 正月編」ミニ解説会	阿部 綾子 (学芸員)	令和3年1月29日(金)	10
ポイント展「チャレンジ！今月の古文書 如月編」ミニ解説会	栗原 祐斗 (学芸員)	令和3年2月26日(金)	13
ポイント展「チャレンジ！今月の古文書 弥生編」ミニ解説会	高橋 充 (学芸員)	令和3年3月26日(金)	11

## (イ) 子育て世代対応事業

テーマ	講師	期日	参加人数
親子でたのしむワークショップ	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	令和2年8月13日(木)	38
親子でたのしむワークショップ	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	令和2年8月14日(金)	31
親子でたのしむワークショップ	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	令和2年8月15日(土)	52
親子でたのしむワークショップ	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	令和2年9月21日(月)	83
幼児向けワークショップ「おめんをつくろう」	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	令和3年1月9日(土)	21

## (ロ) 後援事業

テーマ	主催	期日	参加人数
会津若松市立幼・小・中学校長会議	会津若松市教育委員学校教育課	令和2年11月18日(水)	40
会津民俗研究会 公開講演会	会津民俗研究会	令和3年3月14日(日)	51

## (ハ) ライフミュージアムネットワーク事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
フォーラム「土地の記憶とミュージアム」	山下 美晴(舞鶴引揚記念館館長)・吉岡宏高(NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団理事長)・岩名 泰岳(島ヶ原村民芸術「蜜の木」)	令和3年1月24日(日)	20

## (ニ) 友の会事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
友の会講演会「はやぶさ2と福島」	出村 裕英(会津大学教授)	令和3年3月13日(土)	40

## (2) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

## ア 展示室での自主学習(しおり・ワークシート)

## (イ) 博物館見学のしおり(小・中学生用)

主に修学旅行などの班行動などで活用されていたワークシートであるが、新型コロナウイルス感染防止対策のため配布を中止した。班行動の児童・生徒への学習支援が課題である。

## (ロ) 常設展総合展示室案内シート

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点を踏まえ、展示室内で興味をもった資料や展示品を見つけて、スケッチを交えながら内容をまとめるワークシートを考案し、個人の興味・関心に基づいて主体的に学ぶことができる内容とした。

## イ 学習プログラム

従来は各団体のニーズに応じたきめ細かい事前相談に取り組み、幅広い年齢層に対応できるプログラム作りに工夫改善を図ってきた。新型コロナウイルスの影響下においても、学校団体については日常の授業と博物館の見学を効果的に結び付けることができる活動メニューを準備し、講堂等でのレクチャーによる展示室案内等をおこ

なった。今年度は接触機会の低減を図りながら、子どもたちが博物館の資料を用いる体験学習の展開を模索した。また、幼児に向けて前年度試行した「未就学児対応学習プログラム」のうち冬季プログラムについても、協力園の園児たちに試行した。

## ウ 指導者向け研修

今年度は「新型コロナウイルス対策に留意した団体学習」をテーマに、学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施した。博物館のもつ多様な学習プログラムをお伝えすることで当館の学習支援活動の、学校や公民館における活用の推進を図った。

・令和2年8月4日(火) 22名の参加

## エ 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。令和2年度については新型コロナウイルス対策のため貸出を中止した。

## オ ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和2年度の実施回数は11回で、参加者は1,197人であった。

## ゲストティーチャー実施一覧

月 日	講 師	分野	内 容	実施先	科目
令和2年8月28日(金)	阿部 綾子	歴史	戊辰戦争についての講話	会津若松市立東山小学校	6学年 総合的な学習の時間

月 日	講 師	分野	内 容	実施先	科目
令和2年9月1日(火)	小林 めぐみ	美術	地域に根差す日本の伝統文化を学ぶ(会津型と日本の文様)	会津若松市立第二中学校	2学年 美術
令和2年9月2日(水)	筑波 匡介	震災	いのちを守る学習①	下郷町立江川小学校	全校生徒 総合的な学習の時間
令和2年9月10日(木)	筑波 匡介	震災	東日本大震災の惨状を理解する資料の見学と講話(震災遺産講座)	喜多方市立第一中学校	1・2学年 防災学習会
令和2年10月12日(月)	筑波 匡介	震災	いのちを守る学習②	下郷町立江川小学校	全校生徒 総合的な学習の時間
令和2年10月29日(木)	弦巻 優太 猪瀬 弘瑛	自然	「大地のつくり」「変わり続ける大地」	会津若松市立湊小学校	6年生 理科
令和2年11月11日(水)	筑波 匡介	震災	地域合同防災訓練での体験コーナーでの指導	喜多方市立第一中学校	全校生徒 総合的な学習の時間
令和2年11月12日(木)	筑波 匡介	震災	あいづっこ人材育成プロジェクト事業「地域から学ぶ」防災学習「震災遺産を考える」	会津若松市立第二中学校	全校生徒 総合的な学習の時間
令和2年12月10日(木)	筑波 匡介	震災	授業参観を機会に、生徒保護者にも防災・減災の知識を身に付けさせる。	只見町立只見中学校	1・2学年、保護者 総合的な学習の時間 (授業参観)
令和3年2月24日(水)	筑波 匡介	震災	企画展震災遺産を考える展示解説	会津若松市立第二中学校	2年生 総合的な学習の時間
令和3年3月5日(金)	筑波 匡介	震災	震災遺産から考える防災教育	会津美里町立高田中学校	3年生 総合的な学習の時間

#### カ 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・労働観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和2年度は1校からの要請があり、受け入れを実施した。

##### ○職場体験受け入れ実績(生徒のみ)

- ・三島町立三島中学校(2年生:1名) 2日間

#### キ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。令和2年度は県内出身及び県内大学に在学する学生7名を受け入れた。

実習期間 令和2年8月25日(火)～30日(日)

### (3) 生涯学習・研究支援

#### ア 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物及び博物館資料に

関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,713冊である。

#### イ 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

##### 分野別特別観覧件数

考古:4件55点 歴史:9件143点 民俗:2件8点  
震災遺産:1件32点 計16件238点

#### ウ 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。令和2年度の派遣回数は23回で、参加者は991人であった。

#### 講師派遣一覧

No.	月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
1	令和2年9月11日(金)	川延 安直	美術	江戸時代の絵画	まちなかコンシェルジュ勉強会
2	令和2年9月16日(水)	筑波 匡介	震災	防災教育「震災遺産講座」	国立磐梯青少年交流の家
3	令和2年9月18日(金)	高橋 充	歴史	お城の話	まちなかコンシェルジュ勉強会
4	令和2年9月21日(月・祝)	高橋 充	歴史	蒲生氏郷 歴史講演・座談会	会津まつり協会
5	令和2年9月25日(金)	川延 安直	美術	江戸時代の会津の絵画	まちなかコンシェルジュ勉強会
6	令和2年9月30日(水)	高橋 充	歴史	福島県の城・町・博物館	福島県立医科大学
7	令和2年10月7日(水)	内山 大介	民俗	医療と民俗 I 妊娠と出産	福島県立医科大学

No.	月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
8	令和2年10月14日(水)	内山 大介	民俗	医療と民俗Ⅱ 死と葬送	福島県立医科大学
9	令和2年10月18日(日)	高橋 充	歴史	会津の経塚についてー松野千光寺 経塚を中心にー	喜多方市中央公民館
10	令和2年10月21日(水)	筑波 匡介	震災	自ら考え、家族と共有して防災力 を上げる児童の育成	下郷町立江川小学校
11	令和2年10月21日(水)	猪瀬 弘瑛	自然	化石の宝庫・福島県	福島県立医科大学
12	令和2年10月25日(日)	筑波 匡介	震災	記憶／記録の検証とこれからの 10年	みやぎボイス連絡協議会、(一社) 日本建築学会災害委員会 ほか
13	令和2年10月27日(火)	筑波 匡介	震災	防災講座「楽しいそなえ」～震災 遺産から学ぶ～	あいづわくわく学園
14	令和2年11月6日(金)	筑波 匡介	震災	防災講座「楽しいそなえ」～震災 遺産を考える～	会津若松市生涯学習総合センター
15	令和2年11月8日(日)	筑波 匡介	震災	六中生防災ワークショップ、ミニ 防災講座	会津若松市北公民館
16	令和2年11月13日(金)	平澤 慎	考古	会津の古墳時代	まちなかコンシェルジュ勉強会
17	令和2年11月17日(火)	塚本 麻衣子 江川 トヨ子	美術 民俗	仏像のキホン・見方のおすすめい まさら聞けないこづゆのアレコレ	昭和村公民館
18	令和2年11月18日(水)	高橋 満	考古	蒲生氏郷と若松城下町の誕生	会津若松市区長会
19	令和2年11月18日(水)	筑波 匡介	震災	震災遺産を考える	福島県高等学校新聞連盟県大会
20	令和2年11月20日(金)	川延 安直	美術	江戸時代の会津の絵画	まちなかコンシェルジュ勉強会
21	令和3年1月8日(金)	塚本 麻衣子 高橋 充	美術 歴史	日本遺産会津の三十三観音めぐり の醸成	極上の会津プロジェクト協議会
22	令和3年1月23日(土)	平澤 慎	考古	灰塚山古墳がつくられたころー古 代喜多方の謎に迫るー	喜多方市中央公民館
23	令和3年3月19日(金)	高橋 充	歴史	蒲生氏郷と若松の城・町の誕生	大人の休日倶楽部趣味の会

#### エ 未就学児連携事業

多様な利用者層に対応したプログラムの開発として、前年度協力園の園児たちに試行したプログラムを今年度はさらに検証の上本格的に実施していく予定であったが、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、本格的な実施を中止し、これまで未実施だった冬季のプログラムを協力園と試行することとし、「雪ふみ俵とカンジキ体験」を行った。

#### オ 子育て世代対応事業

「博物館でもよみきかせ」「親子で探検！博物館のウラ側」「子どもミニミニ博物館」を予定していたが、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑みいづれも中止した。その代替として、読み聞かせボランティア団体として連携している会津大学短期大学部幼児教育学科の先生・学生と打合せを重ね、感染拡大防止がとれる内容を考案し「親子で楽しむワークショップ」を実施した。

#### カ 動画の制作と配信

コロナ禍で来館しづらい状況が続く中、自宅でも楽しみながら学べる機会を提供しようというねらいのもと動画の制作と配信を新たに開始した。令和2年度は50本の動画を公開した。

#### (4) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して広報紙「なじよな」の送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

##### ア 友の会の概要

(ア) 発足 平成元年3月10日

(イ) 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(ウ) 総会の開催

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(エ) 令和2年度会員数

個人会員：119 家族会員：28 高校生会員：0  
賛助会員：4 合計：151

##### イ 令和2年度事業概要

(ア) 研修旅行

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止。

(イ) 会報の発行

第122号・第123号と2回の会報を発行し会員に配布した。

(ウ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、参加申し込み・定員制とし、展示室での解説は行わず、講堂での解説、展示室での自由観覧という開催形態をとった。

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

ウ サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会の2サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。また、今年度は新たなサークル設立へ向けた動きも現れ、そのための検討も行われた。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立。会員数35名。令和2年度は次の活動を行った。

- a 成果展搬入・展示準備
- b 化石・鉱物探検隊ミニ成果展
- c 田代鉱山・(重晶石・閃亜鉛鉱・オパールほか)
- d 真米鉱山(磁硫鉄鉱・硫砒鉄鉱・螢石)
- e 化石・鉱物学習会
- f 総会 研修会

(イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時20～25名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。令和2年度の活動人数は18名で、月1回・第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に文字・内容の検討を行った。

## 7 文化財・自然資料レスキュー

### (1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー

東日本大震災の発生以来、福島県立博物館では、被災文化財・自然資料レスキューを実施してきた。令和2年度には次の活動を行った。

ア レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」(以下「救援本部、当館は副代表・幹事・事務局」)に参画して活動した。前年度に設置要綱が一部改正された後、今年度は幹事会1回(10月28日)が行われたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、被災地域の資料への対応などの活動は低調であった。

イ 被災地域の資料への対応

当館が新規に関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成23年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、今年度の該当はなかった。

### (2) 令和元年東日本台風(令和元年台風19号)に伴う被災文化財等レスキュー

令和元年10月12日に日本に上陸した令和元年東日本台風(令和元年台風19号)に伴う河川の氾濫により、資料館・博物館等の文化財を収蔵する施設が被災し、文化財等の水損被害が各地で発生したことから、次の活動を行った。

ア レスキュー作業の体制

福島県立博物館では文化財課や福島県立美術館、福島県文化財センター白河館(まほろん)、ふくしま歴史資料保存ネットワーク(福島大学)と連絡をとりながら、被害状況に関する情報収集や現況確認調査などに協力した。

イ 被災地域の資料への対応

今年度は、6月20日(土)に本宮市内の個人宅の蔵の解体に伴う調査及び本宮市歴史民俗資料館の状況確認に当館学芸員が参加した。

### (3) 令和3年2月の福島県沖地震被害に伴う活動

令和3年2月13日(土)に発生した福島県沖地震による文化財の被害は、県北・県中・相双地域に多いが、ほぼ県内全域に及んだ。

当館では、新地町の個人宅の資料レスキュー作業を宮城資料保存ネットワーク・ふくしま史料保存ネットワークが合同で実施した際に、学芸員1名が参加した。

## 8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

### (1) 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会が解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプロジェクトチームとして活動を続けている。令和2年度は民俗2名、考古1名、歴史3名、自然1名、美術1名の計8名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害史担当学芸員を中心に所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、企画展の実施、記録誌の編集を行った。

## (2) 震災遺産の調査・保全

震災遺産にかかわる今までの活動の経緯や、資料の来歴などを取りまとめた。特に富岡町災害対策本部跡に関係する資料の撮影を行った。プロジェクト実行委員会時のメンバーや、退職・移動された学芸員からも情報提供いただき記録誌「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」を編集した。

## (3) 他団体・他機関との連携・協力

東日本大震災原子力災害伝承館、南相馬市博物館、磐梯山噴火記念館といった運営主体が異なるミュージアムと連携し防災教育に関するフォーラム「博物館が地域で生きる力を育むために みんなでつくる・考える防災教育」として、福島県博物館連絡協議会「被災博物館・被災文化財救済事業」を活用し実施した。フォーラムでは群馬大学の金井昌信教授から「博物館ができる、防災を手段とした地域教育を考える」として講演していただいた。フォーラムに先立って、会場周辺の見学会を行い、請戸小学校など参加者とともに巡検した。また、講座の実施にあたっては、地域人材の活用等意識して、地域の防災士や行政の防災担当職員、教育委員会の防災担当指導主事などとも連絡を取りあい、連携した運営を行うことができた。

## (4) 普及事業

防災講座は感染症対策を先方と協議しながらなるべく実施することとした。相談を受け、授業を学校とともに考えることに注力した。移動した先からも講座依頼が来るなど、評価を得たものと考えている。また新たに国立磐梯青少年交流の家と連携し猪苗代高校・湖南高校に対して防災教育プログラムを実施した。福島県高校生新聞部県大会にて講演をおこなったことで、郡山東高校、郡山北工業高校、白河高校の新聞部から取材を受け、各校が発行する新聞で震災遺産を紹介する記事が掲載された。高校との連携として新しい手段を見出すことができた。

企画展を開催しイベントも行った。とくに今後博物館がどのように災害と向き合っていくのかをテーマとしたフォーラムには、アーカイブズ学、博物館学、社会学といった様々な研究分野から参加を頂き、今後の調査・研究への展開に先鞭をつけることができた。

小学校2件、中学校6件、高校2件、公民館3件のゲストティーチャー及び講師派遣の対応を行った。また、指導者講習の反響として公民館からの依頼を複数頂くことにつながった。

## 9 ライフミュージアムネットワーク

### (1) 事業趣旨

東日本大震災後を契機に【いのち(ライフ)】と【くらし(ライフ)】に再び誠実に向き合い同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張することを目指し、平成30年度よりライフミュージアムネットワーク実行委員会を設立、活動を行った。

## (2) 組織

- ア 主催 ライフミュージアムネットワーク実行委員会
- イ 構成団体  
南相馬市博物館、はじまりの美術館、三島町生活工芸館、一般社団法人ふくしま連携復興センター、原爆の国丸木美術館、福島県立博物館
- ウ 委員長 鈴木 晶 (館長)
- エ 事務局 福島県立博物館

## (3) 実施期間

- ア 実施期間  
令和2年4月1日(水)～令和3年3月31日(水)
- イ プロジェクト活動期間  
令和2年5月21日(木)～令和3年3月31日(水)

## (4) 助成

文化庁令和2年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

## (5) 事業内容

リサーチ、オープンディスカッション、スタディツアー、フォーラム、プログラム開発を実施し、記録集(『ライフミュージアムネットワーク2020活動記録集』、プログラム開発「多様なニーズに応えるミュージアムの利活用プログラム」記録集、プログラム開発「生活資料を活用したミュージアムの連携プログラム」記録紙、プログラム開発「地域資源の活用による地域アイデンティティの再興プログラム」記録集、奥会津スタディツアー記録集)を作成した。

## 10 三の丸からプロジェクト

### (1) 事業趣旨

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画の実現のため、令和2年度から5ケ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

## (2) 組織

- ア 設置者 福島県立博物館 (福島県)
- イ 推進事業者  
会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会(地域連携DMO)、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

## (3) 助成

令和2年度文化芸術振興費補助金(文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業)

## (4) 事業内容

令和3年度福島県立博物館企画展「会津の絵画」と連携した展示を令和3年度に若松市内4ヶ所(若松城天守閣郷土博物館、竹藤、福西本店、末廣酒造嘉永蔵)で展開するための準備として、各会場との展示案の検討、周遊促進

パンフレットの作成、趣旨等説明多言語パネル(英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字))の作成を行った。

## 11 歴史博物館・自然史博物館・美術館における認知症対応プログラム実践事業

### (1) 事業趣旨

認知症に対処する社会的コストは膨大な規模で増加しつつあり、もはや従来型の手法だけでは公助・自助共に限界に達しつつある。また、コロナ禍においては、医療機関において面会の制限等も発生しており、親族とのコミュニケーションも限定的となっていると推測される。

こうした背景のもと、認知症の予防及び初期認知症の進行緩和に関して、「回想法」など、脳の認知機能の活性化を目的に文化面でのアプローチをニューノーマル、アフター・コロナの時代をふまえて試みる。そして、これらの取り組みが、博物館・美術館にとって、新たな社会的サービスになることを目的に事業の実施と検証を行う。

### (2) 組織

- ア 主催 株式会社乃村工藝社、福島県立博物館
- イ 協力団体 特別養護老人ホーム桐寿苑
- ウ 事務局 株式会社乃村工藝社

### (3) 実施期間

令和2年10月20日(火)～令和3年3月31日(水)

### (4) 助成

博物館等における「新しい関係性の構築」による収益確保・強化事業

### (5) 事業内容

リモート研修、回想法の実施、各回の振り返り、ハンドブック及び映像の制作

自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年度より公益財団法人に移行)」に指定管理することとなる。

平成30年度に開催した指定管理者選定検討会において令和元年度から令和5年度まで「福島県郡山自然の家」について、「学校法人国際総合学園」に、「福島県いわき海浜自然の家」について、「公益財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。

令和2年度に開催した指定管理者選定検討会において令和3年度から令和5年度まで「福島県会津自然の家」について、「アメニティグループ」に指定管理することとなる。

### (2) 所在地

- ア 福島県郡山自然の家  
福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46  
〒963-0213 TEL 024-957-2111  
FAX 024-957-2112  
URL <https://koriyama-nc.fcs.ed.jp/>
- イ 福島県会津自然の家  
福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1  
〒969-6504 TEL 0242-83-2480  
FAX 0242-83-2481  
URL <https://www.aizu-shizen.jp/>
- ウ 福島県いわき海浜自然の家  
福島県いわき市久之浜町田之網字向山 53  
〒979-0335 TEL 0246-32-7700  
FAX 0246-32-7730  
URL <https://iwaki-nc.fcs.ed.jp/>

## 第14節 福島県自然の家

### 1 概要

#### (1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」(以下「自然の家」という。)を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」(以下「青年の家」という。)を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年

## 2 教育目標及び基本的視点

### (1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

- ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。
- イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
- ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

### (2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

- ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
- イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
- ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
- エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。
- オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

## 3 新型コロナウイルスの影響

自然の家の令和2年度の受け入れは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度の令和2年3月4日(水)から4月20日(月)まで個人の日帰り屋外利用のみを受け入れとしたが、4月21日(火)から5月15日(金)までは全ての利用受け入れを停止した。

5月16日(土)から個人の日帰り屋外利用のみ受け入れを再開し、その後、段階的に受け入れの範囲を拡大したが、令和3年1月13日(水)から再び宿泊利用の受け入れを停止し、日帰り利用のみの受け入れとした。2月22日(月)には宿泊利用受け入れを再開した。

なお、施設の受け入れは定数の半数以下として運用した。

## 第15節 福島県郡山自然の家

### 1 概要

#### (1) 沿革

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、令和2年度には延べの利用者数が177万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約11km、郡山中央スマートインターから車で約6分、郡山南インターより約8分とい

う交通の便に恵まれ、豊かな自然環境に囲まれた都市近郊型の自然の家として、心身共に健全で心豊かな青少年を育成することを目的とした社会教育施設である。

平成31年4月1日より学校法人国際総合学園が指定管理者となり管理運営を行っている。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、一般社会人、家族など利用者層が多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開している。

また、生涯学習の拠点として県民に親しまれる施設を目指し、随時、施設の改築・改修を進め、年代や性別を問わず利用しやすい施設とすべく対応を進めてきた。

また、園児から高齢者まで幅広い年齢層の方々に利用していただけるよう、多種多様な企画事業を展開するとともに、特色あるプログラムの開発に努めてきた。

東日本大震災以降は、放射線量が比較的高い場所の除草や表土の除去、活動コース付近の落ち葉等の除去を実施し放射線量の低減化に取り組むとともに、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに掲載するなど、情報提供に努めてきた。

年間の利用状況については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休所や企画事業の中止及び利用人数を制限した影響で、利用団体数203団体(前年比289団体減)、延べ利用者数5,024人(前年比24,996人減)となった。

### (2) 職員組織

職名	人員
所長	1
指導部長	1
事務局長	1
指導部主任	1
指導員	2
体験指導員	3
事務員	1
運転手	1
計	11

### (3) 令和2年度重点目標と成果

「SDGsを念頭に社会教育施設として質の高い活動を提供するとともに、多種多様な価値観を共有できる魅力あふれる自然の家。」を実現すべく取り組んだ。

ア 利用団体への効果的な支援の充実

(ア) 団体が主体的に活動できるよう、学校利用・社会教育団体利用の利用に際しては、利用団体の指導者との緊密な連携に努めた。学校利用については、4月と7月に「学校利用指導者研修会」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため8月に1回

の実施となった。そこでは特に新型コロナウイルスへの対応について詳細に説明するとともに、安全安心な利用を進めるための本所の取り組みについて情報提供に努めた。活動プログラムの作成に際しては、参加者が密にならないように配慮した。

- (イ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にしながら、新型コロナウイルス対応に万全を期すよう事前の施設見学を実施するとともに活動計画作成を支援した。
- (ウ) 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、コロナ禍にあっても安全安心な対応が図れるよう努めた。

#### イ 魅力ある企画事業の運営

- (ア) コロナ禍にあっても季節感を生かした魅力ある事業を企画立案するとともに、参加人数を見直し密にならないよう注意しながら地域や関係機関との連携に努めた。
- (イ) 前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、施設利用者の満足度を高める運営に努めた。

#### ウ 広報の充実と利用促進

- (ア) ホームページやインスタグラムなど様々な広報機会を利用し、本所における新型コロナウイルス対策に関する情報提供に努めた。また、コロナ禍にあっても新しい生活スタイルに対応した事業周知の在り方を模索する中で、在籍する園・学校をとおして園児・児童・生徒にチラシを配布することにより各家庭に、各種企画事業について直接情報提供を行った。

また、参加実績がある方に事業に関する案内を電子メールで直接情報提供を行った。

- (イ) 新型コロナウイルスに関する対応や企画事業案内及び事業の実施状況等をホームページに掲載するなど、タイムリーな情報提供に努めた。また、毎月エリア内5か所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう情報提供に努めた。
- (ウ) 県内5つの自然の家が集まって広報機会を共有するという目的の下、「自然の家広報連絡会」を実施した。それにより地域を超えた広報活動が可能となり、より多くの県民に情報提供がなされることとなった。
- (エ) 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなみ「サザンピーククラブ」とした。発足から年数がたっており会員の中には所の利用実績がないといった方もいることから、再度、全会員に継続の有無について意思確認を行い名簿の整理を行った。

#### エ 安全管理と保健安全指導の徹底

- (ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という前提に立って、所員の安全意識の徹底を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても施設の安全な利用について働きかけを行った。

また、新型コロナウイルスに関する対応マニュアルを作成し、随時見直しを行いながら対策の徹底を図った。

- ・各団体の利用前のコースや遊具点検の徹底。
- ・3密回避と換気及びマスクの着用、手洗いの徹底。
- ・特に食堂利用時の感染防止のため、アクリルボードを設置し、黙食の徹底を図った。また、食物アレルギー対応のため、利用団体との情報共有及び給食業務委託業者との連携を進めた。
- ・スズメバチ等害虫対策として、捕虫装置の設置と点検を実施した。
- ・松食い虫被害による倒木防止のため、郡山市森林組合との連携による計画的な伐採と日常の安全点検を実施した。

- (イ) 防災に関しては、国際医療看護福祉大学の協力の下、給食・警備・清掃等の委託業務担当者の参加協力を得て消火訓練や避難訓練・救急救命訓練を実施した。毎年定期的実施することにより、関係者のスキルアップが図られ、コロナ禍であったが3密を回避しながら実効性のある訓練を実施することができた。実際に消火設備を用いて放水訓練を実施することにより、運用上の課題が明確となり対策を講じることができ実効性のある訓練となった。さらに、安全な施設は、そこに勤務する職員の意識に負う所が大であり、そのため相互の信頼関係を日々醸成するため情報の共有・伝達を丁寧に行った。

#### オ 施設・設備の整備及び消毒

- (ア) 常に利用者目線での施設の整備に努めた。具体的にはフィールドワーク活動の際など、小学生の目線でコース整備を行い目の高さにある木の枝を除伐したり、コースロープを設置したりして、安全・安心に利用できるよう対応に努めた。また、総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検に際して、「目視、触診、打音、振動、負荷、作動」により器具の状態を確認するとともに随時、必要な補修及び整備を行った。
- (イ) 館内については、トイレはもとより使用した一切のものについて消毒の徹底を図った。また、管理簿を部署ごとに準備し、消毒の有無について所員が情報を共有するとともに責任の所在が明らかとなるよう体制を整え対応した。また、所バスについても同様の消毒対応を実施した。

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

### (2) 宿泊定員

ア 本館 172名 (15部屋)

イ ロッジ 126名 (9棟)

ウ テント 120名 (20張)

### (3) 敷地面積

237,587.59 m<sup>2</sup>

#### (4) 建物面積

延床面積 3,792.12 m<sup>2</sup>

- ・本館（管理棟・宿泊室・研修室・浴室）
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

#### (5) 設備備品等

##### ア 野外活動設備

（みどりの広場アスレチック、フィールドアドベンチャーコース、アーチェリー場24的、ナイトハイクコース、スコアオリエンテーリングポスト、フィールドワークコース、スタンプラリー、営火場4か所）

##### イ その他

（野外炊飯用具、インラインスケート、フリスビーゴルフ、フロッカー、キンボール、ペタンク、マウンテンバイク、グランドゴルフ、スナッグゴルフ、スラックライン、ボッチャ、そり、各種クラフト用具、伝承遊びセット、ピアノ、双眼鏡、液晶プロジェクター、テレビ ほか）

### 3 利用状況

#### (1) 令和2年度利用者数

延べ利用者数 5,024人

内訳	学校教育団体	105団体	3,055人
	社会教育団体	56団体	875人
	ファミリー	7団体	24人
	企画事業	35団体	1,070人

### 4 企画事業

#### (1) 研修会事業

##### ア 学校利用指導者研修会

###### (ア) 目的

本所での主体的な利用促進のため、活動計画の立案や活動の実際について研修し、指導者としての資質を高め、同時利用校（園）との調整を図る。

###### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 第一回 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

第二回 令和2年8月3日(月)

参加者数 29名

###### (ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・新型コロナウイルス感染症対策について
- ・活動プログラム実技研修

#### (2) 利用拡大事業

##### ア サクラ・カタクリ週間

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### イ さくらウオーク

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### ウ オープニングセレモニー

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### エ 春のオープンデー

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### オ 親子でチャレンジ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### カ 夢冒険キャンプ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### キ 一切経登山を楽しもう

（未来キッズ生き生き事業と併催）

###### (ア) 目的

登山についての知識を学び、トレッキングしながら紅葉を楽しむ。

###### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和2年9月27日(日)

対象 小学生を含む家族

参加者数 51名

###### (ウ) 活動内容

バスで本所を出発し、浄土平駐車場から一切経山登頂コースと鎌沼散策コースに分かれ家族ごとに登山を楽しんだ。

##### ク 秋のもみじウオーク

###### (ア) 目的

郡山自然の家周辺を歩きながら自然に親しみ健康増進を図る。

###### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和2年11月14日(土)

対象 小学生を含む家族・グループ

参加者数 23名

###### (ウ) 活動内容

本所を出発し安積の田園地帯、大槻緑道を經由し本所に戻る約12kmのロングコースと中間地点からのスタートする約6kmのショートコースに分かれ、家族で秋の散策を楽しんだ。

##### ケ 親子五色沼ハイキング(未来キッズ生き生き事業と併催)

###### (ア) 目的

家族や親子で秋の裏磐梯をトレッキングし、身近な自然に親しむ。

###### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和2年11月15日(日)

対象 小学生を含む家族・グループ

参加者数 25名（ほか講師3名）

###### (ウ) 活動内容

現地ガイドと共に親子で秋の裏磐梯五色沼自然探勝路（約3.6km）の散策を楽しんだ。

##### コ 手ぶらでも煮会(未来キッズ生き生き事業と併催)

###### (ア) 目的

野外炊飯等をとおして食についての意識を高め、家族の親睦を深める。

###### (イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和2年11月21日(土)・22日(日)

対象 小学生を含む家族・グループ

参加者数 40名

(ウ) 活動内容

家族ごとにいも煮会を楽しんだ。

サ 親子でハッピークリスマス&ハッピーニューイヤー

(ア) 目的

クリスマスお菓子の家作りやミニ門松作りをとおして、伝統文化を体験する機会とするとともに、家族との交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和2年12月13日(日)

対象 幼児から小学生とその家族

参加者数 80名(ほか講師4名、ボランティア19名)

(ウ) 活動内容

クリスマスお菓子の家作りとミニ門松作りに分かれて活動した。

シ 親子スケート教室

(ア) 目的

スケートについて、安全に滑る知識と技能を身につけ、家族や親子で楽しく活動する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年1月10日(日)

対象 幼児から小学生を含む家族

参加者数 14名(ほか講師1名)

(ウ) 活動内容

磐梯熱海アイスアリーナで講師からスケートの基本的な動きの指導を受け、自由滑走を楽しんだ。

ス バレンタインお菓子作り

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

セ わくわく！ファミリー冬のつどい

(ア) 目的

スキーや雪遊びを体験し冬のスポーツを楽しむとともに、家族の絆と交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年2月13日(土)・14日(日)

※14日は地震発生の為中止

対象 小・中学生とその家族

参加者数 19名(ほか講師1名、ボランティア1名)

(ウ) 活動内容

猪苗代スキー場でスキーの基本的な動きの指導を受け、個々の技量に応じた滑走を楽しんだ。

ソ 第18回郡山自然の家オープンデー

(未来キッズ生き生き事業と併催)

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年2月28日(日)

対象 一般

参加者数 107名

(ウ) 活動内容

アーチェリー、フィールド活動、アスレチック開放など本所の活動プログラムを楽しんだ。

タ ヨガ体験教室

(ア) 目的

ヨガをとおして、呼吸法、瞑想法を学び、精神を安定させることにより健康増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年2月28日(日)

対象 一般(中学生以上)

参加者数 21名(ほか講師2名)

(ウ) 活動内容

ヨガを学び、身体と心をリラックスし自分と向き合うことを深めた。

チ サザンピッククラブ感謝デー

(ア) 目的

本所サザンピッククラブ限定の企画を開催することでクラブ会員同士の親睦を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和3年3月14日(日)

対象 サザンピッククラブ会員

参加者数 5名

(ウ) 活動内容

コースを利用したオリジナル自然散策活動と森の標本箱で干支を作って楽しんだ。

**(3) 協力事業**

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止及び参加見合せ

**(4) 年間継続事業**

ア みどりの広場アスレチック&活動館開放します！

(ア) 目的

屋内施設とみどりの広場アスレチックを開放し、思い切り体を動かす機会を提供するとともに、体力の増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

a 期日 令和2年4月25日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和2年5月16日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和2年5月23日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和2年6月13日(土)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

令和2年6月27日(土) 参加者数3名

令和2年7月11日(土) 参加者なし

令和2年7月23日(水) 参加者数28名

- 令和2年11月7日(土) 参加者数6名  
 令和2年11月21日(土) 参加者数10名  
 令和2年12月5日(土) 参加者数7名  
 令和2年12月19日(土) 参加者数15名  
 令和3年1月23日(土) 参加者数13名  
 令和3年2月20日(土) 参加者数15名
- 対象 県中地区の特別支援学校、学級の幼児及び小学生とその家族
- b 期日 令和2年4月26日(日)  
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止  
 令和2年5月17日(日)  
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止  
 令和2年5月24日(日)  
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止  
 令和2年6月14日(日) 参加者数30名  
 令和2年6月28日(日)  
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止  
 令和2年7月12日(日) 参加者数36名  
 令和2年7月24日(金) 参加者数79名  
 令和2年11月8日(日) 参加者数44名  
 令和2年11月22日(日) 参加者数50名  
 令和2年12月6日(日) 参加者数39名  
 令和2年12月20日(日) 参加者数29名  
 令和3年1月24日(日) 参加者数45名  
 令和3年2月21日(日) 参加者数87名  
 令和3年3月14日(日) 参加者数62名

対象 県中地区の幼児及び小学生とその家族

(ウ) 活動内容

フィールドアスレチック、みどりの広場アスレチック、総合活動館、体育館開放

イ 未来キッズ生き生き事業

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用拡大事業と併催へ変更

ウ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

(ア) 目的

本所を利用し、子どもたちの健康の維持増進と体力の向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和2年12月1日(火)～令和3年3月12日(金)までの平日、9時～16時

対象 県中地区内の幼稚園・保育園

参加者数 264名

(ウ) 活動内容

体育館、活動館アスレチックを利用した運動

## 第16節 福島県会津自然の家

### 1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、令和2年度末で40年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

令和2年度の利用者数は、13,677人で、前年度を37,850人下回った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため企画事業や各種団体受入を中止したものの、企画事業の工夫や出前講座を積極的に実施することで、利用促進に努めることができた。

また、4つの重点目標を掲げ、その達成のため、誰もが利用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

#### (1) 職員組織

職名	人員
所長	1
主幹(兼)次長	1
主事	1
専門員	1
主任社会教育主事	1
社会教育主事	3
体験活動指導員	3
嘱託運転手	1
計	12

#### (2) 令和2年度重点目標と成果

利用者の満足度90%以上、新規利用者を全体の10%以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

【 】の数値は職員による自己評価の平均値

ア 利用者が満足感を持つことのできる活動を提供します。

(ア) 利用者のニーズに応じた「研修プログラム」の提供【3.58】

新たに活動プログラム集を作成し、学校団体から社会教育団体まで幅広い団体のニーズに応じたプログラムを提供することができた。

(イ) 施設開放等、地域参加型の「企画事業」の開催【3.58】

里山開放デーや会津版下町感謝デーなどの自然体験活動や家族がふれあえる企画事業の立案に努めた。

(ウ) 幅広い年齢層に対応した出前講座の推進【3.42】

学校、公民館など教育施設への出前講座を行い、子どもから高齢者まで楽しめる講座を提供することができた。

(エ) 魅力的な「企画事業」や「研修プログラム」の開発【3.50】

前年踏襲にとらわれず、企画事業において様々なプログラムを提供するとともに、利用者のニーズに応えられるよう創造的な事業の企画立案に努めた。

イ 生涯学習施設の拠点としてプログラムの提供や情報発信を行います。

(ア) 各関係機関との連携強化（事業のタイアップ）【3.67】

県の広報課や新聞社、広告会社等、様々な関係機関と連携しながら、新聞やラジオ、フリーペーパー等を利用し、事業の広報活動に努めた。

(イ) ホームページやフェイスブックを活用しての効果的な情報の発信【3.67】

タイムリーな話題を、時期を逃さずホームページにアップできるよう、担当を中心に全社員で更新に努めた。新たな利用者層にアプローチするために、フェイスブックを活用し、活動の様子や企画事業の案内に努めた。

(ウ) 地域や各団体への「研修プログラム」の提供【3.25】  
研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った活動をできるようにした。

(エ) ボランティアを育成する研修の開催と活動機会の提供【3.25】

大きな企画事業前にボランティアのつどいを実施し、ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めた。

ウ 安全・安心で好感度の高い活動や環境を提供します。

(ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・丁寧な接遇【3.75】

団体対応はもとより、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。

(イ) 感染症（新型コロナウイルス、ノロウイルスなど）への対策や予防徹底【3.67】

利用者の事前の健康チェック、来所時、活動時の検温と消毒、食堂の椅子の配置、消毒液の設置などあらゆる対策に努めた。

(ウ) 日常（事前、事中、事後）及び定期的安全・確認の徹底【3.75】

労務員も含めた全社員による定期安全点検と日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。

(エ) 施設内の「ごみゼロ」と迅速な施設の整備・修繕【3.50】

所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内の環境づくりに努めることができた。

エ 施設・財産を守ります。

(ア) 適切な会計処理とチェック体制の充実【3.83】

会計事務にかかる研修を受講したり、服務倫理委員会を定期的に開催したりして、会計事務の適正化を図った。

(イ) 事業等の整備と保管【3.83】

ア 研修プログラムや企画事業の電子データ化と指導手順のマニュアル化

研修プログラム、企画事業の電子データ化を行い、写真や動画ですぐに確認できるように整備した。

イ 活動や施設設備等のデータの累積とその有効活用  
活動プログラムの説明や注意事項、放送設備等の使用方法など動画データに保存し、活用できた。

(ウ) 「指定管理制度」導入に向けた引き継ぎの準備【3.33】

研修プログラムや企画事業等のマニュアル化や電子データ化の推進（指導部）や施設・設備の円滑な管理や会計事務等のマニュアル化並びに帳簿等の整理（総務部）に努めた。

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

### (2) 宿泊定員

ア 本館 26室 292名(うち1室障がい者用)  
イ ロッジ 10棟 150名  
ウ テント 10張 60名

### (3) 敷地面積

249,848.98㎡

### (4) 建物面積

ア 延床面積 5,893.8㎡  
(ア) 管理研修棟（鉄筋造2階建）  
(イ) 宿泊棟（鉄筋造2階建）  
(ウ) プレイホール（鉄筋造）  
(エ) アセンブリホール（鉄筋造）  
(オ) 機械棟（鉄筋造3階建）  
(カ) ロッジ（木造平屋建）  
(キ) 野外活動管理センター（鉄筋造）  
(ク) 炊飯場（鉄筋造）  
(ケ) 薪置場（コンクリートブロック造）  
(コ) 車庫（鉄筋造）  
(サ) 野外便所（鉄筋造）

### (5) 運動広場面積

8,500㎡

### (6) 設備備品等

ア フィールドアスレチック  
イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具  
ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR  
エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー  
オ ピアノ、オルガン  
カ 伝承遊びセット  
キ クラフト用具  
ク 各種オリエンテーリング用具  
ケ アルペンスキー  
コ 歩くスキー（クロスカンリースキー）

- サ そり
- シ スノーシュー
- ス 営火場（4か所）
- セ 諸活動コース
- ソ その他

### 3 利用状況

#### (1) 令和2年度の利用団体数

延べ利用者数 13,677人

内訳	学校教育団体	195団体	8,615人
	社会教育団体	60団体	2,062人
	ファミリー	17団体	93人
	企画事業	47団体	2,907人

### 4 企画事業

#### (1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

イ ステップアップセミナー

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ウ ボランティアのつどい

(ア) 目的

- a ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。
- b ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。
- c プログラム体験の機会を設け、各種オープンデー等に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：令和2年5月10日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- 第2回：令和2年9月20日(日) 16名参加

- b 高校生、一般

(ウ) 研修内容

- a ボランティア講座
- b 本所プログラム研修

#### (2) 教育研究事業

ア 高寺山歴史勉強会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

イ 通学キャンプ

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ウ 冬休み楽習宿

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### (3) 利用促進事業

ア 第16回高寺山山開き（会津坂下町との共催）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

イ 春のオープンデー（未来キッズ生き生き事業との併催）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ウ 夏の川遊びを楽しもう！

(ア) 目的

- a 暑い夏に川遊びを行い、自然に親しむとともに、地域の自然についての理解を深める。
- b 夏の暑さのもとでの様々な水辺の活動を通して、大自然の恵みや季節感を楽しむ豊かな心を育むと共に、水への安全な関わり方について身に付けさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和2年8月9日(日) 107名参加  
（ほか講師18名、ボランティア10名）

- b 幼児・小・中学生

(ウ) 活動内容

- a カヌー体験・川流れ体験
- b 水辺の生き物探し
- c “みがいて！”変身、ピカピカ石
- d 河原で水遊び

エ あったかふれあいまつり

（未来キッズ生き生き事業との併催）

(ア) 目的

- a 野外活動プログラムや各種体験などの自然や人とのふれあいを通して、心身のリフレッシュや体力増進を図る。
- b 県民に施設及び周辺環境を開放し、活動プログラムを体験することができる場を提供することにより、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深め、今後の集客につなげる。
- c 各団体と連携を図ることにより、体験活動の充実を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和2年10月11日(日) 388名参加

- b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

(ウ) 活動内容

- a 協力外部団体（木練がっこう、ツリーイング、秘密基地づくり、竹のおもち作り、水辺の生き物観察、あったかマルシェ、読み聞かせ、会津の民話）
- b 本所プログラム（野外クッキング、森遊び、カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこOL、昆虫OL、スタンプラリー）

オ 東松ウォーキング大会2020

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

カ 秋の自然観察会

(ア) 目的

- a 会津の秋のすばらしさを感じるとともに、自然への理解を深める。
- b 会津自然の家周辺のコース内で紅葉を主とした自然観察をしながら歩くことにより、自然のすばらしさを味わうとともに参加者相互の交流を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 令和2年11月14日(土) 80名参加  
(ほか講師9名)
- b 一般
- (ウ) 活動内容
  - a 自然観察
  - b 木工クラフト
- キ 会津坂下町感謝デー
  - (ア) 目的
    - a 日頃よりお世話になっている地元「会津坂下町」の町民の皆様を対象として、会津自然の家の活動プログラム(室内でのニュースポーツや自然体験活動)や食堂利用をとおして、当所への理解と利用促進を図る。
  - (イ) 期日、対象、参加者数
    - a 令和2年11月21日(土) 56名参加
    - b 会津坂下町民
  - (ウ) 活動内容
    - a 本所プログラム(UFO ゴルフ、森遊び、アスレチック、段ボール迷路、木工クラフト、ニュースポーツ)
- ク 三たてを味わう 新そばにチャレンジ
  - ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ケ 手作り森のクリスマス
  - (ア) 目的
    - a クリスマス用のクラフト作りや食事を味わうことを通して、家族間の交流を図る。
    - b 手作りの良さや自然素材の温かみを味わってもらうとともに、当所プログラムや施設についての理解を図り、今後の利用促進につなげる。
  - (イ) 期日、対象、参加者数
    - a 第1回：令和2年12月12日(土) 54名参加  
第2回：令和2年12月13日(日) 49名参加
    - b 県内の小・中学生とその家族対象
  - (ウ) 活動内容
    - a クリスマスケーキデコレーション
    - b クリスマスクラフト作成
- コ ウィンターフェスティバル
  - ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- サ クラフトキッズフェア
  - (ア) 目的
    - a 親子で工夫し、楽しみながらクラフト製作を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。
    - b クラフト製作の場を提供することにより、当所のプログラムについての理解を深める機会と利用機会の拡大を図るきっかけを作る。
  - (イ) 期日、対象、参加者数
    - a 令和3年3月7日(日) 187名参加  
(ほか講師1名、ボランティア14名)
    - b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

- (ウ) 活動内容
  - a もっくんクラフト
  - b 木の実アート
  - c ネイチャーフォトフレーム
  - d 紙でボウ&アロー
  - e 傘ぶくろロケット
  - f ペットボトルクラフト
  - g 特別企画 木ロボくん

#### (4) その他の企画事業

- ア 未来キッズ生き活き事業
  - (ア) 目的、対象
    - 県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、プレイリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。
    - 会津地方の12歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。
  - (イ) 名称、期日、参加者数
    - a 春のオープンデー・・・・・・・・・・前赴  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
    - b 会津自然の家里山開放デー①  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
    - c 会津自然の家里山開放デー②  
令和2年8月22日(土) 370名参加
    - d 会津自然の家里山開放デー③  
令和2年9月13日(日) 243名参加
    - e あったかふれあいまつり・・・・・・・・・・前赴  
令和2年10月11日(日) 388名参加
    - f そりすべり団体開放  
令和3年1月7日(木)～2月21日(日) 1,000名参加
    - g 雪遊びファミリーデー(ニュースポーツ開放デー)  
第1回：令和3年1月24日(日) 102名参加  
第2回：令和3年1月31日(日) 85名参加  
第3回：令和3年2月7日(日) 58名参加  
第4回：令和3年2月14日(日) 58名参加

## 第17節 福島県いわき海浜自然の家

### 1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校教育団体の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年4月1日に「公益財団法人いわき市教育文化事業団」と改称)を指定管理者として一部再開した。

以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、平成 23 年度から同 26 年度にかけて、本館周辺及び野外施設の放射線量低減措置を実施し、順次供用を再開した。しかし、山林部については、平成 29 年 3 月に冒険の森及びキャンプ場の除染を行ったが、一部で放射線量がいわき市の基準値まで低下していないこと、また、遊歩道や各種遊具などの再整備が必要であることから、フィールドアスレチックや冒険の森を利用した活動プログラムの再開はできていない。

海浜活動については、沿岸部の復旧状況に合わせて平成 25 年度から順次再開し、平成 30 年度に四倉漁港でいかだ乗り、カヤック乗り、ボディボードを再開したことで、全てのプログラムを再開することができた。海浜に隣接した施設としての特性を生かした海浜活動のプログラムは、会津及び中通り地方の学校教育団体だけでなく、地元のいわき地区の利用団体からも好評を得ている。

学校教育団体のうち、小学校の宿泊活動については、多くが 2 学期開始の 8 月下旬以降に変更となったため、9～10 月の月曜日の休所日を臨時開所して対応した。

年間の利用状況については、新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、281 団体（前年比△194 団体）、延べ利用者数 13,137 人（前年比△25,671 人）となった。

#### (1) 令和 2 年度重点目標と成果

震災の影響で未だに自然体験活動が制限されており、さらに新型コロナウイルス感染の影響で利用が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう引き続き次の目標に取り組んだ。

ア 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 青少年教育施設としての位置づけを明確にし、利用者への理解徹底を図るため、健全な青少年の育成を目的とした利用のあり方を検討しながら受け入れを実施した。学校教育団体へは、いわき市内の小・中学校長会へ本所の取り組みなどを積極的に情報提供し、周知と利用促進に努めた。また、生涯学習施設としての役割に鑑み、いわき市内の教育文化施設と連携しながら公民館への出前講座で体験活動を提供するなど、社会教育団体への利用促進を図った。

(イ) 利用団体の指導者への啓発的支援を通して、青少年の自主的自律的な心身の育成を図るため、学校教育団体及び社会教育団体の指導者向けに活動計画立案や活動プログラム体験などを取り入れた研修会を実施している。しかし、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修会を中止したことから、書面や電話等により、研修目的に沿った活動の提案や目的達成のための助言を行った。

(ウ) 利用団体へのオリエンテーション等を通して宿泊活動における生活指導を行い、共同生活の場における社会的集団的なルールの理解と定着を図った。

(エ) 企画事業の充実を図るため、提供プログラムの教育的効果や自然体験を多く取り入れたプログラムの開発について、所員が意見を出し合う機会を設けた。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加者数を限定しての事前予約としたが、市内の教育文化施設や市民団体と連携して屋外での体験活動や自然の素材を利用したクラフト体験を多く取り入れた。広報活動についても、指定管理者が管理受託する施設と連携し、効率的な広報に努めた。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 利用者の研修目的達成のため、団体の特性に合わせた活動プログラムの開発に取り組んだ。特に学校教育団体については、プログラムの教育的効果について再検討し、オリエンテーション等の内容の見直しを行った。また、利用が制限されている冒険の森のナイトハイクコースに代わり、多目的広場周辺に新たなナイトハイクコースを整備し、提供した。

(イ) あらゆる年齢層に対応するため、幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発と内容の充実を努めた。特に、低年齢層の団体向けに、雨天時のスポーツとして足取りバイクを取り入れた。

(ウ) アンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行った。プログラムについては自然の家に求められている体験活動について、既存の内容の見直しを随時行った。また、団体の自主性・主体性を尊重しながら、研修目的を達成できるよう、適切な支援方法について、所員研修を行いながら改善を進めた。

(エ) 誰もが安心して楽しく利用できる施設を目指し、活動前の施設の安全点検だけでなく、活動プログラムについても定期的に安全面での検証を行い、支援に取り入れた。特に海浜活動については、毎年シーズン前に所員研修で安全な支援方法の確認を行っている。さらに、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら、活動を支援した。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 施設内外の安全点検を定期的実施し、事故の未然防止を徹底した。特にトリムランドは利用前に所員が点検を行うとともに、年 1 回の公園施設製品安全管理士による点検を実施し、安全管理に努めた。用具についても、利用前に消毒と不具合の有無についての確認を徹底した。

(イ) 学校教育団体及び社会教育団体への事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底を図っている。しかし、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染感染防止のため研修会を開催することができなかったため、「利用ガイド」等の事前配布で安全な活動を促した。さらに、受付やオリエンテーション、活動支援においても安全のための適切な

助言や指導を行った。

(ウ) 自然災害及び事故発生時の緊急事態等に対応するため危機管理マニュアルを作成しており、緊急時の対応及び連絡体制を明確にすることで、情報共有の徹底と危機管理体制の充実に努めた。マニュアルは毎年見直しを行っており、令和2年度は新型コロナウイルス感染症に関する項目を追加した。

(エ) 本所の危機管理体制と安全対策を周知するため、海浜活動時等の自然災害等での避難方法、新型コロナウイルス感染症に関する対策等についてマニュアル化し、利用者に配布するとともに受付時にも説明を行った。また、放射線量について、施設全体と活動エリアである海岸、さらに現在使用休止中の山林部についても、定期的に測定を実施し、データをホームページで公表した。

(オ) 利用者がより良い環境の中で安全に安心して活動できるよう、地域の消防署、交番とも連携して安全対策を徹底した。また、所外での活動に備えて2台のAEDをレンタルし、年一回の救急救命訓練を実施するなど、安全対策の充実に努め、消防法及び消防計画に則った消防訓練を実施した。

エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。

(ア) 利用者へのアンケート結果を参考に、プログラム内容や支援への意見・要望などを分析しながら業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援及び管理運営に努めた。

(イ) 指定管理者である公益財団法人いわき市教育文化事業団の理事会及び評議員会や、法人が管理受託している施設全体の施設長会議などにおいて、計画的かつ定期的な評価を受け、改善点の明確化を図り、満足度の高い施設運営に努めた。

(ウ) 自然体験活動にふさわしい環境整備を心がけ、利用団体の活動に支障がないよう施設の維持保全に努めた。食事提供業務、施設等維持保全関連業務の再委託については、指名競争入札により経費の削減を図りながら、受託業者と連携して利用者へのサービス向上に努めた。

オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。

(ア) ボランティア養成講座を年4回開催し、ボランティアの意義について理解を深めるための講座及びグループワーク、自然体験活動支援に必要な知識と技術を習得する実技研修を実施した。ボランティア養成講座には、社会人だけでなく、いわき市内の高校生及び大学生が参加しており、社会教育や生涯学習につながる体験の場を提供することができた。規定の講座修了後には支援ボランティアとして企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

(イ) 環境ボランティアによる所内美化活動を通年で実施したほか、海浜活動を実施する舟戸海岸・四倉漁港の清掃活動を年1回行い、地域に根ざした施設づくりに努めた。

(ウ) 地域の公民館及び教育文化施設等と社会教育に関する情報を共有し、スポーツ団体や漁業関係者との連携、協力を得て、企画事業等で様々なプログラムを提供した。また、地域のまちづくり活動へ協力することで、各種団体との連携強化に努めた。

## (2) 職員組織

職名	人員
所長	1
次長	1
主任指導員	1
主査	1
指導員	3
教育指導専門員	1
体験活動指導員	5
運転手	2
環境整備員	1
事務補助員	2
計	18

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

### (2) 宿泊定員

- ア 本館定員 300名（和室28室）
- イ ロッジ定員 160名（10棟）
- ウ テント定員 100名（25張）

### (3) 敷地面積

350,171 m<sup>2</sup>

### (4) 建物面積

ア 延床面積 6,696.97 m<sup>2</sup>

#### (ア) 中心施設

本館（宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等）  
体育館

#### (イ) 野外施設

管理棟、ロッジ、便所等

### (5) 野外活動施設面積

- ア つどいの広場 7,000 m<sup>2</sup>
- イ 多目的広場 8,890 m<sup>2</sup>
- ウ 自然観察園 4,050 m<sup>2</sup>
- エ みんなの広場 4,700 m<sup>2</sup>

## (6) 設備備品等

### ア 体育館

(バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面(バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート2面、卓球台3台、ピアノ1台、キンボール ほか)

### イ 野営場

(野外炊飯場、キャンプ用品一式、冷蔵庫 ほか)

### ウ 野外活動設備

(フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、トリムランド、営火場5か所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース ほか)

### エ 多目的広場

(ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール ほか)

### オ その他

(視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、足けりバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、マイクロバス ほか)

## 3 利用状況

### (1) 令和2年度利用者数

延べ利用者数 13,137人

内訳	学校教育団体	147団体	9,674人
	社会教育団体	92団体	2,180人
	ファミリー	7団体	71人
	企画事業	35団体	1,212人

## 4 企画事業

### (1) 研修会事業

#### ア 学校教育団体指導者事前研修会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

活動計画については、資料を送付し、電話・書面等により調整を行った。

#### イ 社会教育団体指導者事前研修会(活動プログラム研修会)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

活動計画については、資料を送付し、電話・書面等により調整を行った。

#### ウ ボランティア養成講座

##### (ア) 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和2年7月12日(日) 参加者数 7名
- 令和2年9月27日(日) 参加者数 8名
- 令和2年11月22日(日) 参加者数 6名
- 令和2年12月20日(日) 参加者数 8名
- ・対象 高校生、大学生、一般

##### (ウ) 内容

実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で、高校生及び大学生の参加が減少した。

## (2) 利用促進事業

### ア 春のオープンデー(未来キッズ生き生き事業)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### イ 遊ぼう!初夏の海で

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### ウ 夏休み海浜何でもチャレンジ!(未来キッズ生き生き事業)

##### (ア) 目的

中止となった春のオープンデーの代替として実施。施設を地域の人々に広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解と利用促進を図る。また、子どもたちが、ボランティアスタッフや地域団体とふれ合うことで、豊かな人間性や生きる力の育成を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和2年8月22日(土)
- ・対象 一般
- ・参加者数 104名(ほか講師10名、ボランティア8名)

##### (ウ) 内容

定員100名の予約制で実施。ファミリーゴルフ、マウンテンバイクなどのスポーツ体験で身体を動かし、貝殻ストラップのクラフト体験、水鉄砲作りの昔遊び体験、いわき市考古資料館の協力による弓矢体験などを楽しんだ。

### エ スポーツフェスティバル(未来キッズ生き生き事業)

##### (ア) 目的

子どもから大人まで一緒に様々なスポーツを楽しみながら、体力向上や健康維持などへの意識向上を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和2年10月11日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 82名(ほか講師7名、ボランティア6名)

##### (ウ) 内容

定員100名の予約制で実施。雨天のため屋内でのプログラムのみとなったが、スラックライン、フロアカーリング、ヨガ教室などを楽しみ、健康への意識を高めることができた。

### オ 秋のオープンデー(未来キッズ生き生き事業)

##### (ア) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解を深めるとともに利用促進を図る。また、子どもたちが、ボランティアスタッフや地域団体とふれ合うことで、豊かな人間性や生きる力の育成を図る。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年10月25日(日)
  - ・対象 一般
  - ・参加者数 184名(ほか講師9名、ボランティア16名)
- (ウ) 内容
- 定員200名の予約制で実施。ファミリーゴルフ、マウンテンバイク、スラックラインなどのスポーツ体験で身体を動かし、貝殻ストラップ、万華鏡などのクラフト体験、いわき市アンモナイトセンターの協力によるジオード(水晶)探しなどを楽しんだ。また、野外炊飯(カレー作り)、海浜レストランなどで食事を楽しんだ。
- カ ふれあいオータムキャンプ
- (ア) 目的
- 自然のすばらしさや人とふれ合う喜びを体得し、協調性・社会性を身につけ、自立心を養う。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年11月7日(土)・8日(日)
  - ・対象 小学生(5・6年生)
  - ・参加者数 21名(ほかボランティア5名)
- (ウ) 内容
- 2日間の日帰りで行った。二ツ箭山登山、野外炊飯(豚汁、さつまいもご飯)、クラフト体験などを行い、自然体験や交流活動を通して参加者同士の親睦を深め、社会性や自立心を育んだ。
- キ 親子のつどい
- (ア) 目的
- 親子と一緒に季節にふさわしい体験活動を行うことで、家族の絆を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年12月13日(日)
  - ・対象 幼児から小学生とその家族
  - ・参加者数 61名(ほかボランティア3名)
- (ウ) 内容
- 親子と一緒に、クリスマスのオーナメントやリース作りなどの季節にふさわしいクラフト体験を楽しんだ。クラフトの材料は、自然環境の豊かさを体感できるように本所周辺で採集した自然の素材を用いた。
- ク 冬を楽しもう!～スキー教室～
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ケ クラフトのつどい
- (ア) 目的
- 創作活動の場を提供し、ものづくりの楽しみや生涯学習の振興を図るとともに、自然の素材を生かしながらオリジナル作品を作ることで、地域の豊かな自然環境を体感する。併せて、本所への理解及び利用促進を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和3年2月14日(日)
- ・対象 一般
  - ・参加者数 58名(ほかボランティア4名)
- (ウ) 内容
- 定員80名の予約制で実施。貝殻とトンボ玉のストラップ作り、木製のネームブロック作り、ストーンアート、貝の絵ろうそく作りなどの創作活動を楽しみ、トリムランドで身体を動かした。幅広い年齢層に対応するため体験の種類を増やした。
- コ 森の音楽会
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- (3) その他の企画事業**
- ア 未来キッズ生き生き事業
- (ア) 目的
- 本所のアスレチック施設等を利用して、身体を動かすプログラムを提供し、県民の体力向上の促進を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年11月15日(日) 参加者数 92名(ほか講師8名)
  - 令和3年1月17日(日) 参加者数 43名
  - 令和3年2月7日(日) 参加者数 67名(ほか講師7名)
  - ・対象 幼児から小学生とその家族
- (ウ) 内容
- 各回定員100名の事前予約制で実施。トリムランドで身体を動かし、マウンテンバイク、サイクリング、投げ釣り遠投などを楽しんだ。また、ロープ登り、凧あげなどの親子で一緒に活動できるプログラムを取り入れた。
- イ 未来キッズ生き生き事業番外編「クラフト&スポーツ」
- (ア) 目的
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、体を動かす機会が減少している子どもたちに、本所のアスレチック施設等で身体を動かすプログラムや自然の素材を利用したクラフト活動の機会を提供する。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年12月26日(土) 参加者数 31名
  - 令和3年1月30日(土) 参加者数 27名
  - 令和3年2月21日(日) 参加者数 32名
  - 令和3年2月28日(日) 参加者数 29名
  - ・対象 幼児から小学生とその家族
- (ウ) 内容
- 各回定員30名の事前予約制で実施。羽子板、万華鏡、竹のおもちゃ作りなどのクラフト活動を楽しみ、トリムランドで身体を動かした。万華鏡作りでは、参加者が屋外を散策しながら自然の素材を探すよう工夫し、自然の中で親子の絆を深める機会を提供した。

#### (4) 連携事業

ア ウィンターフェスティバル 主催:会津自然の家

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加中止

イ 親子自然探訪教室 主催:いわき市アンモナイトセンター

##### (ア) 目的

親子でいわき市内の各所に出向き、様々な自然観察を行う。

##### (イ) 期間、対象及び参加者数

- ・期日 平成29年9月22日(火)
- ・対象 小学生とその保護者
- ・参加者数 26名

##### (ウ) 内容

秋分の日に本所のつどいの広場で星空を観察し、秋の夜空について学んだ。いわき市内の教育文化施設と連携することで、参加者に本所の活動を広報することができた。

ウ 出前講座(全3件)

##### (ア) 目的

本所の活動内容の紹介と学校教育団体及び社会教育団体等への利用促進を図るため、出前講座を行う。

##### (イ) 期間、対象及び参加者数

- a 渡辺公民館  
令和2年7月25日(土) 参加者数 25名
- b 四倉公民館  
令和2年8月1日(土) 参加者数117名
- c 鹿島公民館  
令和2年9月12日(土) 参加者数 45名

##### (ウ) 内容

いわき市内の公民館で、自然体験活動やクラフト体験の出前講座を実施した。